

IV. 調査結果の分析

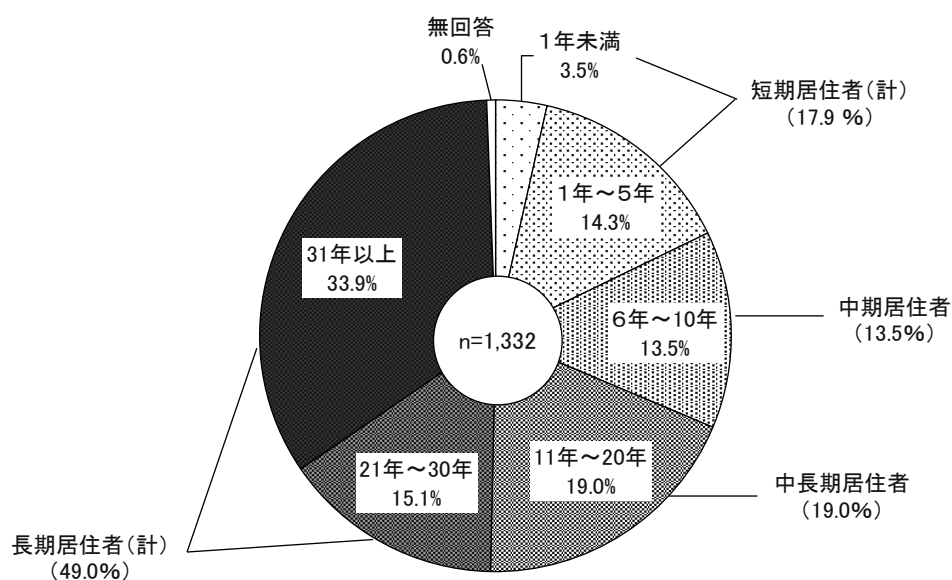
1 区の施策および評価について

(1) 居住年数

◇『長期居住者』が約5割

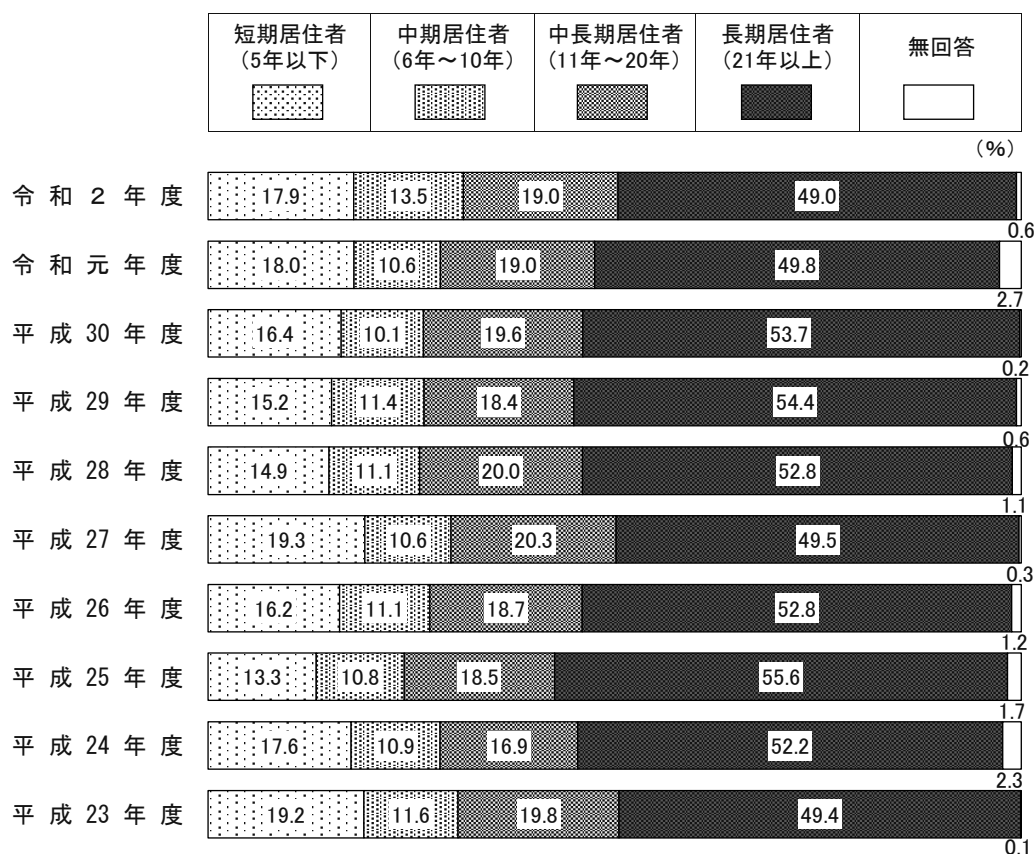
問1 あなたは、練馬区にお住まいになって何年になりますか。

図1-1-1 居住年数



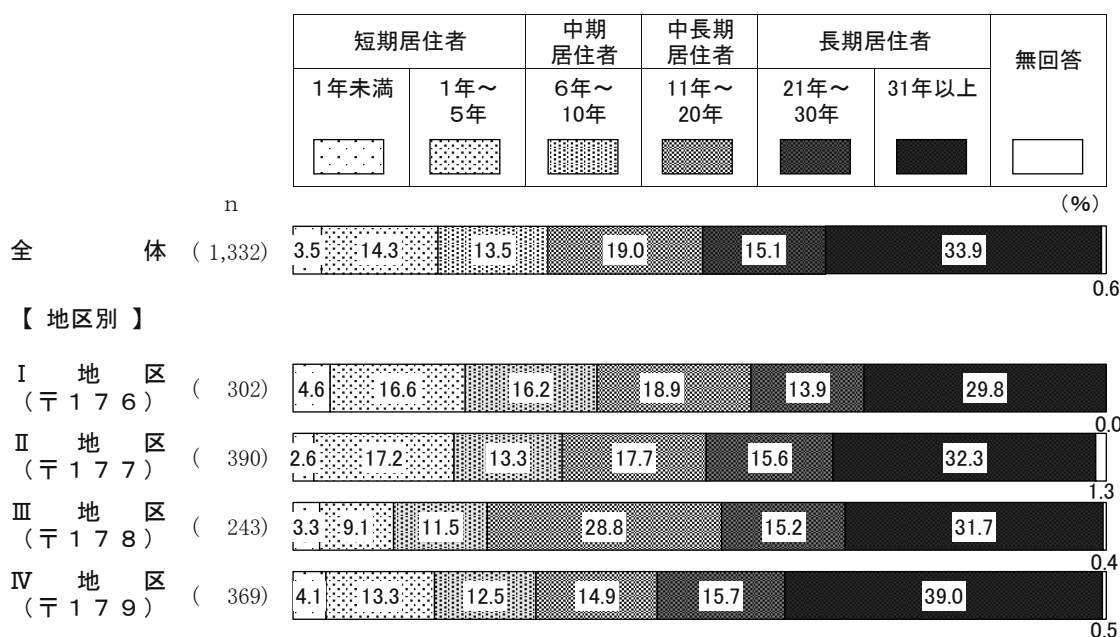
練馬区に住んで何年になるか聞いたところ、「31年以上」(33.9%)と「21年～30年」(15.1%)を合わせた『長期居住者』(49.0%)が約5割となっている。また、「11年～20年」の『中長期居住者』(19.0%)が約2割、「6年～10年」の『中期居住者』(13.5%)が1割前半、「1年～5年」(14.3%)と「1年未満」(3.5%)を合わせた『短期居住者』(17.9%)が2割近くとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 居住年数—過年度比較



過去の調査と比較すると、『長期居住者（21年以上）』は前回調査（令和元年度）から0.8ポイント減少しているが、過去9年と同様、最も多くなっている。（図 1-1-2）

図 1-1-3 居住年数—地区別



地区別にみると、『長期居住者（21年以上）』はIV地区（〒179）で5割台半ばと最も多くなっている。『短期居住者（5年以下）』はI地区（〒176）で2割を超えて多くなっている。

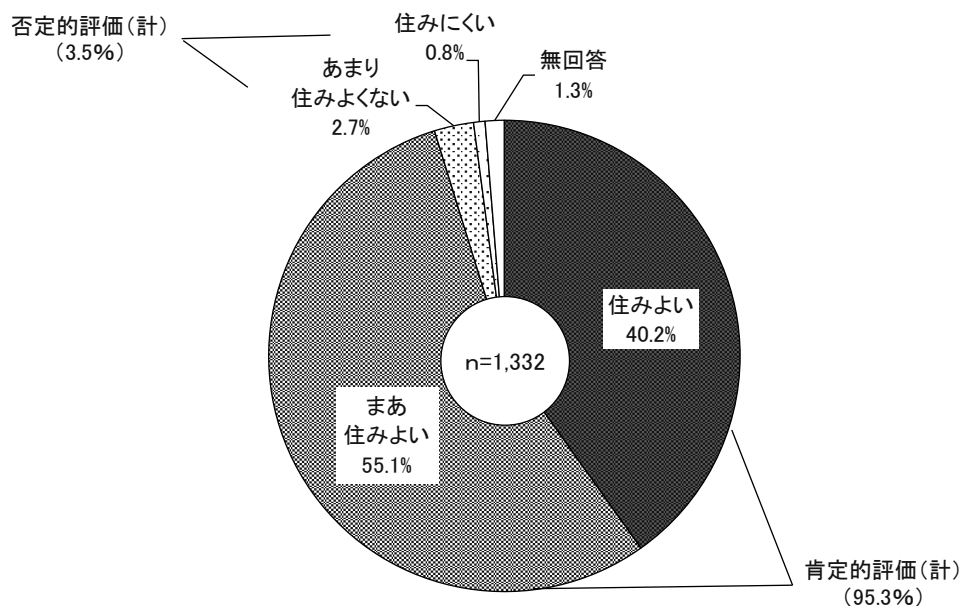
（図 1-1-3）

(2) 住みごち

◇『肯定的評価』が9割台半ば

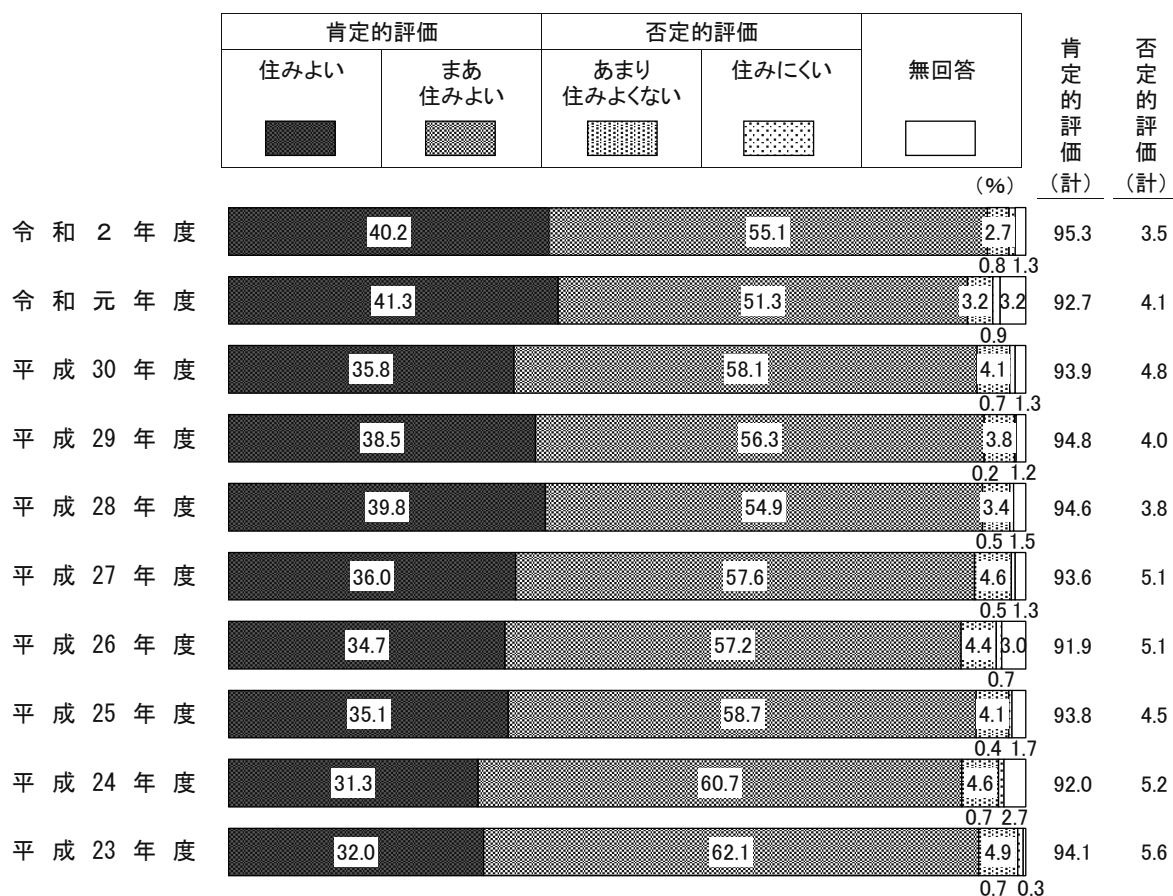
問2 あなたは、練馬区の住みごちをどう思いますか。

図1-2-1 住みごち



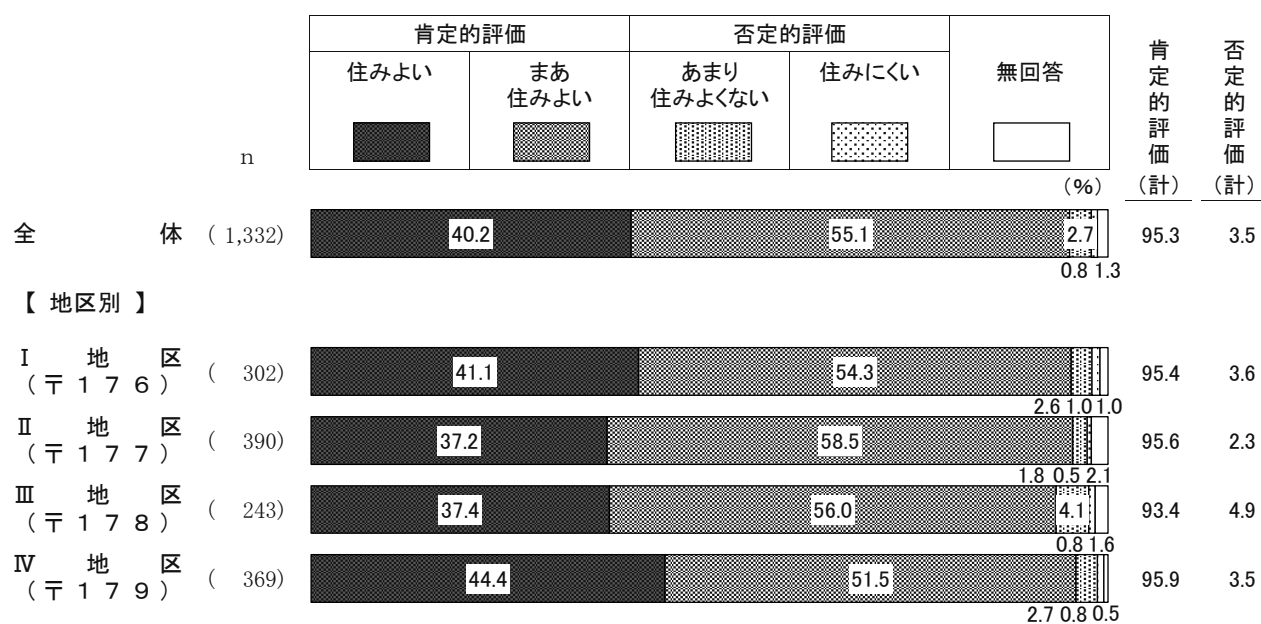
練馬区の住みごちを聞いたところ、「住みよい」(40.2%)が約4割、「まあ住みよい」(55.1%)が5割台半ばとなっており、この2つを合わせた『肯定的評価』(95.3%)が9割台半ばとなっている。一方、「あまり住みよくない」(2.7%)、「住みにくい」(0.8%)を合わせた『否定的評価』(3.5%)は1割を下回っている。(図1-2-1)

図1-2-2 住みごち—過年度比較



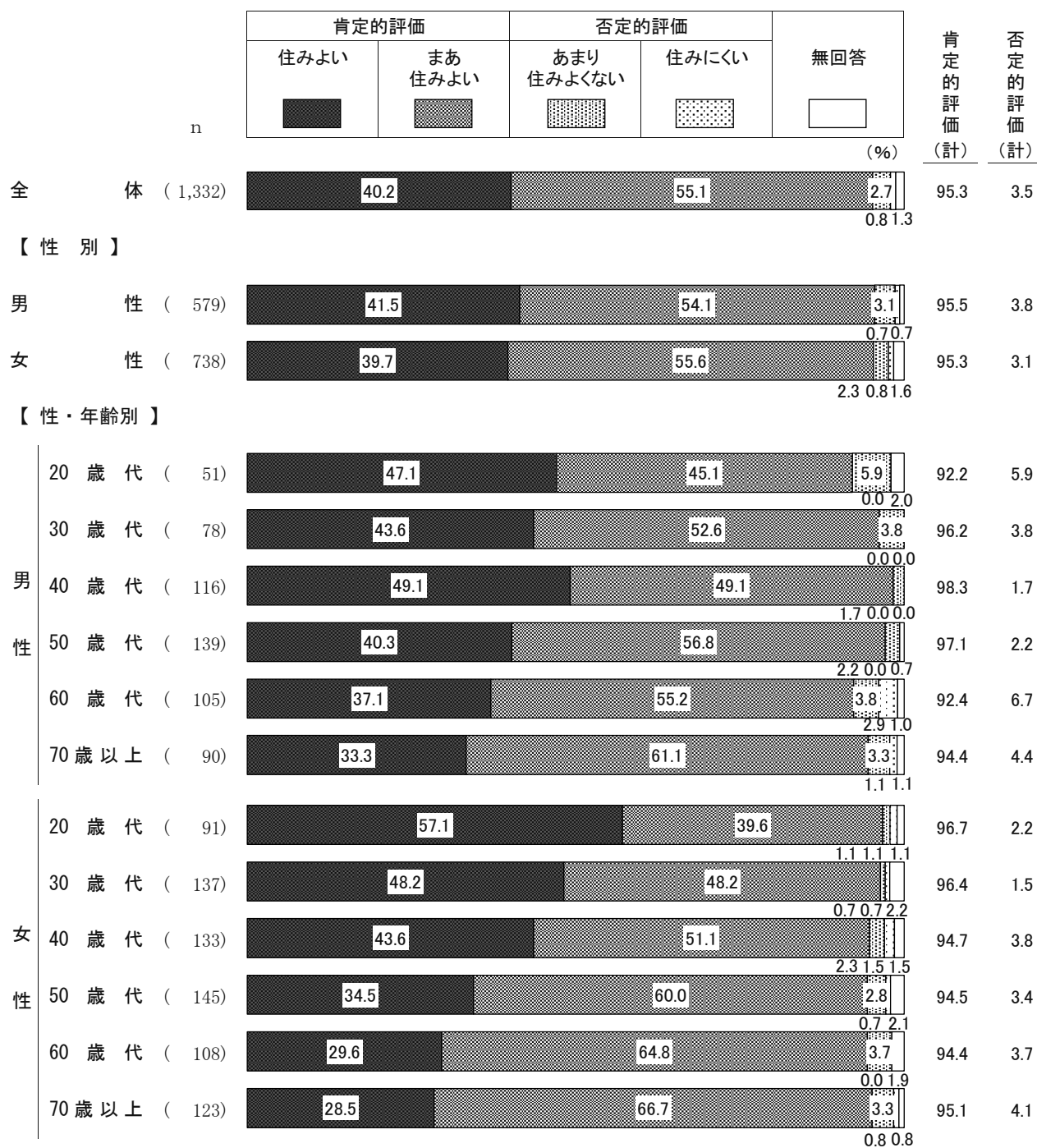
過去の調査と比較すると、『肯定的評価』は平成23年度以降いずれも9割台となっている。(図1-2-2)

図1-2-3 住みごち—地区別



地区別にみると、『肯定的評価』はすべての地区で9割台となっている。(図1-2-3)

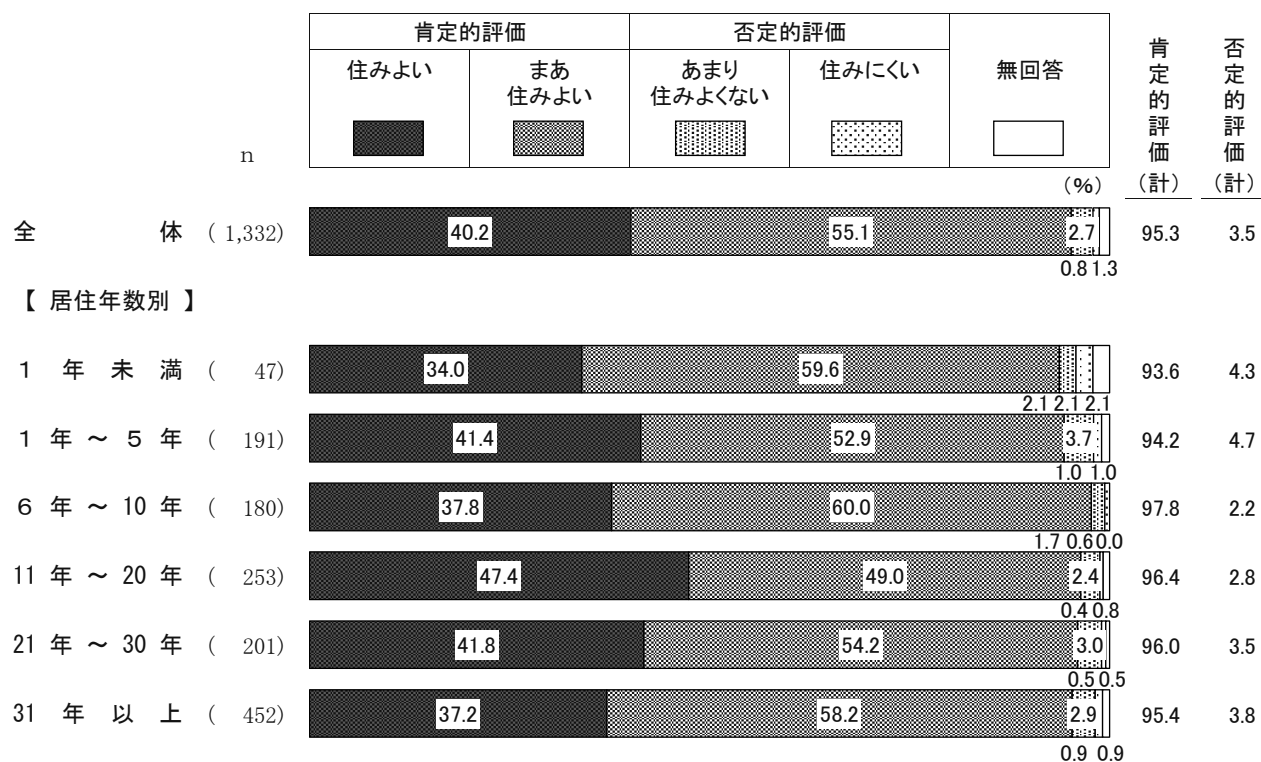
図1-2-4 住みごち—性別／性・年齢別



性別にみると、男女ともに『肯定的評価』は9割台半ばとなっている。

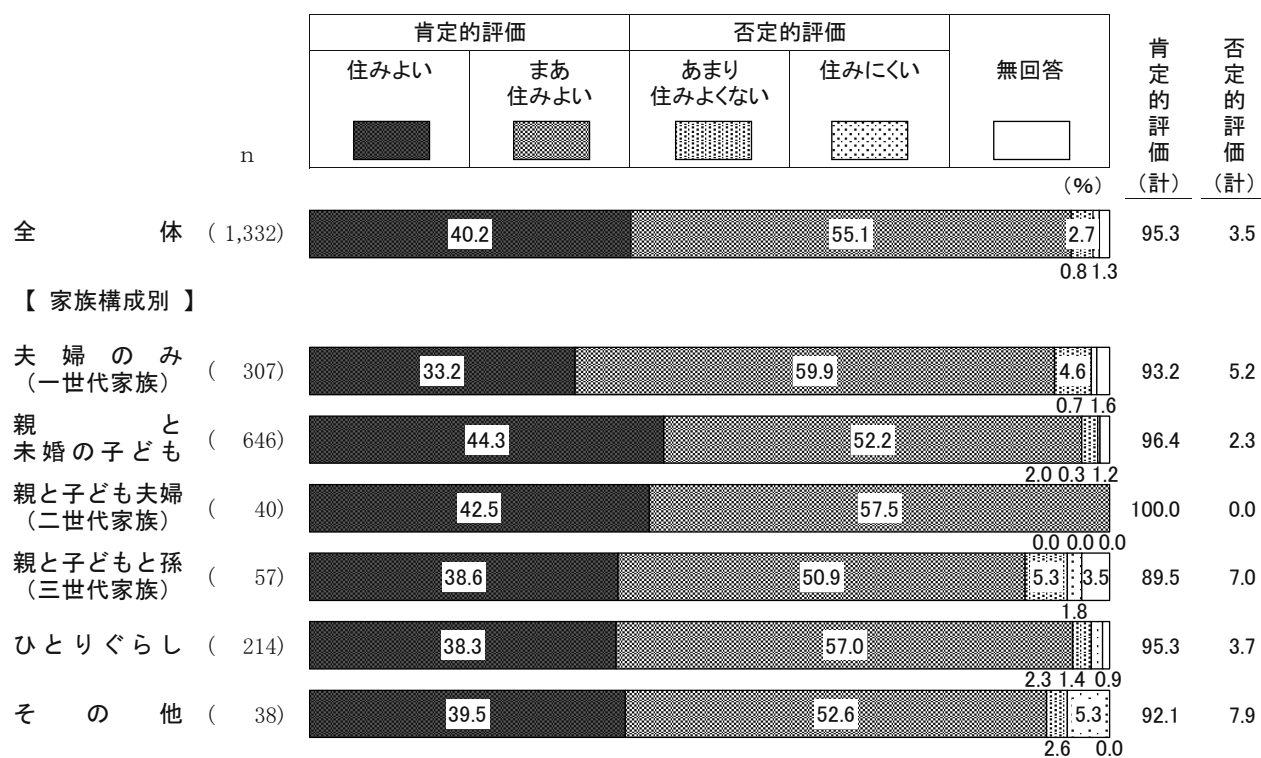
性・年齢別にみると、「住みよい」は女性20歳代で6割近くと多くなっている。『肯定的評価』は男性40歳代、男性50歳代で10割近く、男性20歳代・60歳代で9割台前半となっているほかは、9割台半ばとなっている。(図1-2-4)

図1-2-5 住みごち—居住年数別



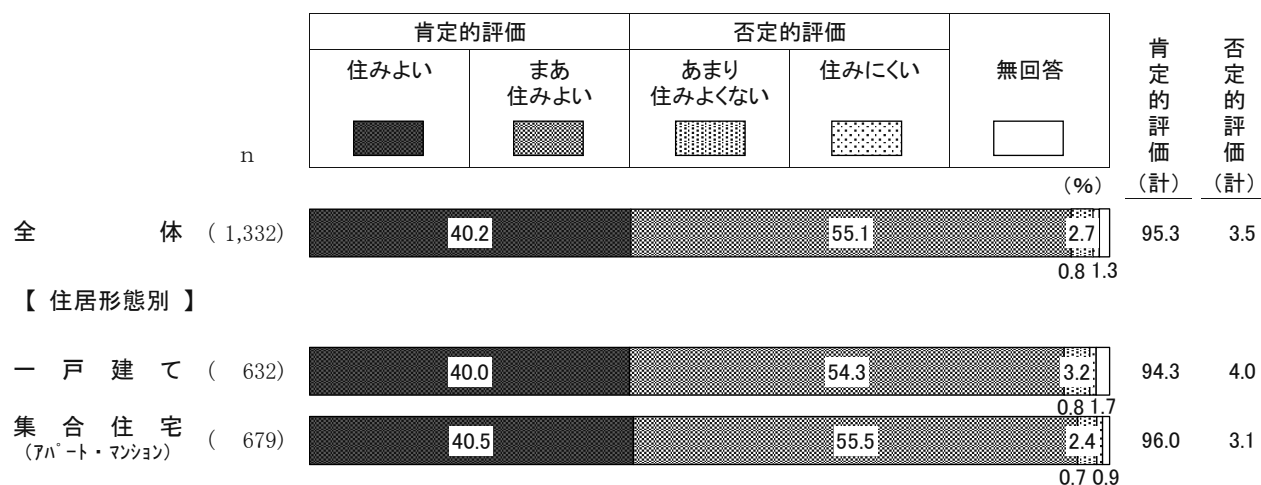
居住年数別にみると、『肯定的評価』はすべての居住年数で9割台となっている。
(図1-2-5)

図1-2-6 住みごち—家族構成別



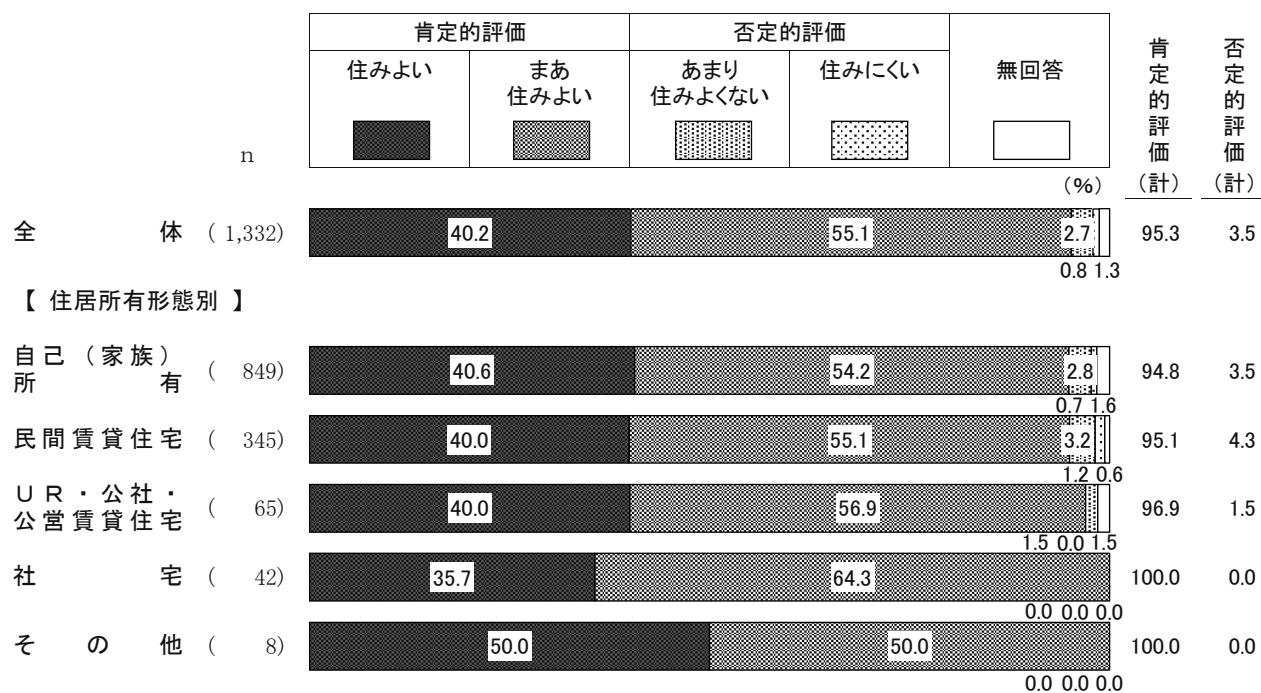
家族構成別にみると、『肯定的評価』は親と子ども夫婦（二世世代家族）で10割、親と子どもと孫（三世世代家族）で約9割となっている。（図1-2-6）

図1-2-7 住みごち—住居形態別



住居形態別にみると、「住みよい」は一戸建て、集合住宅（アパート、マンション）ともに約4割となっている。（図1-2-7）

図1-2-8 住みごち—住居所有形態別



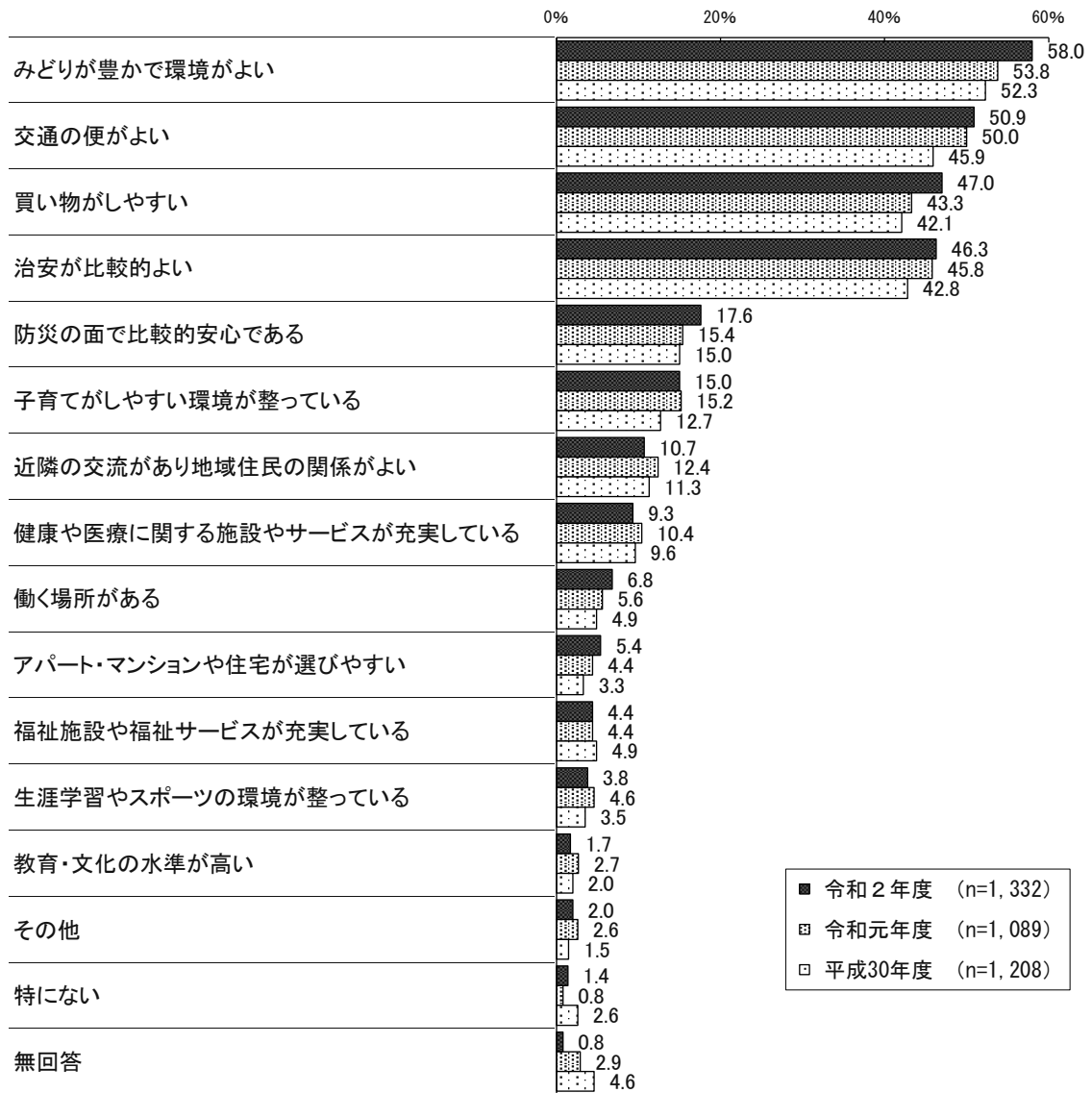
住居所有形態別にみると、『肯定的評価』は社宅で10割となっているほかは、9割台半ばとなっている。（図1-2-8）

(3) 練馬区が住みよいと感じるところ

◇「みどりが豊かで環境がよい」が6割近く

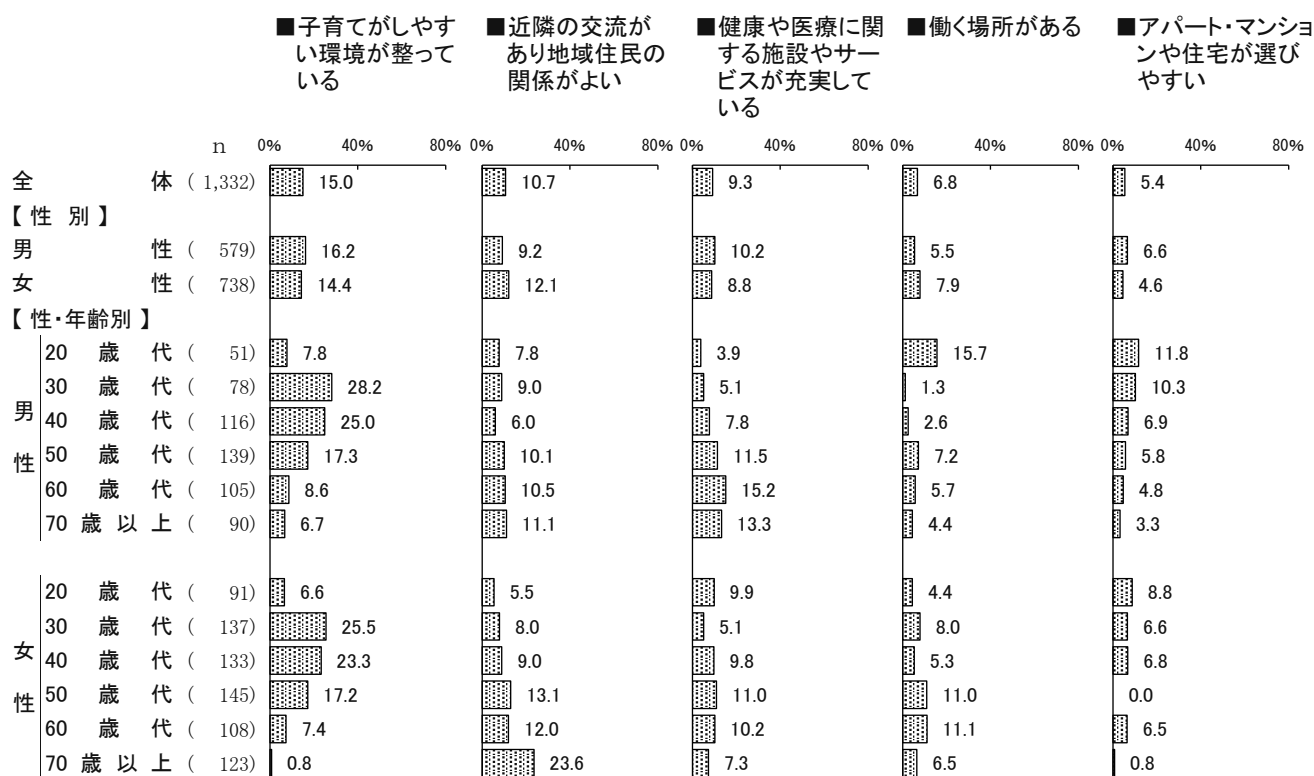
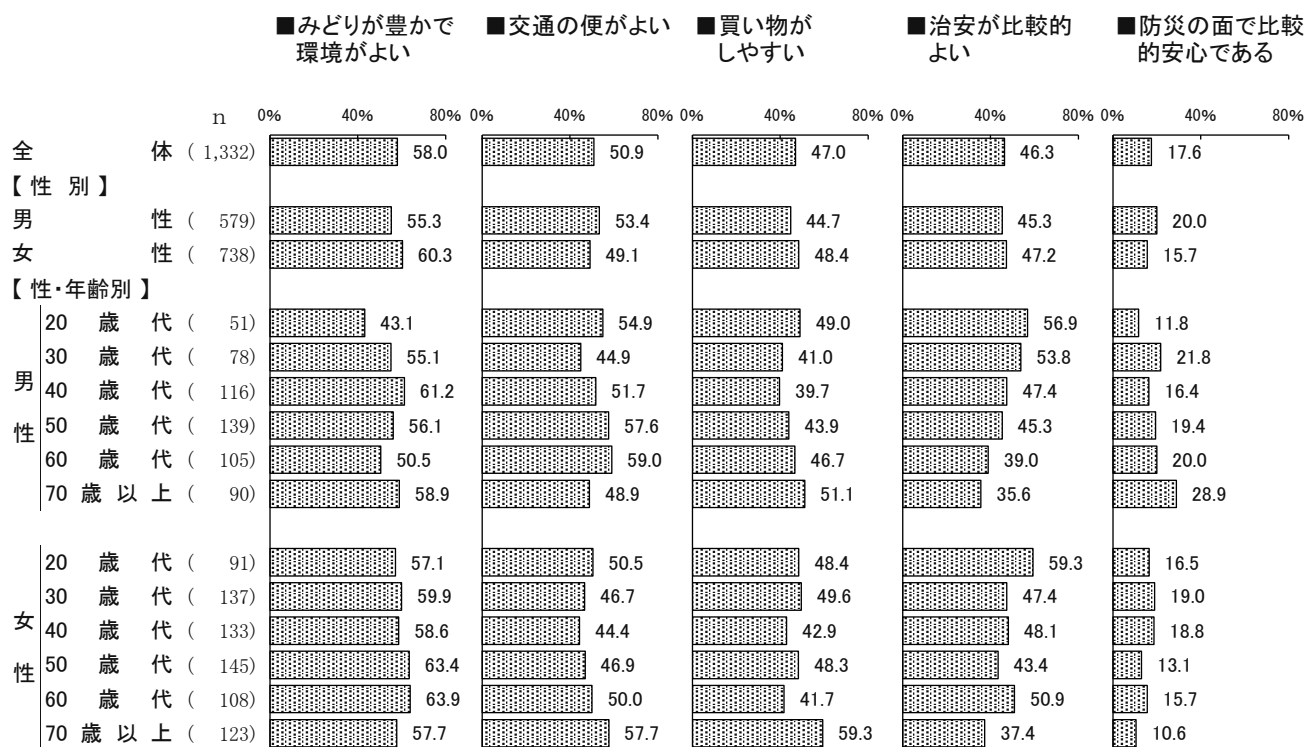
問3 あなたが、練馬区が住みよいと感じるところは、どんなところですか。
次の中から住みよいと感じることを選んでください。(〇は3つまで)

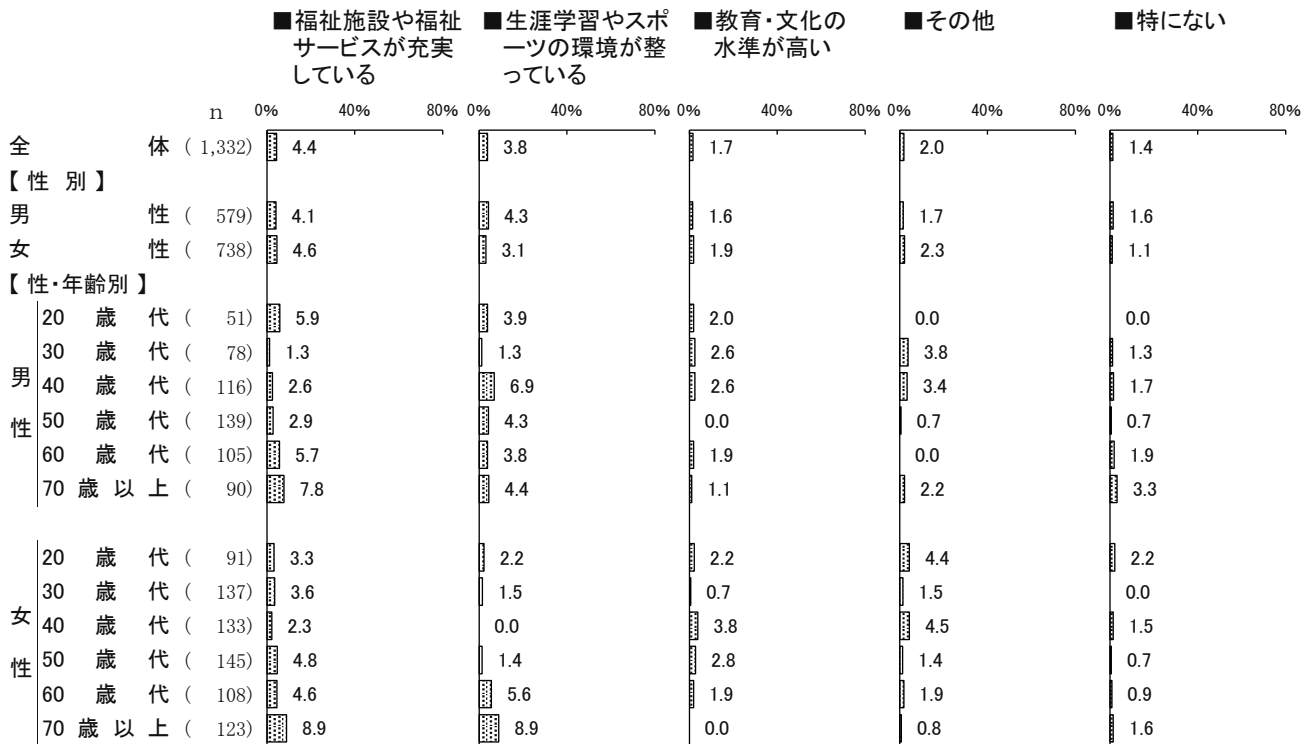
図1-3-1 練馬区が住みよいと感じるところ



練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(58.0%)が6割近くと最も多く、次いで「交通の便がよい」(50.9%)、「買い物がしやすい」(47.0%)、「治安が比較的よい」(46.3%)、「防災の面で比較的安心である」(17.6%)などの順となっている。(図1-3-1)

図1-3-2 練馬区が住みよいと感じるところ—性別／性・年齢別

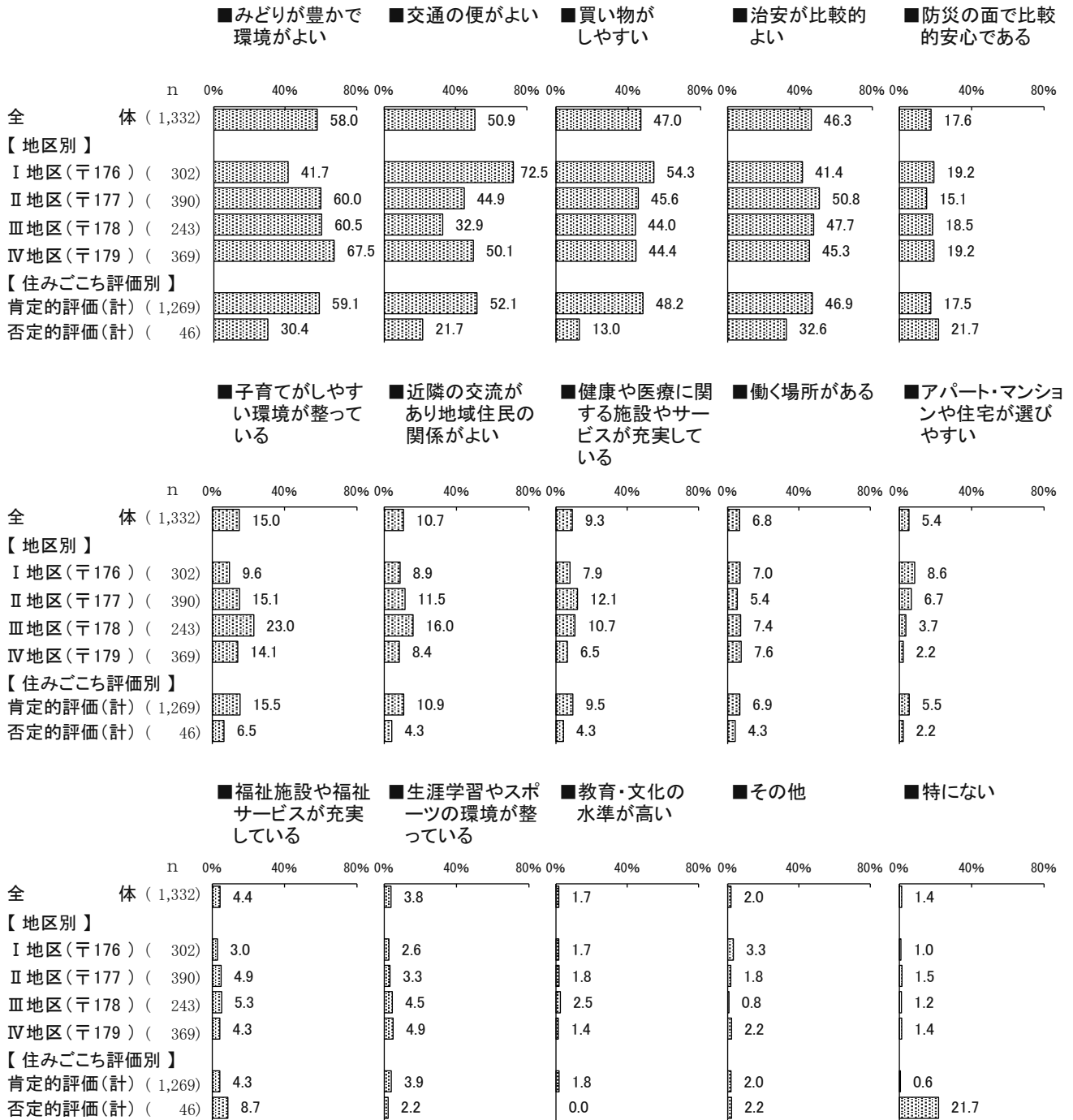




性別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」は女性の方が5.0ポイント、「交通の便がよい」、「防災の面で比較的安心である」は男性の方が4.3ポイント、「買い物がしやすい」は女性の方が3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」は男性40歳代、女性50歳代・60歳代で6割を超えて多くなっている。「交通の便がよい」は男性60歳代で約6割、男性50歳代、女性70歳以上で6割近く、「買い物がしやすい」は女性70歳以上で約6割、「治安が比較的よい」は女性20歳代で約6割と多くなっている。(図1-3-2)

図1-3-3 練馬区が住みよいと感じるところ—地区別／住みごち評価別



地区別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」はIV地区(〒179)で7割近く、「交通の便がよい」はI地区(〒176)で7割を超えて多くなっている。「買い物がしやすい」はI地区(〒176)で5割台半ば、「治安が比較的よい」はII地区(〒177)で約5割と多くなっている。

住みごち評価別にみると、「買い物がしやすい」で35.2ポイント、「交通の便がよい」で30.4ポイント、「みどりが豊かで環境がよい」で28.7ポイント、「治安が比較的よい」で14.3ポイントなど、ほとんどの項目で『肯定的評価』が『否定的評価』より高くなっている。

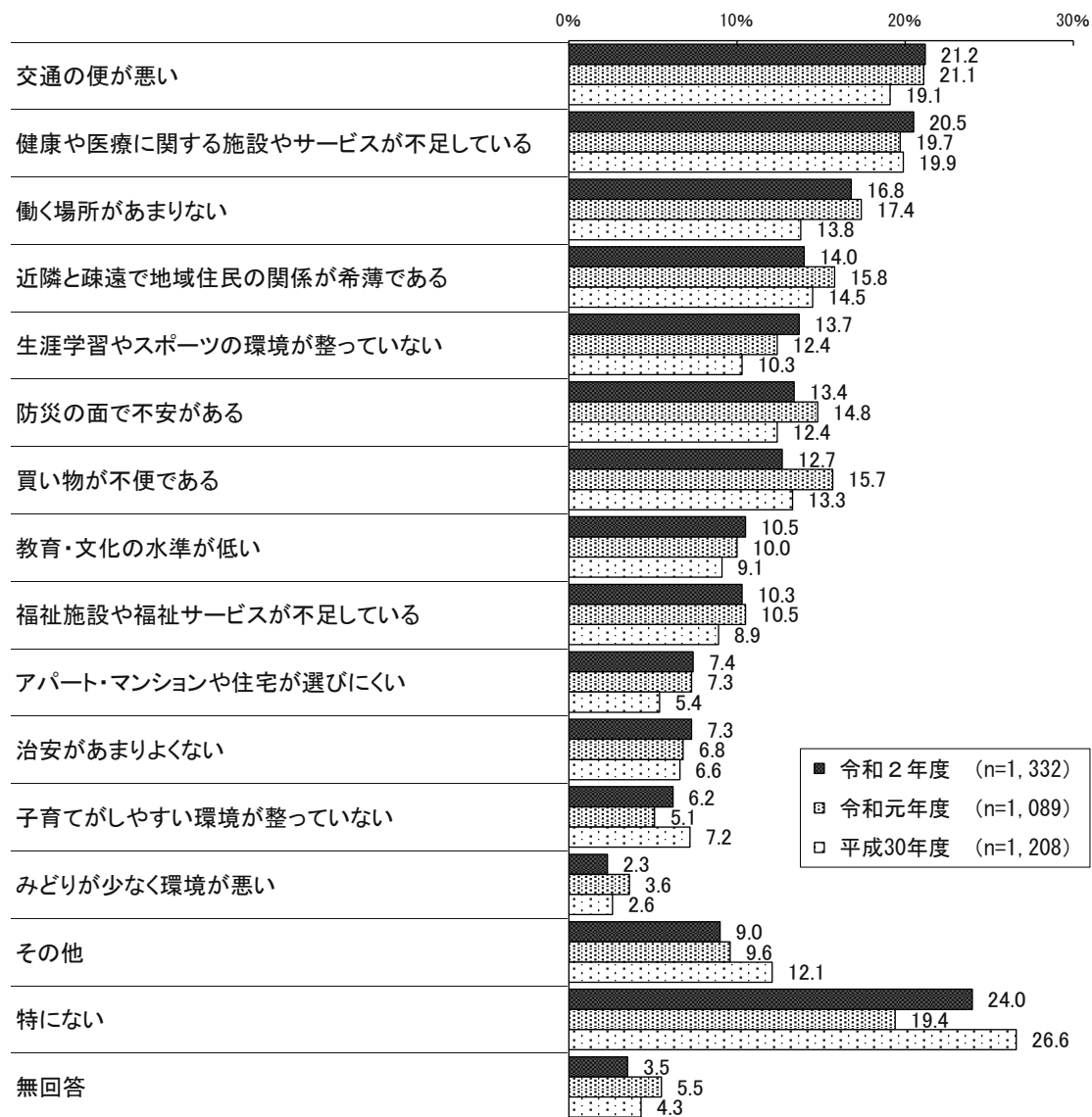
(図1-3-3)

(4) 練馬区が住みにくいと感じるところ

◇「交通の便が悪い」が2割を超える

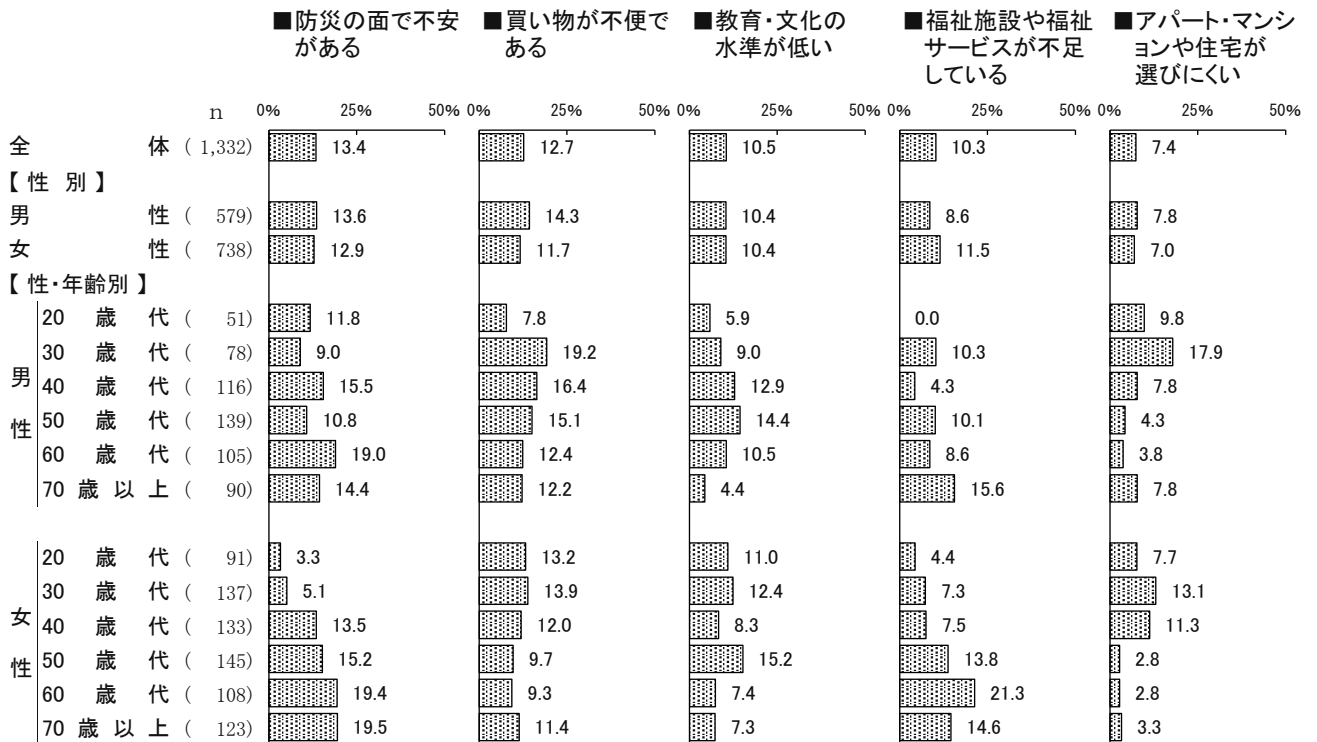
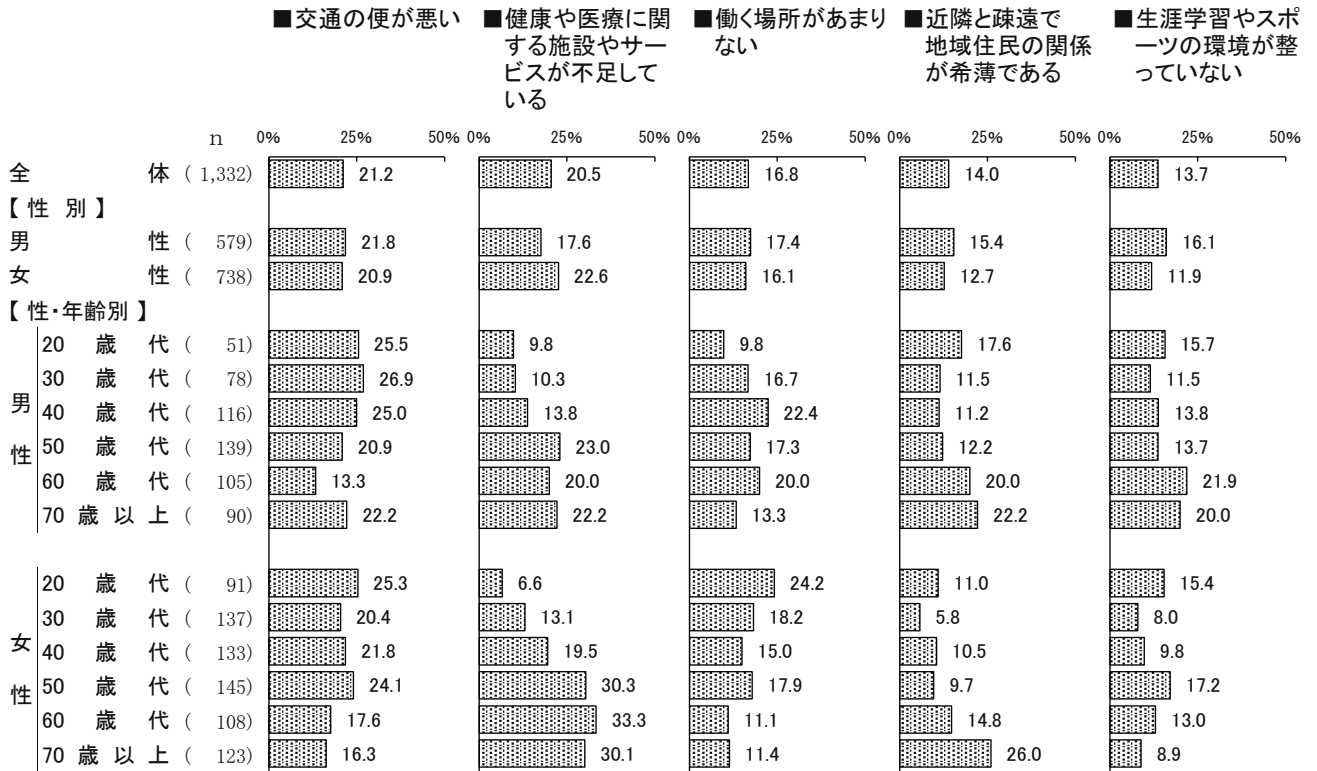
問4 反対に、あなたが、練馬区が住みにくいと感じるところは、どんなところですか。次の中から住みにくいと感じることを選んでください。(〇は3つまで)

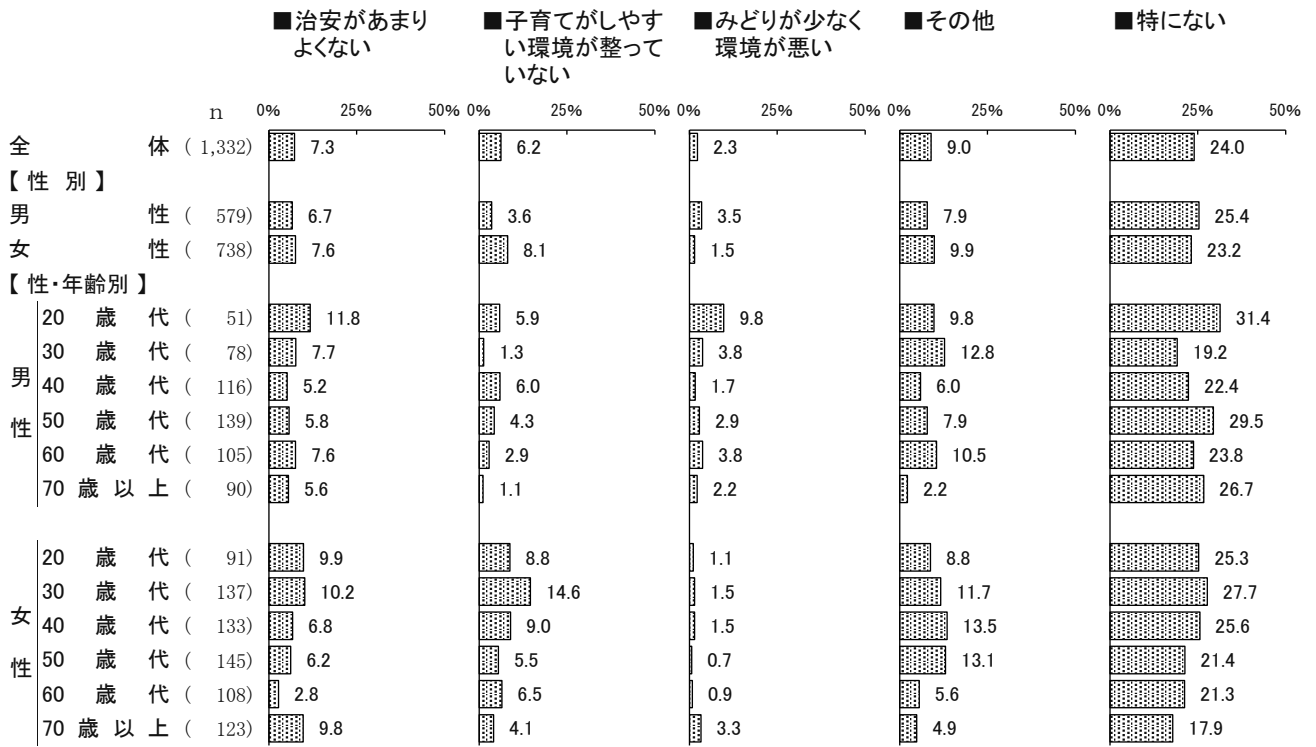
図1-4-1 練馬区が住みにくいと感じるところ



練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」(21.2%)が2割を超えて最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(20.5%)、「働く場所があまりない」(16.8%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(14.0%)、「生涯学習やスポーツの環境が整っていない」(13.7%)などの順となっている。(図1-4-1)

図1-4-2 練馬区が住みにくいと感じるところ—性別／性・年齢別

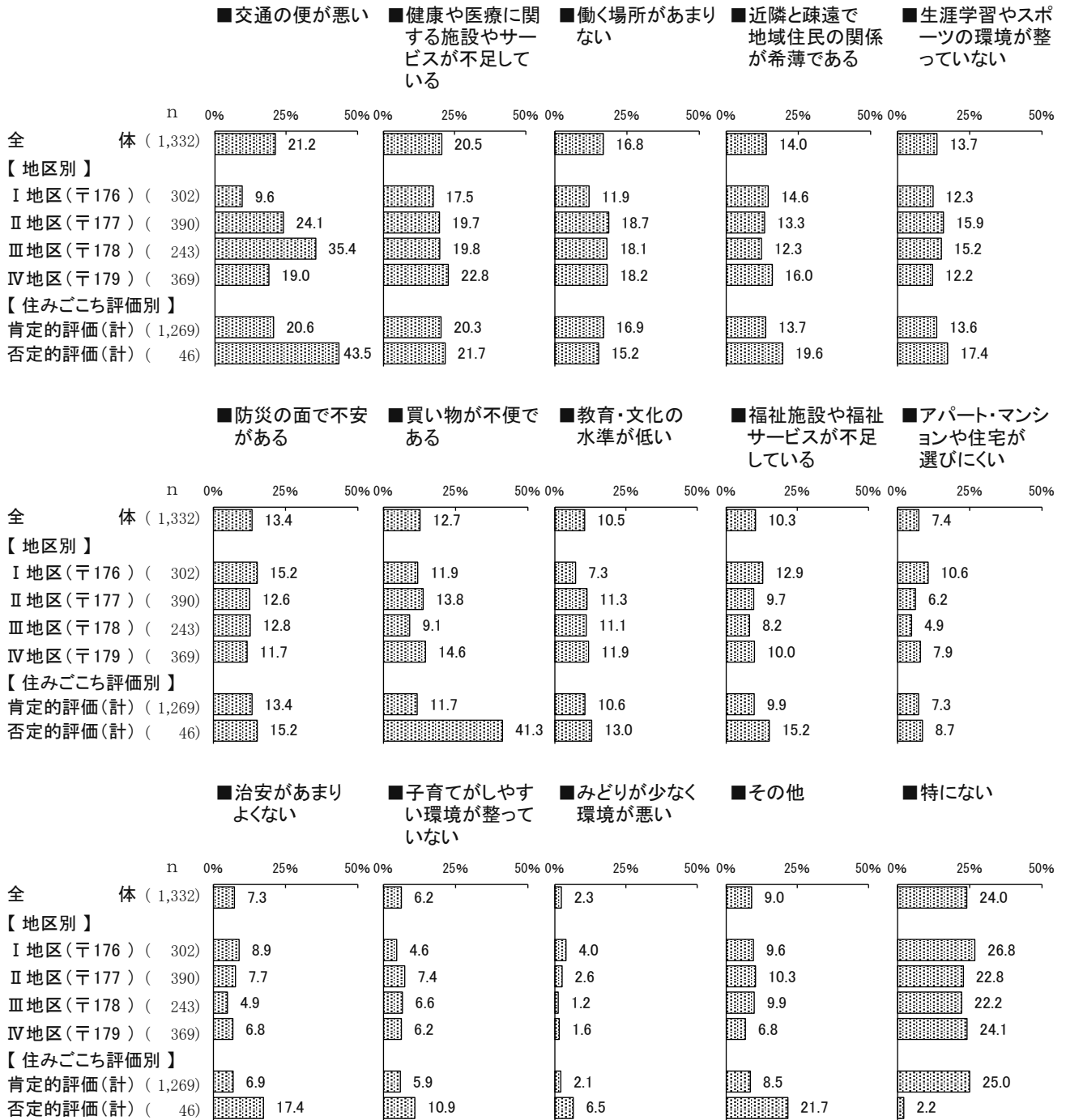




性別にみると、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」は女性の方が5.0ポイント、「子育てがしやすい環境が整っていない」は女性の方が4.5ポイント、「生涯学習やスポーツの環境が整っていない」は男性の方が4.2ポイント、「福祉施設や福祉サービスが不足している」は女性の方が2.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別にみると、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」は女性60歳代で3割を超え、女性50歳代・70歳以上で約3割と多くなっている。「働く場所があまりない」は女性20歳代で2割台半ば、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」は女性70歳以上で2割台半ばと多くなっている。(図1-4-2)

図1-4-3 練馬区が住みにくいと感ずるところ—地区別／住みごち評価別



地区別にみると、「交通の便が悪い」はIII地区（〒178）で3割台半ばと多くなっている。

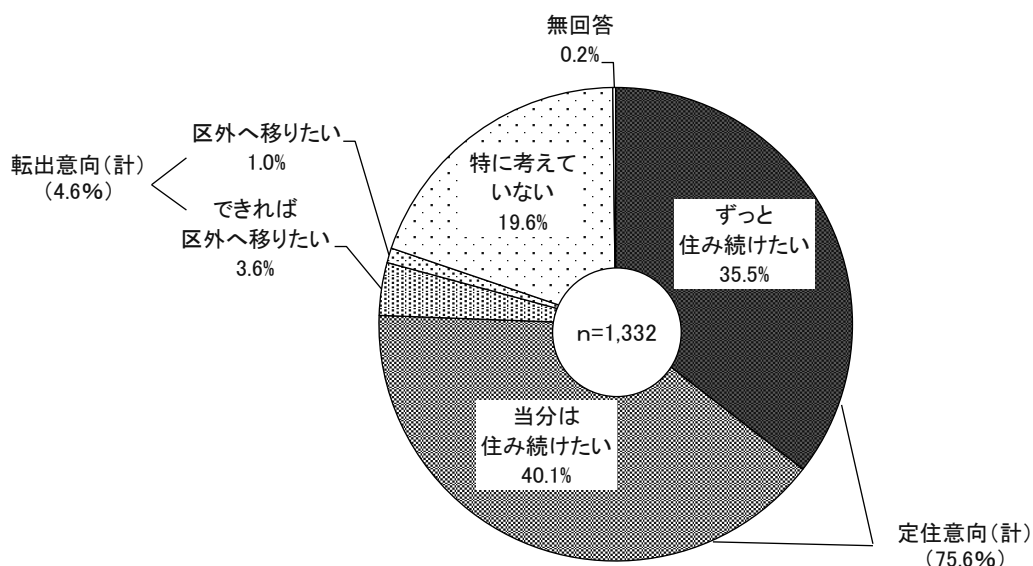
住みごち評価別にみると、『否定的評価』は『肯定的評価』より「買い物が不便である」で29.6ポイント、「交通の便が悪い」で22.9ポイント、「治安があまりよくない」で10.5ポイント高くなっている。（図1-4-3）

(5) 定住意向

◇『定住意向』が7割台半ば

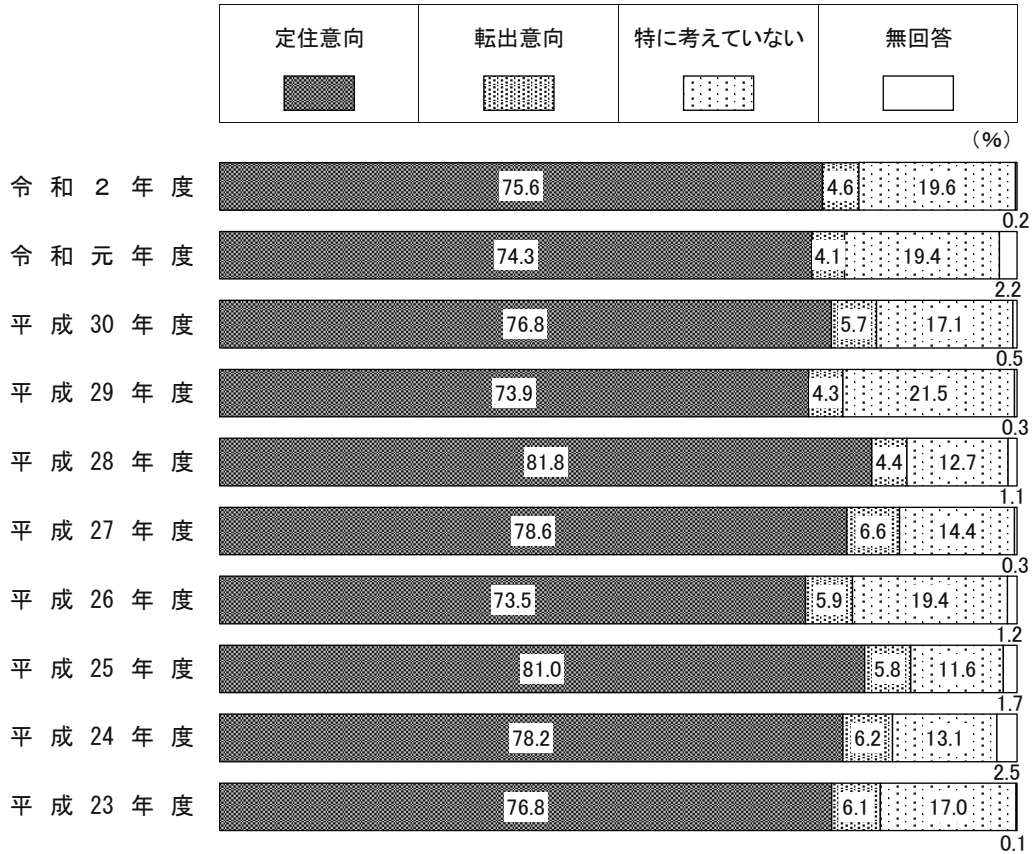
問5 あなたは、これからも引き続き練馬区に住みたいと思いますか。

図1-5-1 定住意向



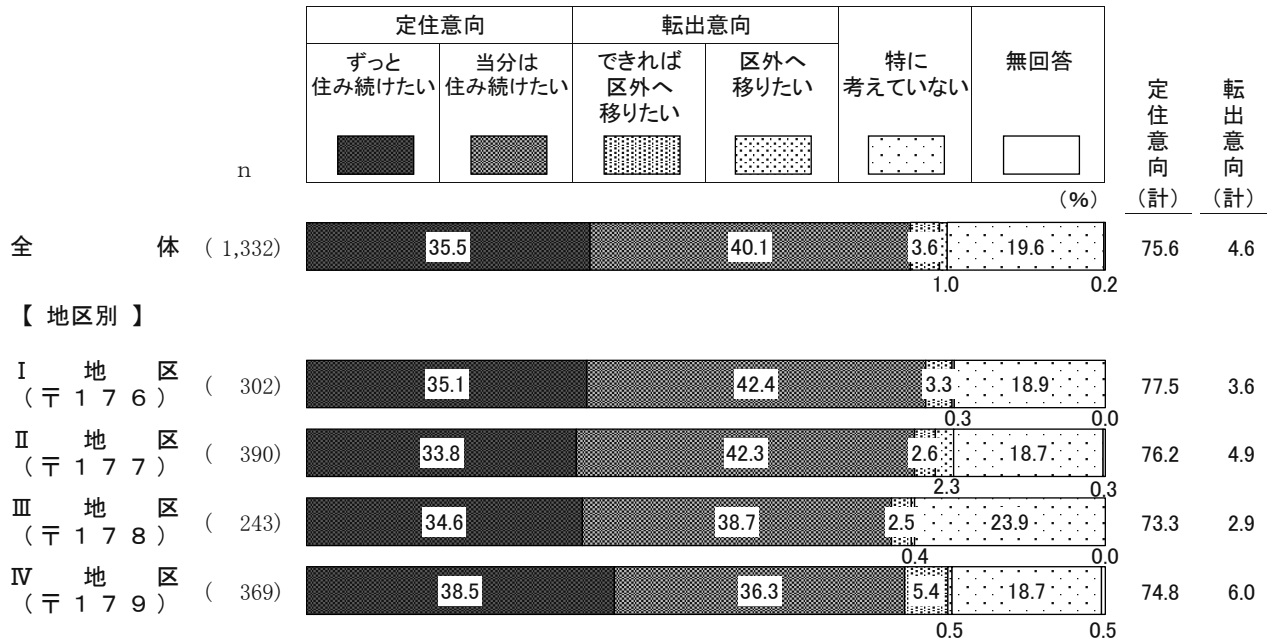
これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住みたい」(35.5%)と「当分は住みたい」(40.1%)を合わせた『定住意向』(75.6%)が7割台半ばとなっている。一方、「できれば区外へ移りたい」(3.6%)と「区外へ移りたい」(1.0%)を合わせた『転出意向』(4.6%)は1割を下回っている。(図1-5-1)

図 1-5-2 定住意向一過年度比較



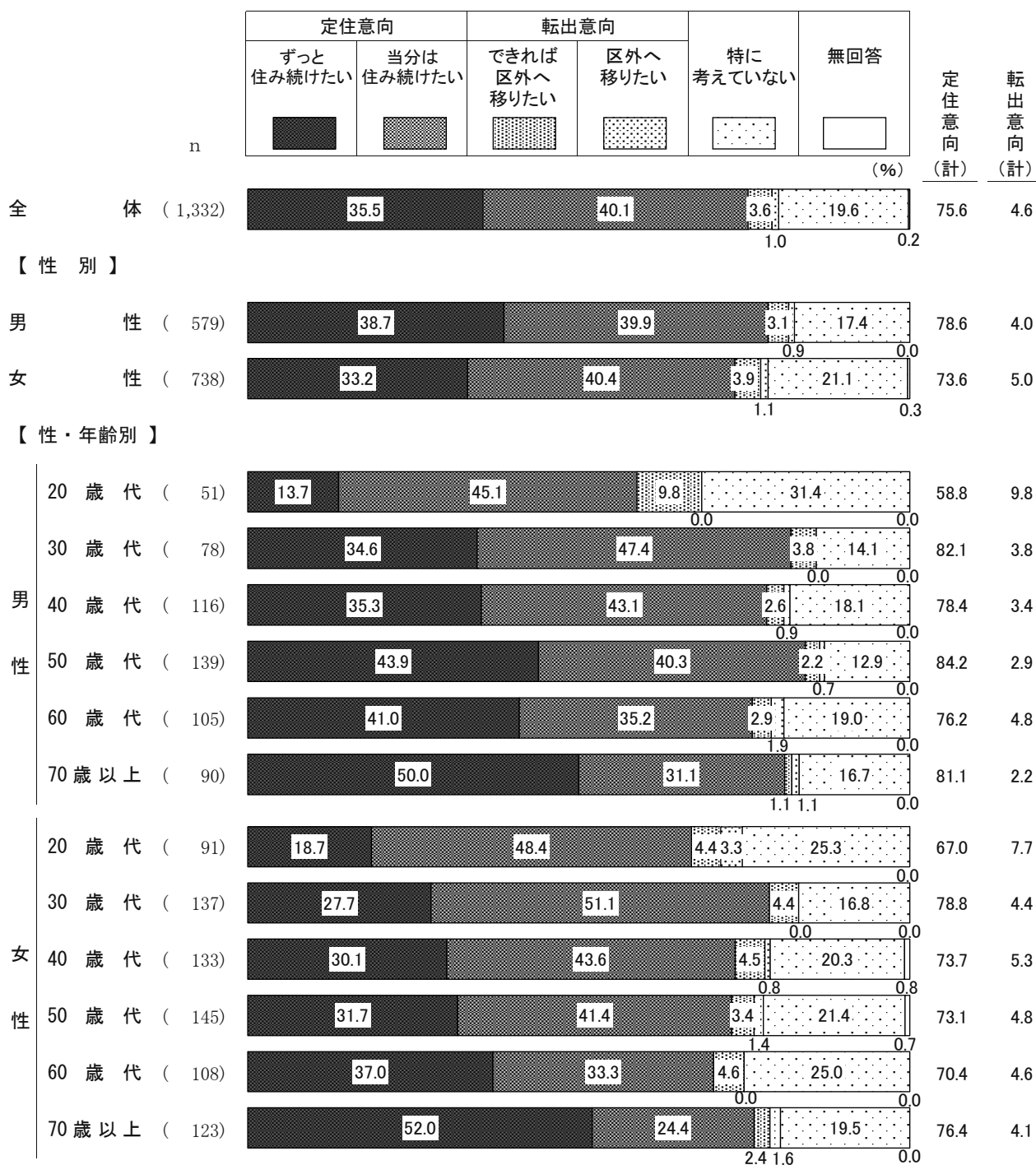
過去の調査と比較すると、『定住意向』は前回調査（令和元年度）より1.3ポイント増加している。（図1-5-2）

図 1-5-3 定住意向一地区別



地区別にみると、「ずっと住み続けたい」はIV地区（〒179）で4割近くと多くなっている。（図1-5-3）

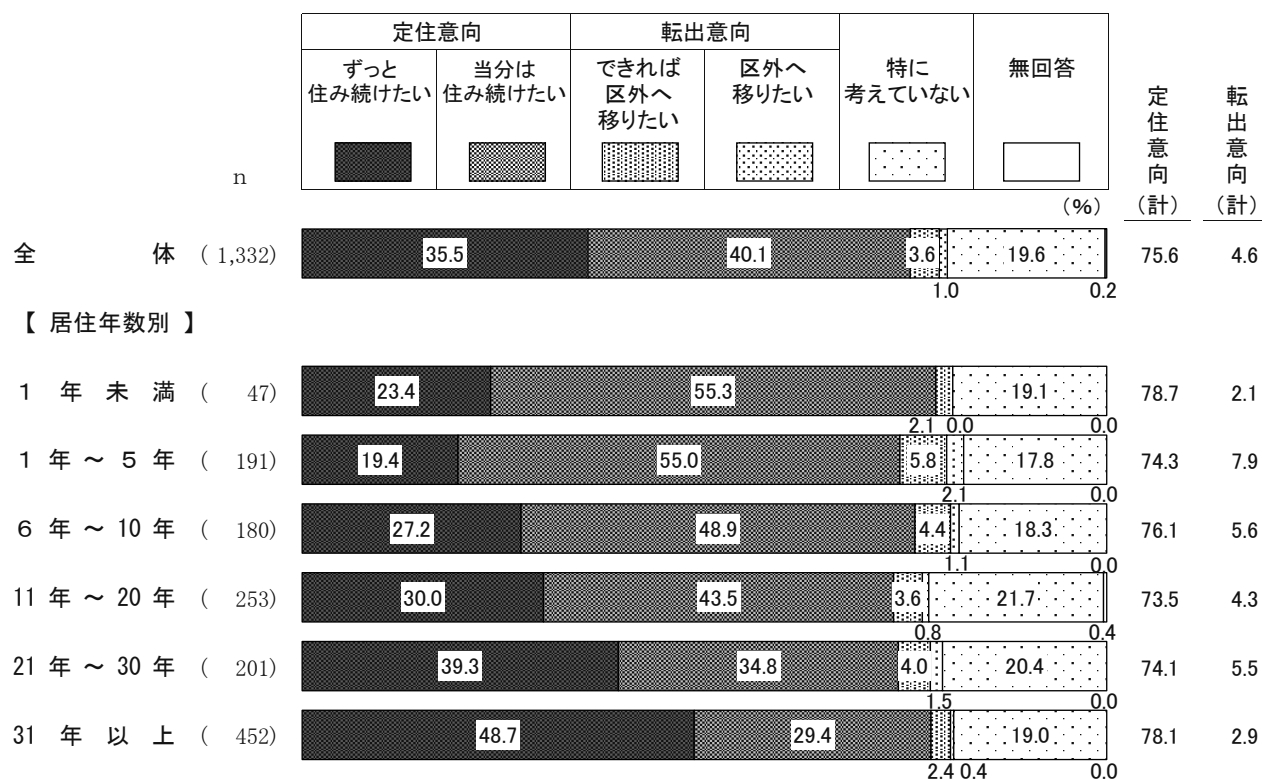
図 1-5-4 定住意向—性別／性・年齢別



性別にみると、『定住意向』は男性の方が5.0ポイント高く、8割近くとなっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は、男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多い傾向となっており、男性70歳以上、女性70歳以上で5割を超えて多くなっている。『定住意向』は男性30歳代・50歳代・70歳以上で8割を超えて多くなっている。(図1-5-4)

図 1-5-5 定住意向—居住年数別



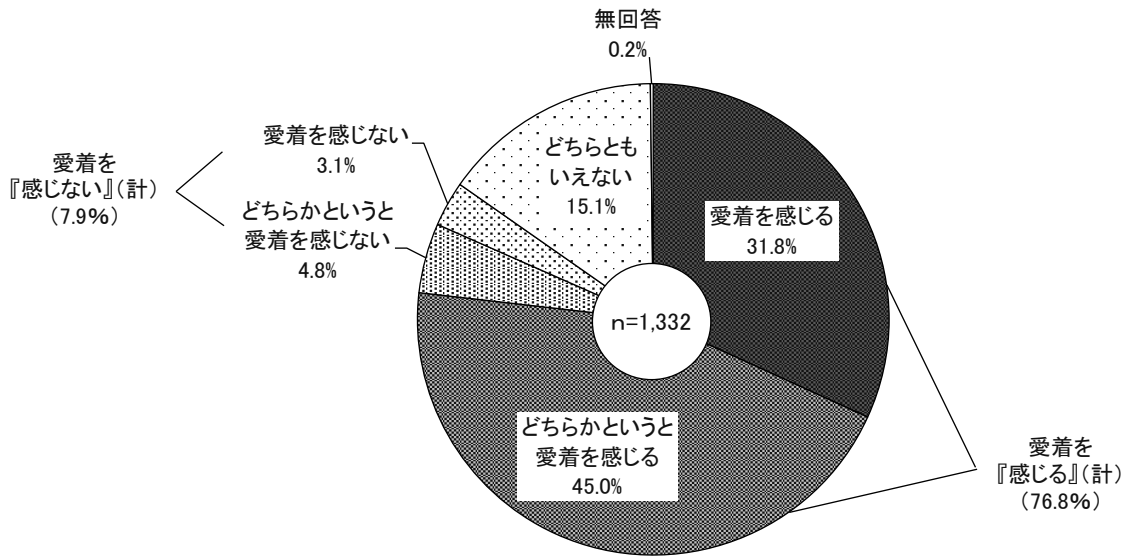
居住年数別にみると、「ずっと住み続けたい」は概ね居住年数が長くなるほど割合が多くなる傾向があり、31年以上居住している人で5割近くと多くなっている。(図1-5-5)

(6) 練馬区への愛着

◇愛着を『感じる』が7割台半ば

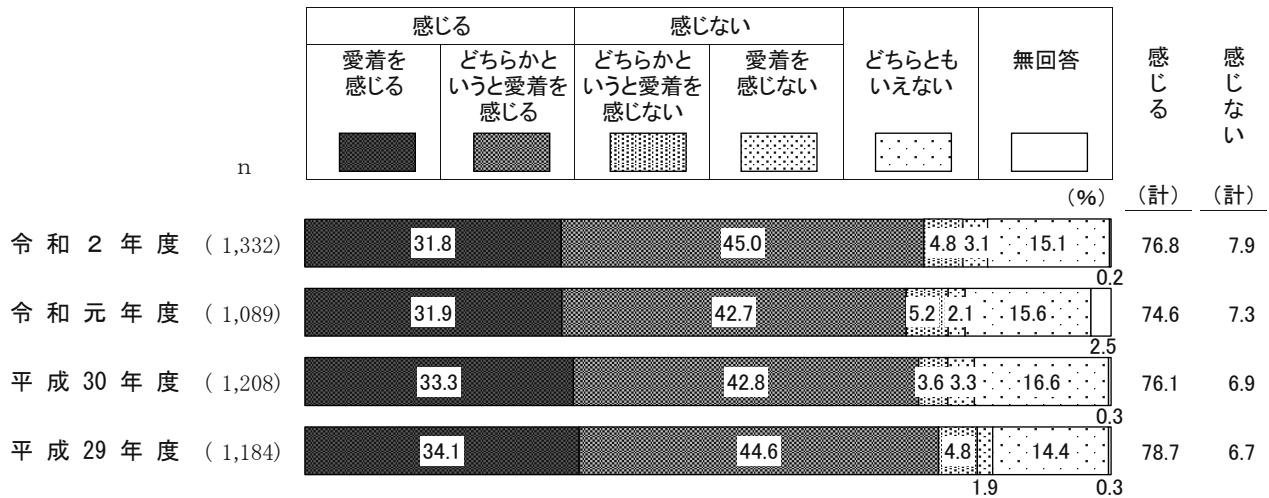
問6 あなたは、練馬区に愛着を感じますか。

図1-6-1 練馬区への愛着



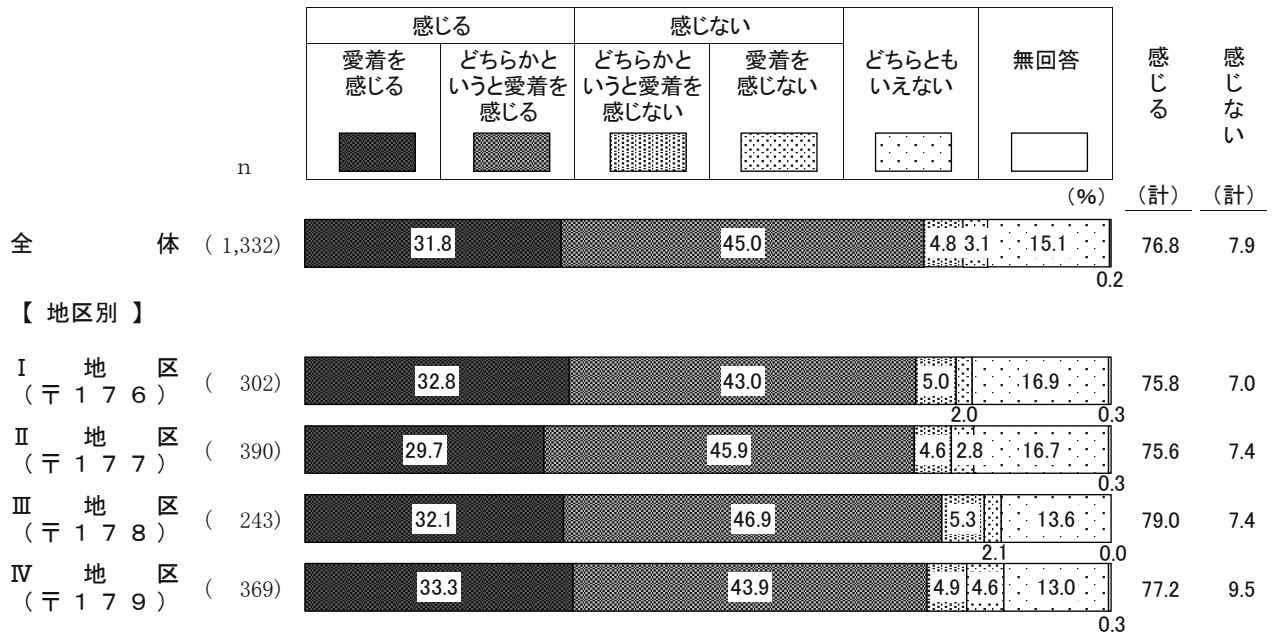
練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(31.8%)と「どちらかという愛着を感じる」(45.0%)を合わせた、愛着を『感じる』(76.8%)が7割台半ばとなっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」(4.8%)と「愛着を感じない」(3.1%)を合わせた、愛着を『感じない』(7.9%)は1割を下回っている。(図1-6-1)

図1-6-2 練馬区への愛着—過年度比較



過去の調査と比較すると、愛着を『感じる』は前回調査(令和元年度)から2.2ポイント増加している。(図1-6-2)

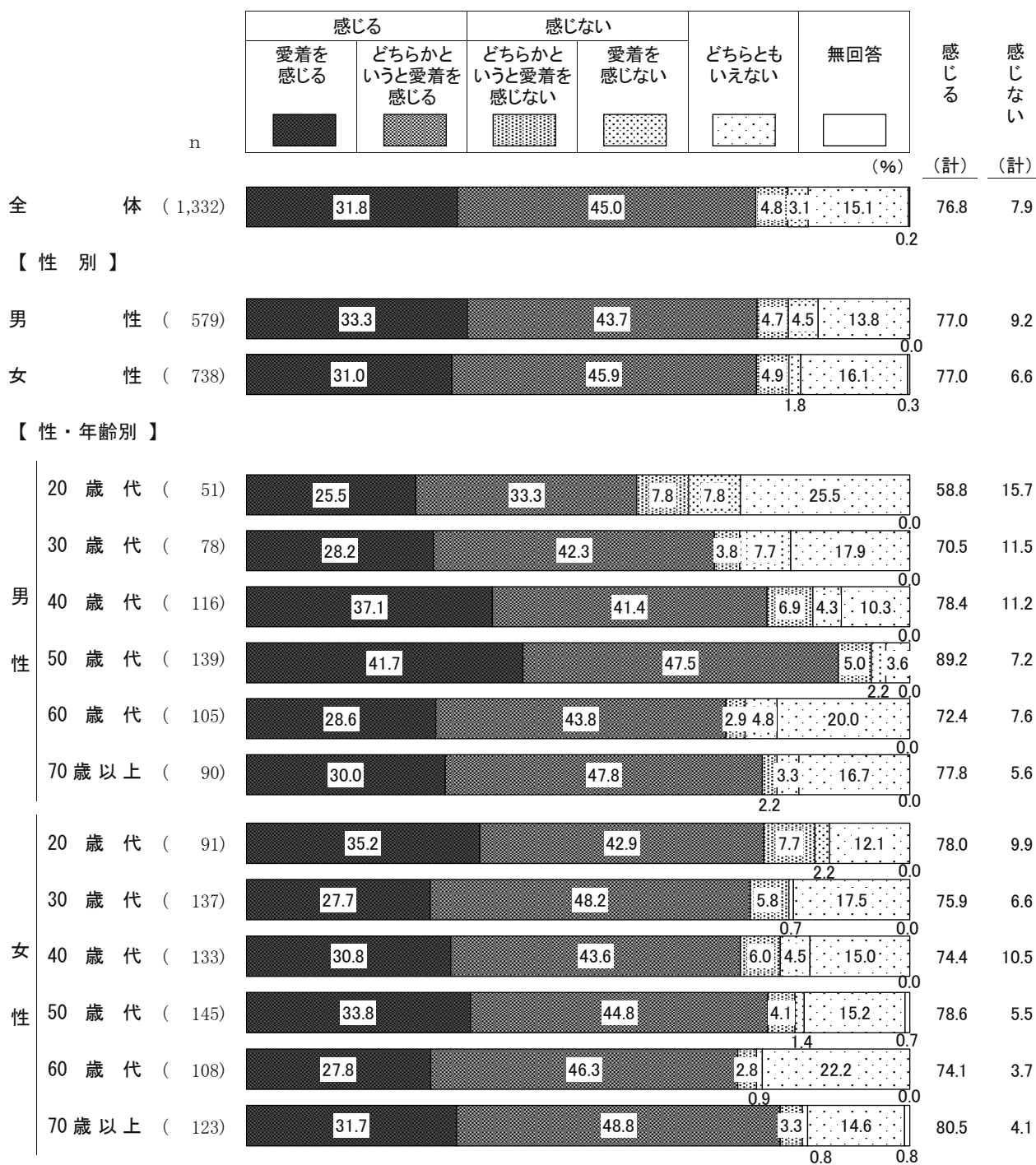
図1-6-3 練馬区への愛着—地区別



地区別にみると、愛着を『感じる』はⅢ地区（〒178）で約8割と多くなっている。

（図1-6-3）

図 1-6-4 練馬区への愛着—性別／性・年齢別

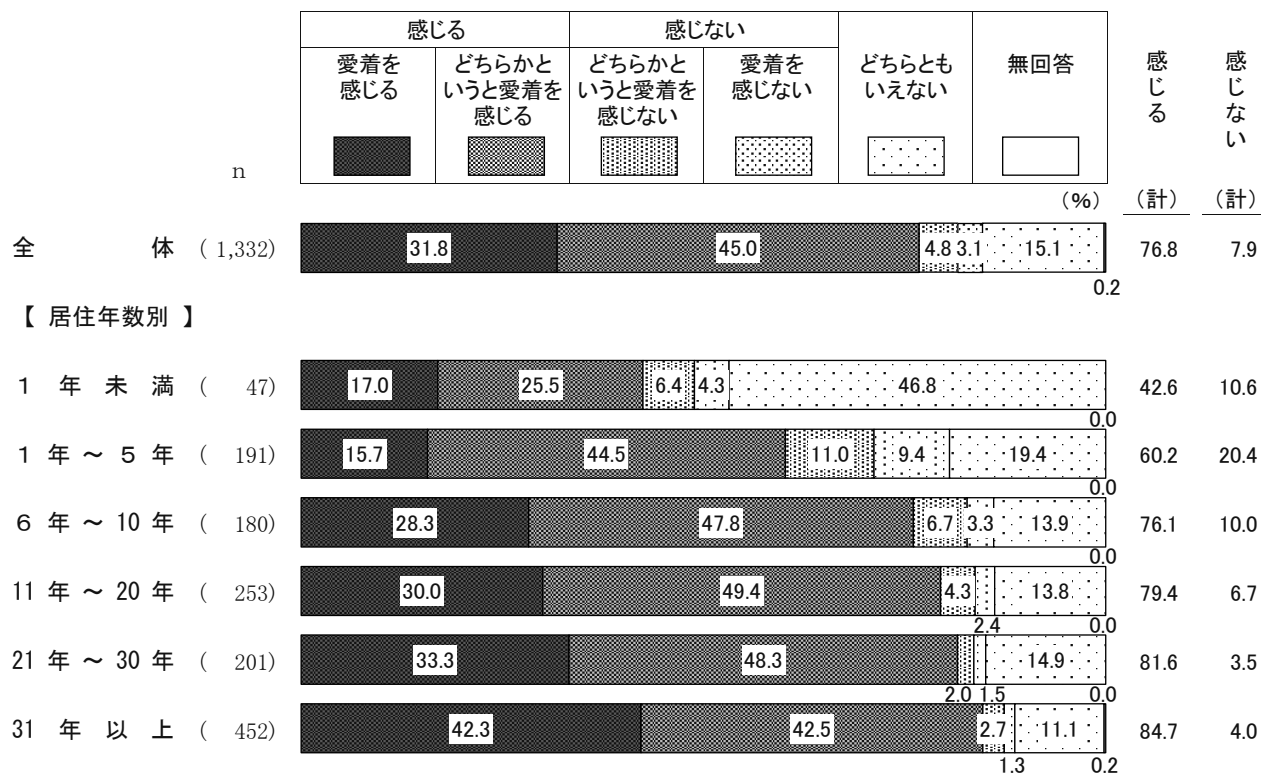


性別にみると、愛着を『感じる』は男女ともに8割近くとなっている。

性・年齢別にみると、愛着を『感じる』は男性50歳代で約9割と多くなっている。

(図 1-6-4)

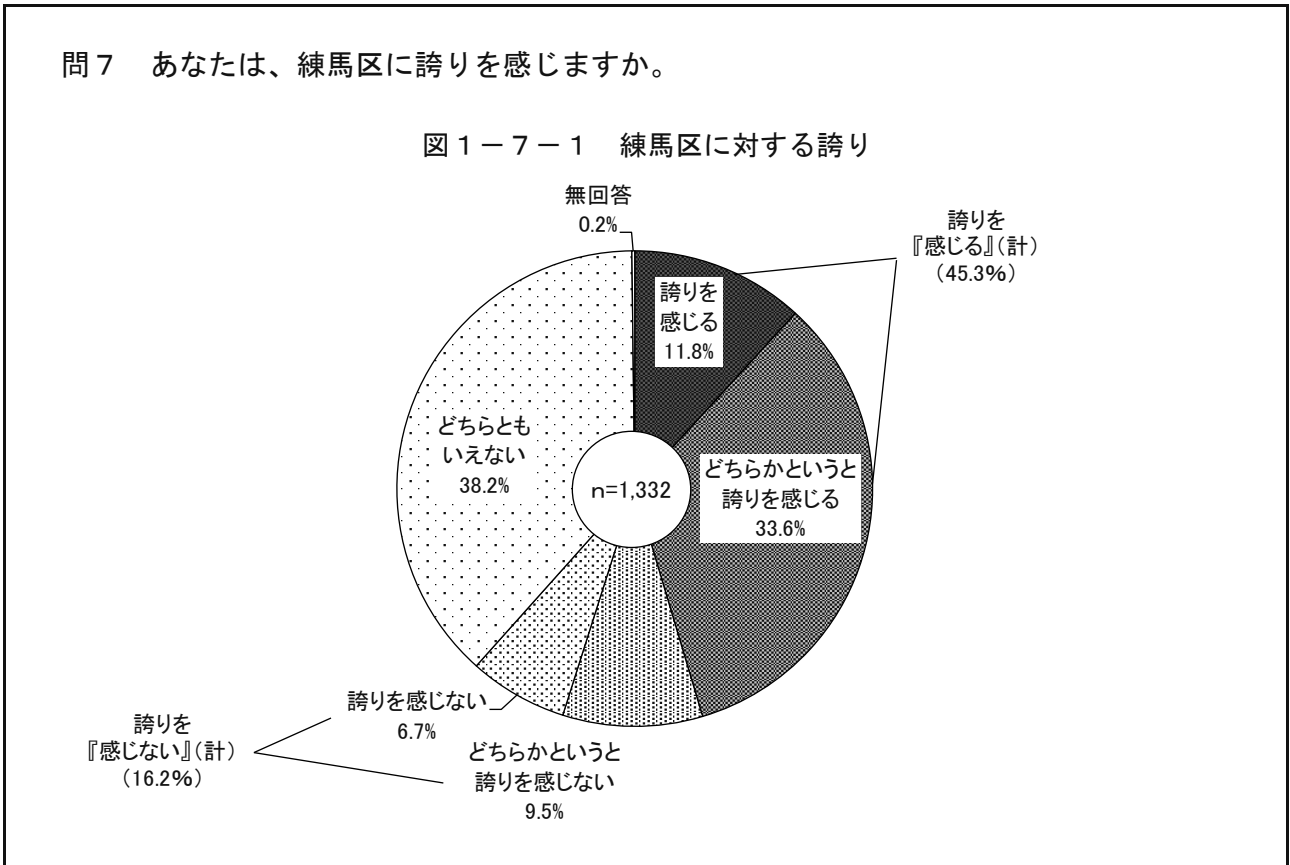
図 1-6-5 練馬区への愛着—居住年数別



居住年数別にみると、愛着を『感じる』は概ね居住年数が長くなるほど割合が多くなる傾向があり、31年以上居住している人で8割台半ばと多くなっている。(図1-6-5)

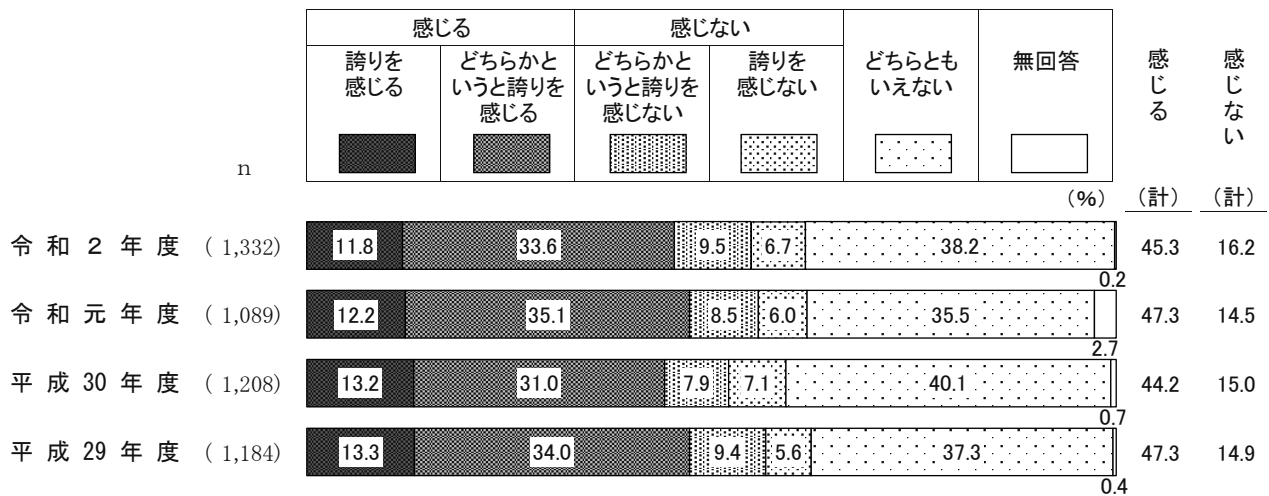
(7) 練馬区に対する誇り

◇誇りを『感じる』が4割台半ば



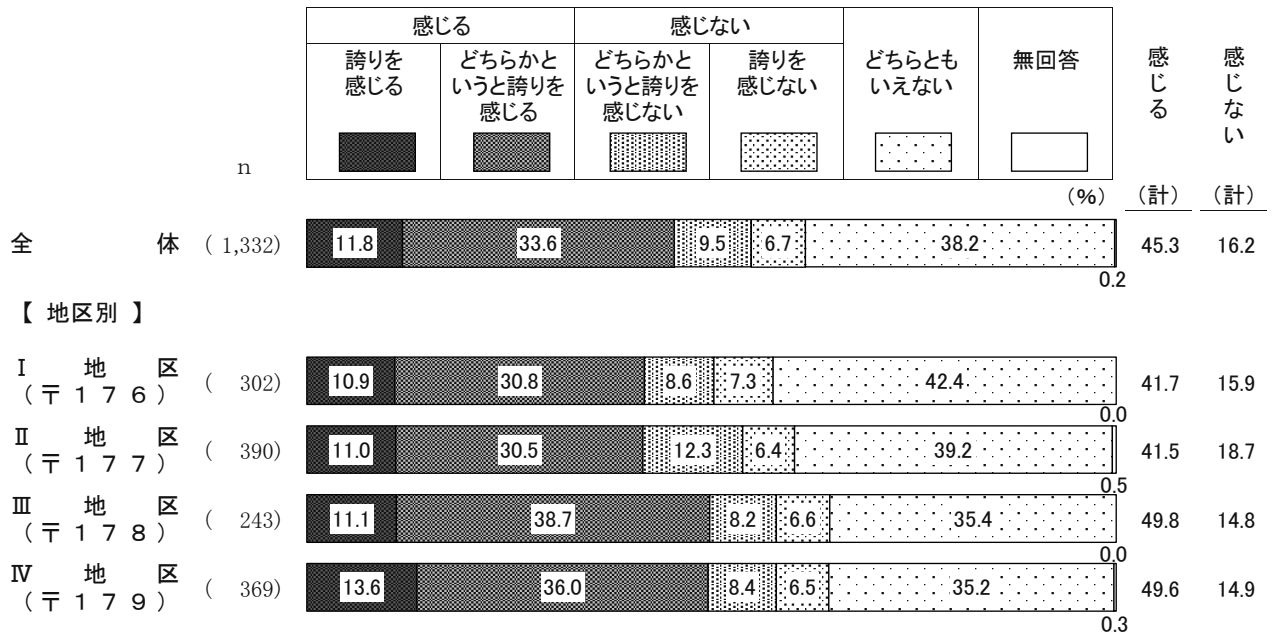
練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(11.8%)と「どちらかというと誇りを感じる」(33.6%)を合わせた、誇りを『感じる』(45.3%)が4割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと誇りを感じない」(9.5%)と「誇りを感じない」(6.7%)を合わせた、誇りを『感じない』(16.2%)は1割台半ばとなっている。(図1-7-1)

図1-7-2 練馬区に対する誇り—過年度比較



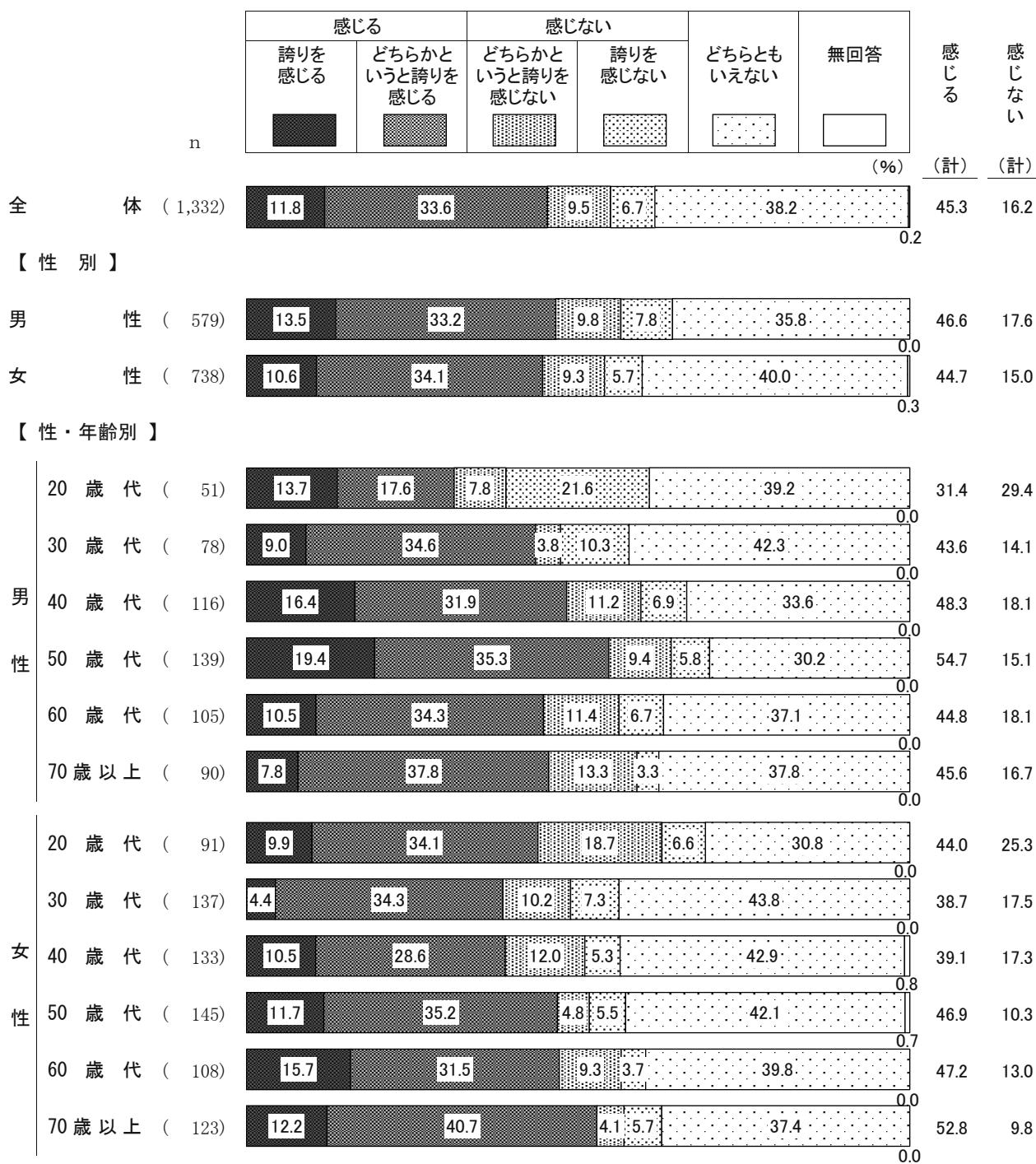
過去の調査と比較すると、誇りを『感じる』は前回調査(令和元年度)から2.0ポイント減少している。(図1-7-2)

図1-7-3 練馬区に対する誇り—地区別



地区別にみると、誇りを『感じる』はⅢ地区（〒178）、Ⅳ地区（〒179）で約5割となっている。（図1-7-3）

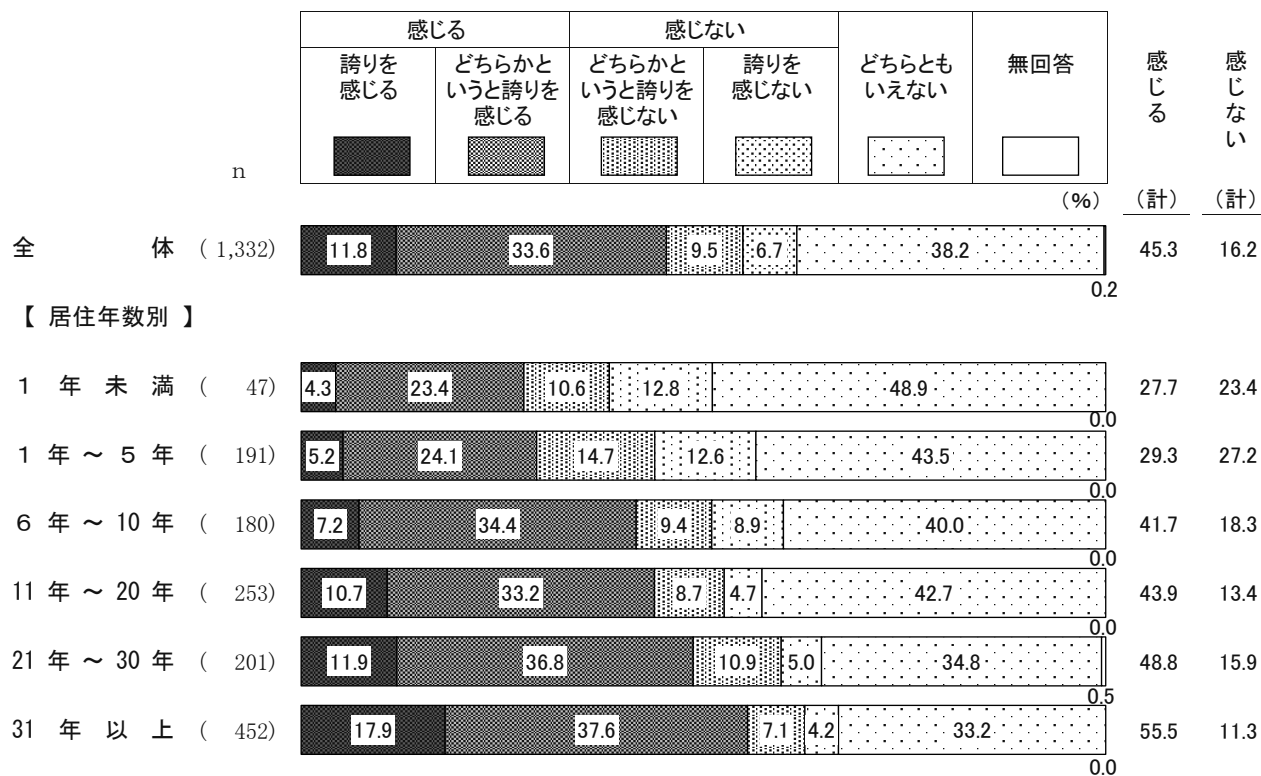
図1-7-4 練馬区に対する誇り—性別／性・年齢別



性別にみると、誇りを『感じる』は男女ともに4割台半ばとなっている。

性・年齢別にみると、誇りを『感じる』は男性50歳代で5割台半ば、女性70歳以上で5割を超えて多くなっている。一方、誇りを『感じない』は男性20歳代で約3割、女性20歳代で2割台半ばとなっている。(図1-7-4)

図 1-7-5 練馬区に対する誇り—居住年数別



居住年数別にみると、誇りを『感じる』は概ね居住年数が長くなるほど割合が多くなる傾向があり、31年以上居住している人で5割台半ばと多くなっている。(図1-7-5)

(8) 施策の満足度と必要性

◇満足度の高い施策は「みどりの保全と創出」が約8割

◇必要性の高い施策は「医療環境の充実」が約9割

問8 区は様々な施策を行っていますが、あなたは、次にあげる施策にどの程度満足していますか。

問11 これらの施策に関する今後の必要性について、どのように考えますか。

子ども・子育て	1 子育て支援 (保育所・学童クラブの充実、幼稚園の預かり保育、一時預かりや親子で交流できる場の拡充、子育ての相談をしやすい体制の整備など)
	2 学校教育 (学力の定着・向上、教員の質の向上、教育環境の整備、家庭や地域と連携した教育の推進、支援が必要な子どもたちへの取り組みの充実など)
	3 青少年の健全育成 (子ども向け講座・行事、社会環境の浄化活動、遊び場の確保、青少年館など)
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉 (医療・介護等の連携による高齢者の生活支援、高齢者施設の整備、介護予防・介護サービスの充実など)
	5 障害者福祉 (生活状況に応じた地域生活支援の強化、家族支援、住まいの確保、就労支援など)
	6 医療環境の充実 (病床の確保、病院整備の促進、在宅療養ネットワークの構築など)
	7 地域福祉の推進 (地域における平常時の見守り、災害時の要援護者支援の充実、民生委員による福祉活動など)
	8 健康づくりの推進 (健康診査、がん検診、母子保健、健康相談、食育、感染症対策、精神保健など)
	9 生活の安定に向けた自立支援 (生活の相談や支援、生活保護など)
都市基盤整備	10 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 (都営大江戸線の延伸、都市計画道路の整備、西武新宿線の立体化、公共交通空白地域の改善など)
	11 災害に強い安全なまちづくり (建築物の耐震化・不燃化、無電柱化、木造住宅密集地域の改善、都市型水害対策の強化など)
	12 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり (自主的な防災への取組支援、防犯・防火など)
	13 交通安全対策 (歩行者空間の確保、自転車対策など)
	14 駅周辺のまちづくり (駅へのアクセス道路、生活利便性の高い駅前空間、良好な景観の形成など)

都市基盤整備（続き）	15 エネルギー政策の展開 (災害時のエネルギーセキュリティの確保、住宅都市にふさわしい自立分散型エネルギー社会へ向けた取り組み、省エネルギー、地球温暖化防止など)
	16 循環型社会づくり (ごみの減量・リサイクル・環境学習の推進など)
	17 地域環境の保全 (騒音などの公害問題、たばこのポイ捨て・歩きたばこ防止など)
	18 住まいの支援 (区営住宅の運営、高齢者世帯への住宅支援など)
練馬区の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり (創業支援、企業活動活性化、個店・商店街支援など)
	20 都市農業の振興と都市農地の保全
	21 みどりの保全と創出 (公園の整備、樹林地の保全、みどりの美しい街並みづくりなど)
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会の実現 (町会・自治会等の支援、地域集会施設の運営、国際交流など)
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興
	24 観光の推進 (徒歩や自転車によるまち歩き観光、区の魅力・観光情報の発信など)
区政運営	25 窓口サービス等の利便性の向上 (窓口の受付日や時間の拡充、窓口の効率化、対応の質の向上、ICT（情報通信技術）の活用など)
	26 開かれた区政 (区報やホームページなどの情報発信の充実、区民参加・協働の推進など)
	27 区政改革の取り組み (サービスの質の向上や費用対効果、受益と負担のあり方、行政と民間の役割分担等の観点からのサービス・事務の見直しなど)
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画の推進 (啓発イベントや講座、女性に対する各種相談の実施、情報誌の発行など)

満足度

「満足」および「どちらかという満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかという不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。(図1-8-1)

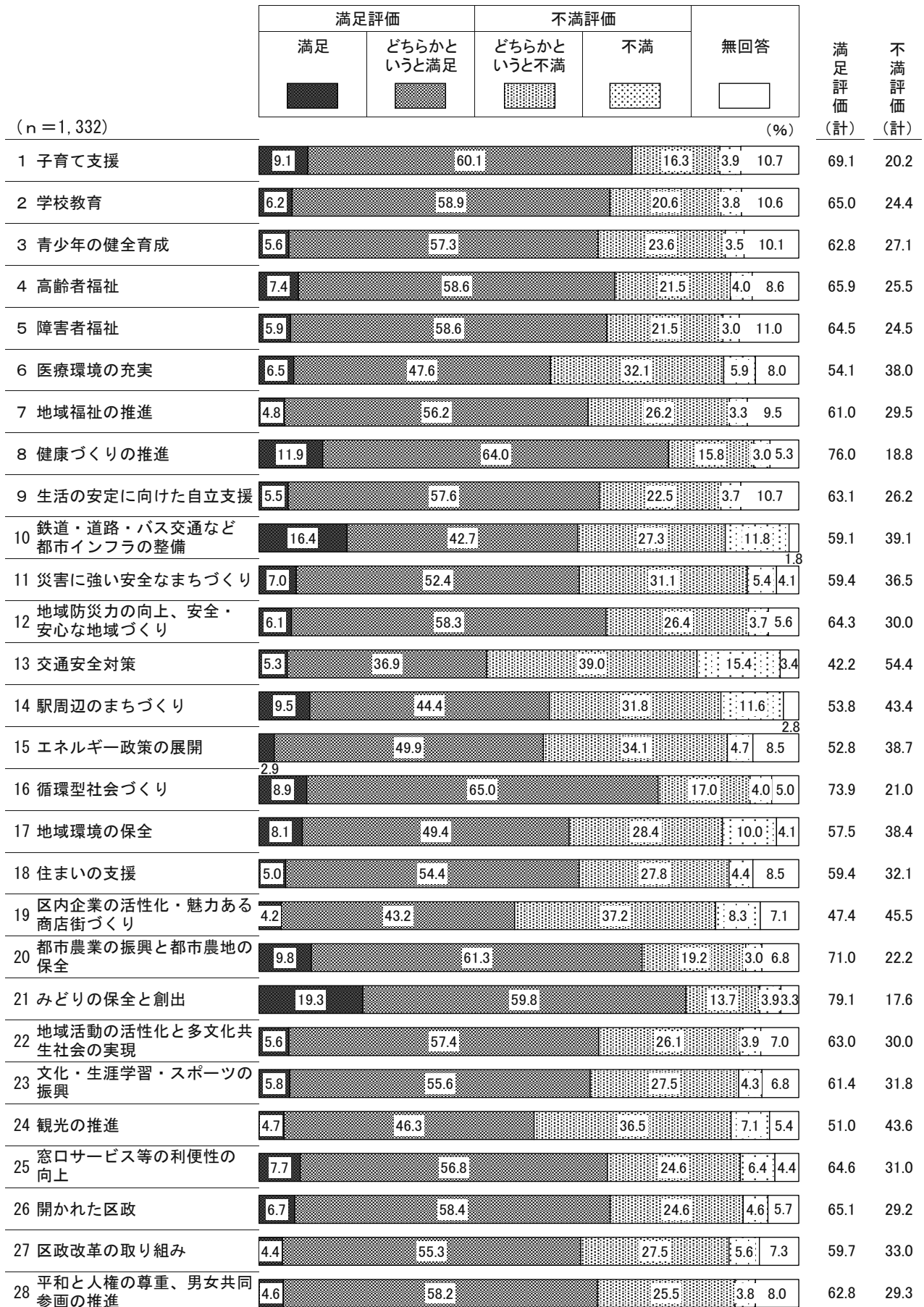
『満足評価』上位5項目

①みどりの保全と創出	(79.1%)
②健康づくりの推進	(76.0%)
③循環型社会づくり	(73.9%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(71.0%)
⑤子育て支援	(69.1%)

『不満評価』上位5項目

①交通安全対策	(54.4%)
②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(45.5%)
③観光の推進	(43.6%)
④駅周辺のまちづくり	(43.4%)
⑤鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	(39.1%)

図 1-8-1 施策の満足度



必要性

「とても必要」および「必要」の2項目を合わせた『必要性が高い評価』と、「どちらかという必要」および「あまり必要でない」の2項目を合わせた『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようにになっている。(図1-8-2)

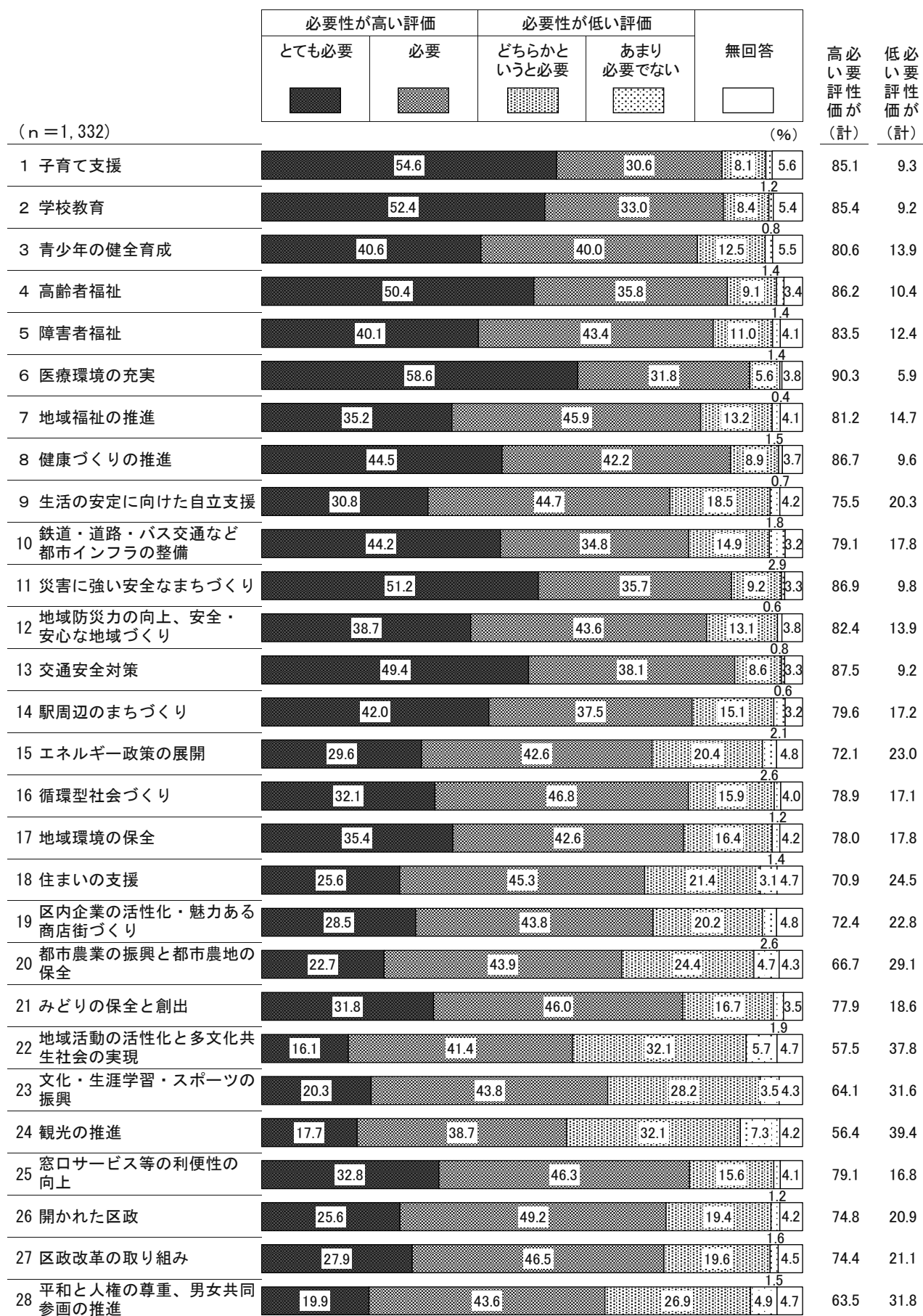
『必要性が高い評価』上位5項目

①医療環境の充実	(90.3%)
②交通安全対策	(87.5%)
③災害に強い安全なまちづくり	(86.9%)
④健康づくりの推進	(86.7%)
⑤高齢者福祉	(86.2%)

『必要性が低い評価』上位5項目

①観光の推進	(39.4%)
②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(37.8%)
③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(31.8%)
④文化・生涯学習・スポーツの振興	(31.6%)
⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(29.1%)

図 1 - 8 - 2 施策への必要性



加重平均値

満足度と必要性を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「満足」の回答者数} \times 2) + (\text{「どちらかという満足」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかという不満」の回答者数} \times -1) + (\text{「不満」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

$$\text{必要性評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「とても必要」の回答者数} \times 2) + (\text{「必要」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかという必要」の回答者数} \times -1) + (\text{「あまり必要でない」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

この計算方法では、評価点は+2.0点～-2.0点の間に分布し、中間点の0.0点を境に、+2.0点に近くなるほど満足度・必要性は高くなり、逆に、-2.0点に近くなるほど満足度・必要性が低くなる。

満足度と必要性の加重平均値の上位5項目と下位5項目は、以下のようになっている。

(表1-8-1)

『満足度評価点』上位5項目

①みどりの保全と創出	(0.79)
②健康づくりの推進	(0.70)
③子育て支援	(0.61)
③循環型社会づくり	(0.61)
⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(0.60)

『満足度評価点』下位5項目

①交通安全対策	(-0.23)
②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(-0.02)
③観光の推進	(0.05)
④駅周辺のまちづくり	(0.09)
⑤エネルギー政策の展開	(0.13)

『必要性評価点』上位5項目

①医療環境の充実	(1.48)
②子育て支援	(1.37)
③学校教育	(1.35)
④災害に強い安全なまちづくり	(1.32)
⑤交通安全対策	(1.31)

『必要性評価点』下位5項目

①観光の推進	(0.29)
②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(0.32)
③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(0.49)
④文化・生涯学習・スポーツの振興	(0.52)
⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(0.58)

表1-8-1 施策の満足度と必要性（加重平均値）－地区別

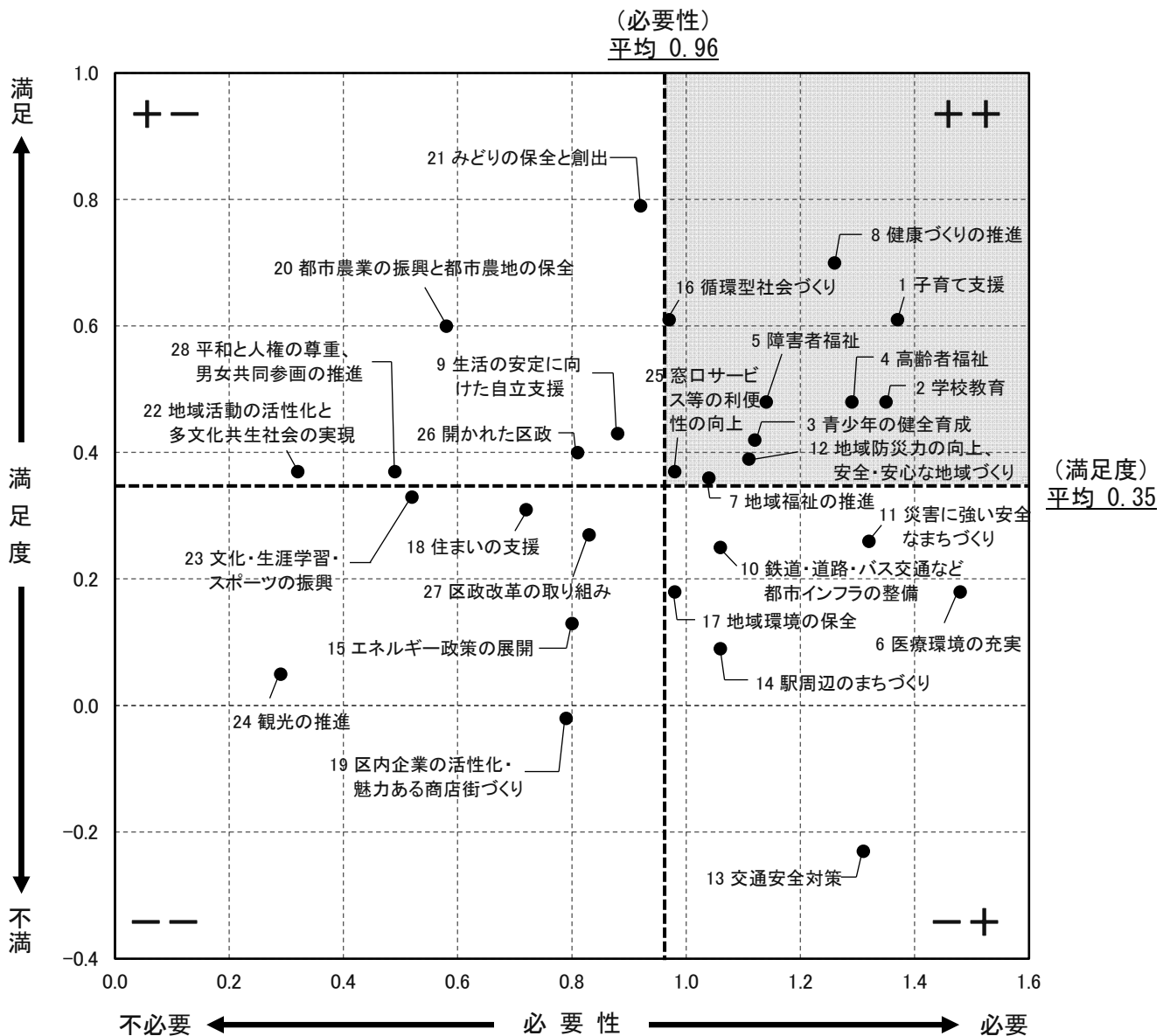
		満足度評価点					必要性評価点				
		区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区	区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区
子ども・子育て	1 子育て支援	0.61	0.62	0.53	0.62	0.68	1.37	1.46	1.40	1.45	1.23
	2 学校教育	0.48	0.59	0.47	0.44	0.44	1.35	1.37	1.39	1.44	1.24
	3 青少年の健全育成	0.42	0.49	0.37	0.38	0.45	1.12	1.15	1.15	1.23	1.01
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉	0.48	0.48	0.48	0.46	0.49	1.29	1.28	1.27	1.38	1.26
	5 障害者福祉	0.48	0.45	0.46	0.53	0.51	1.14	1.16	1.16	1.22	1.05
	6 医療環境の充実	0.18	0.27	0.17	0.14	0.17	1.48	1.42	1.52	1.54	1.45
	7 地域福祉の推進	0.36	0.40	0.32	0.44	0.36	1.04	1.07	1.07	1.14	0.95
	8 健康づくりの推進	0.70	0.67	0.71	0.74	0.70	1.26	1.23	1.23	1.33	1.27
	9 生活の安定に向けた自立支援	0.43	0.45	0.34	0.49	0.51	0.88	0.94	0.87	0.87	0.84
都市基盤整備	10 鉄道・道路・バス交通など 都市インフラの整備	0.25	0.62	0.02	-0.23	0.48	1.06	0.95	1.17	1.30	0.87
	11 災害に強い安全なまちづくり	0.26	0.34	0.17	0.10	0.40	1.32	1.37	1.31	1.41	1.26
	12 地域防災力の向上、安全・安心な 地域づくり	0.39	0.43	0.29	0.34	0.51	1.11	1.17	1.06	1.21	1.05
	13 交通安全対策	-0.23	-0.10	-0.33	-0.50	-0.05	1.31	1.33	1.33	1.43	1.21
	14 駅周辺のまちづくり	0.09	0.30	-0.15	-0.09	0.27	1.06	0.99	1.12	1.21	0.96
	15 エネルギー政策の展開	0.13	0.19	0.03	0.11	0.23	0.80	0.78	0.84	0.76	0.80
	16 循環型社会づくり	0.61	0.65	0.49	0.63	0.68	0.97	1.02	0.98	0.95	0.92
	17 地域環境の保全	0.18	0.12	0.16	0.15	0.29	0.98	1.03	0.90	1.01	1.01
	18 住まいの支援	0.31	0.30	0.24	0.35	0.35	0.72	0.83	0.70	0.68	0.68
練馬区の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街 づくり	-0.02	0.11	-0.14	-0.04	-0.01	0.79	0.86	0.75	0.83	0.79
	20 都市農業の振興と都市農地の保全	0.60	0.55	0.53	0.69	0.64	0.58	0.61	0.57	0.62	0.57
	21 みどりの保全と創出	0.79	0.72	0.74	0.83	0.88	0.92	0.93	0.96	0.97	0.89
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会 の実現	0.37	0.31	0.33	0.41	0.44	0.32	0.40	0.27	0.44	0.26
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興	0.33	0.31	0.29	0.29	0.45	0.52	0.61	0.46	0.60	0.47
	24 観光の推進	0.05	0.08	-0.01	-0.03	0.15	0.29	0.31	0.24	0.34	0.31
区政運営	25 窓口サービス等の利便性の向上	0.37	0.54	0.30	0.30	0.30	0.98	0.97	0.92	1.08	0.99
	26 開かれた区政	0.40	0.44	0.34	0.50	0.38	0.81	0.79	0.79	0.88	0.82
	27 区政改革の取り組み	0.27	0.34	0.26	0.33	0.21	0.83	0.88	0.79	0.91	0.81
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画 の推進	0.37	0.37	0.34	0.48	0.35	0.49	0.46	0.48	0.50	0.56

満足度と必要性の相関

満足度と必要性の相関を加重平均値でみると、下の図1-8-3のようになっている。
この相関図では、●の点が上に分布するほど満足度が高く、右に分布するほど必要性が高くなる。

さらに、満足度の平均（0.35点）および必要性の平均（0.96点）を相関図上に点線を引いて4つに分割し、平均より上位であるか下位であるかが明確になるように示した。

図1-8-3 施策の満足度と必要性（加重平均値）の相関



これによると、満足度も必要性も高い（++：網かけ部分）のは、「健康づくりの推進」「子育て支援」「学校教育」「高齢者福祉」などである。

満足度が高いが必要性が低い（+-）のは、「都市農業の振興と都市農地の保全」「平和と人権の尊重、男女共同参画の推進」「地域活動の活性化と多文化共生社会の実現」などである。

満足度が低いが必要性が高い（-+）のは、「交通安全対策」「医療環境の充実」「災害に強い安全なまちづくり」「駅周辺のまちづくり」などである。

満足度も必要性も低い（--）のは、「観光の推進」「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」「エネルギー政策の展開」などである。（図1-8-3）

満足度の区全体と地区別比較

【I地区（〒176）】

全体と比較して満足度が高いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（+0.37点）、「駅周辺のまちづくり」（+0.21点）「窓口サービス等の利便性の向上」（+0.17点）などである。

満足度が低いのは「みどりの保全と創出」（-0.07点）、「地域環境の保全」、「地域活動の活性化と多文化共生社会の実現」（ともに-0.06点）などである。（図1-8-4）

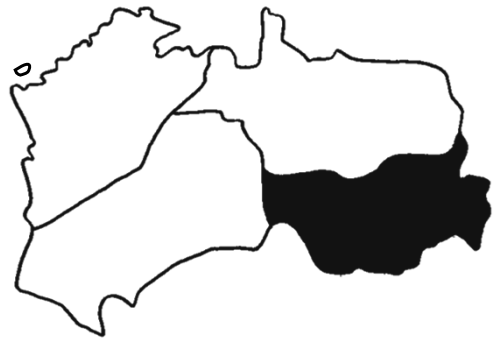
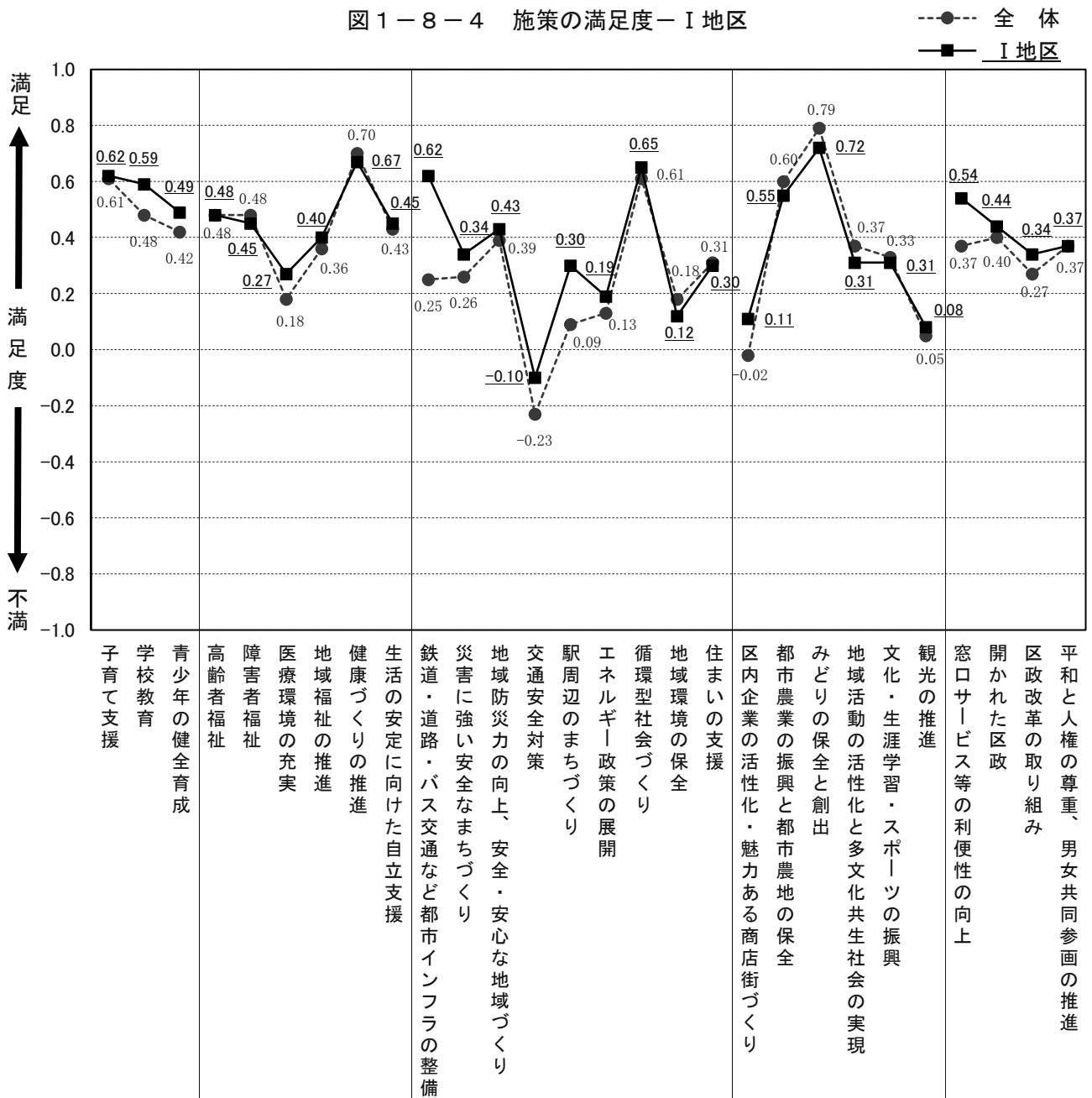


図1-8-4 施策の満足度－I地区

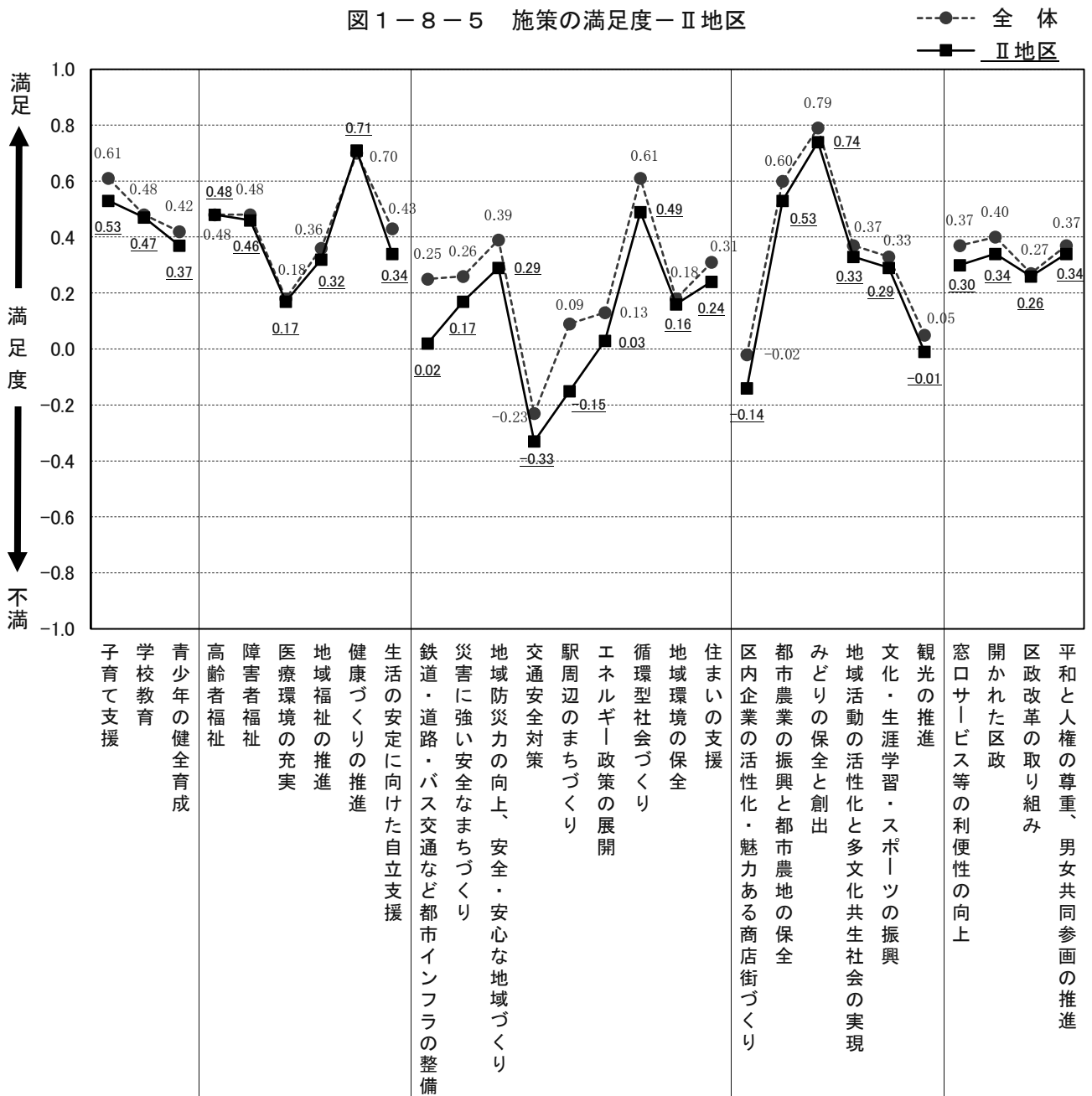


【Ⅱ地区（〒177）】

全体と比較して満足度が高い項目はみられない。
 満足度が低いのは「駅周辺のまちづくり」（－0.24点）、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（－0.23点）、「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」、「循環型社会づくり」（ともに－0.12点）などである。（図1－8－5）



図1－8－5 施策の満足度－Ⅱ地区



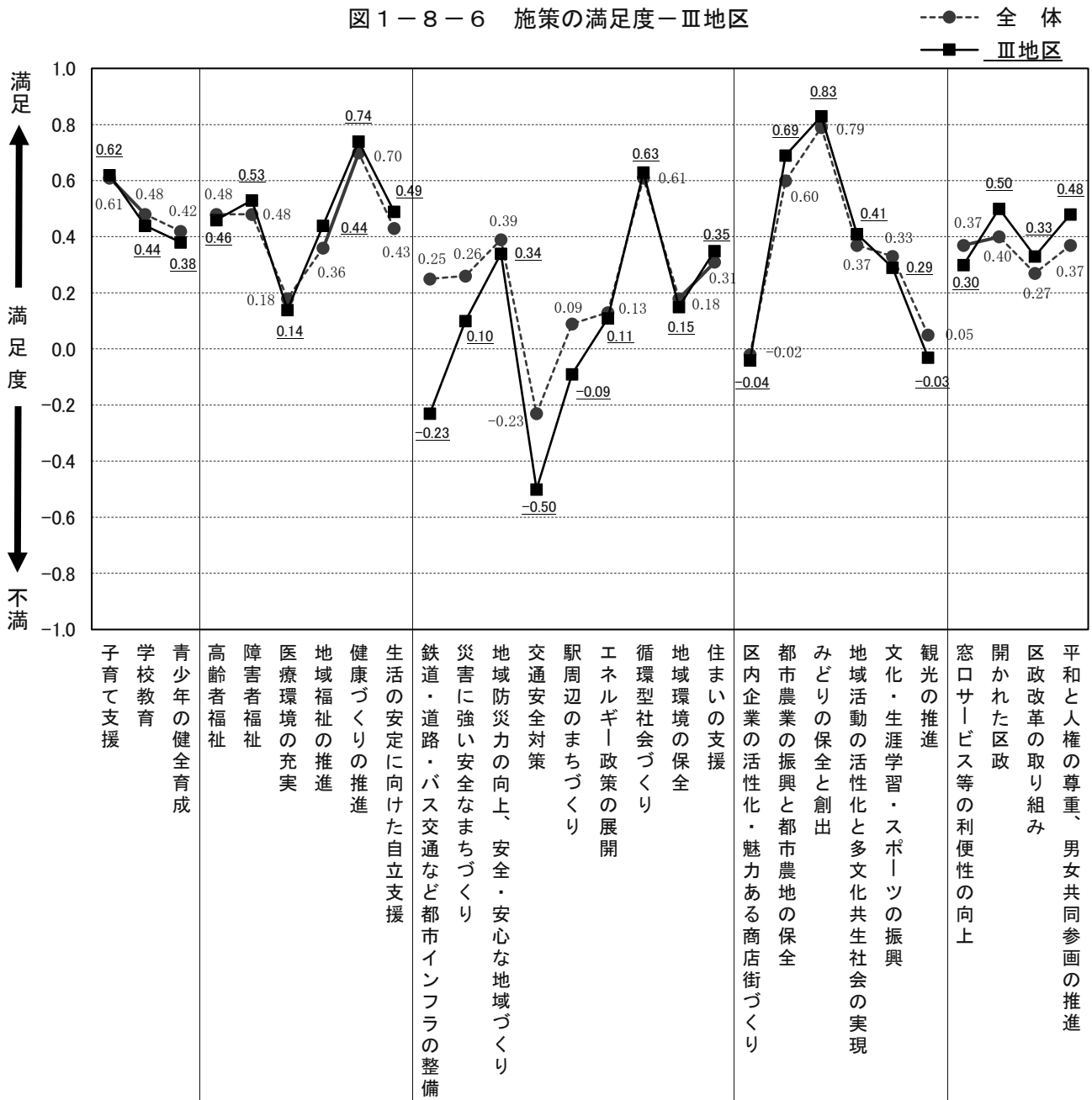
【Ⅲ地区（〒178）】

全体と比較して満足度が高いのは「平和と人権の尊重、男女共同参画の推進」（+0.11点）、「開かれた区政」（+0.10点）、「都市農業の振興と都市農地の保全」（+0.09点）などである。

満足度が低いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（-0.48点）、「交通安全対策」（-0.27点）、「駅周辺のまちづくり」（-0.18点）、「災害に強い安全なまちづくり」（-0.16点）などである。（図1-8-6）



図1-8-6 施策の満足度－Ⅲ地区



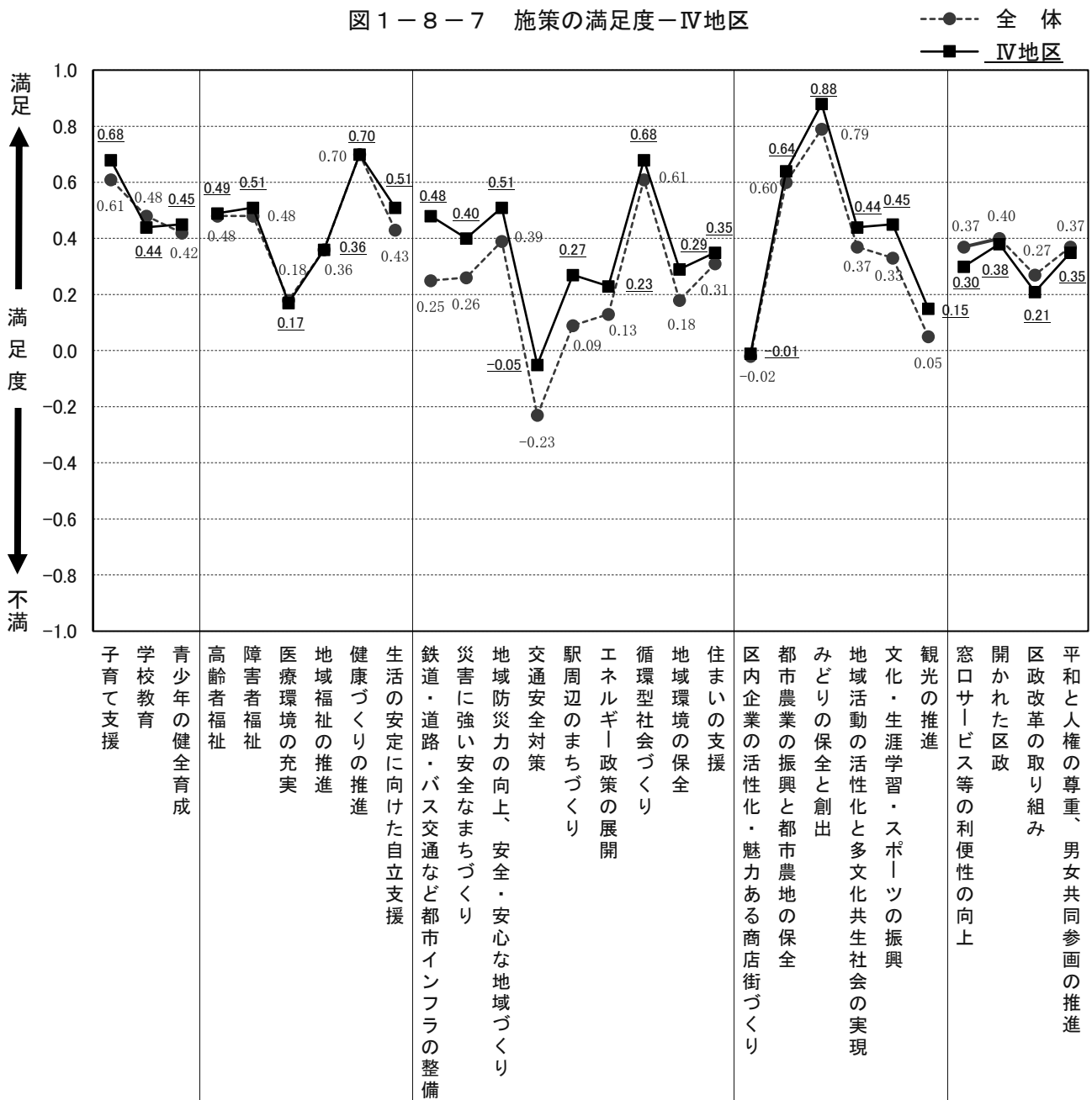
【IV地区（〒179）】

全体と比較して満足度が高いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（+0.23点）、
「交通安全対策」、「駅周辺のまちづくり」（ともに+0.18点）、「災害に強い安全なまちづくり」
+0.14点）などである。

満足度が低いのは「窓口サービス等の利便性の向上」（-0.07点）、「区政改革の取り組み」（-0.06点）などである。（図1-8-7）



図1-8-7 施策の満足度－IV地区



(9) 施策への要望

◇「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が2割を超える

問9 練馬区の施策（問8の1～28）の中で、あなたが特に力を入れてほしいと思うものを、第1位、第2位、第3位と順位をつけて、記入してください。

図1-9-1 施策への要望



特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つの累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(23.1%)が2割を超えて最も多く、次いで「交通安全対策」(19.9%)、「医療環境の充実」(18.5%)、「駅周辺のまちづくり」(16.8%)、「高齢者福祉」(16.7%)などの順となっている。(図1-9-1)

表 1-9-1 施策への要望一過年度比較

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
令和 2 年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	医療環境の充実	駅周辺のまちづくり	高齢者福祉
令和元年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	災害に強い安全なまちづくり
平成30年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	医療環境の充実	高齢者福祉	子育て支援
平成29年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	子育て支援	高齢者福祉	医療環境の充実
平成28年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	駅周辺のまちづくり
平成27年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	高齢者福祉	交通安全対策	子育て支援	医療環境の充実
平成26年度	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	医療体制の確立	道路や公共交通の整備
平成25年度	医療体制の確立	高齢者福祉	防犯・防火・防災	交通安全対策	子育て支援
平成24年度	防犯・防火・防災	交通安全対策	災害に強く生活しやすいまちづくり	子育て支援	医療体制の確立
平成23年度	子育て支援	防犯・防火・防災	災害に強く生活しやすいまちづくり	医療体制の確立	高齢者福祉

過去の調査と比較すると、^{注1}「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が6年連続で第1位、「交通安全対策」が5年連続で第2位となっている。（表1-9-1）

注1) 「医療環境の充実」は平成26年度までは「医療体制の確立」としていた。
「地域福祉の推進」は平成26年度までは「地域で支える福祉」としていた。
「健康づくりの推進」は平成26年度までは「健康づくり」としていた。
「生活の安定に向けた自立支援」は平成26年度までは「生活の安定のための支援」としていた。
「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は平成26年度までは「道路や公共交通(鉄道やバスなど)の整備」としていた。
「災害に強い安全なまちづくり」は平成26年度までは「災害に強く生活しやすいまちづくり」としていた。
「地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり」は平成26年度までは「防犯・防火・防災」としていた。
「住まいの支援」は平成26年度までは「公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供」としていた。
「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」は平成26年度までは「中小企業・商店街の振興」としていた。
「都市農業の振興と都市農地の保全」は平成26年度までは「都市農業の振興・農地の保全」としていた。
「みどりの保全と創出」は平成26年度までは「みどりの保全と創造」としていた。
「地域活動の活性化と多文化共生社会の実現」は平成26年度までは「地域活動の支援」「地域の国際交流」としていた。
「文化・生涯学習・スポーツの振興」は平成26年度までは「文化芸術・生涯学習活動、スポーツ活動の支援」としていた。
「窓口サービス等の利便性の向上」は平成26年度までは「区の窓口サービスの向上」としていた。
「開かれた区政」は平成26年度までは「開かれた行政運営」としていた。
「区政改革の取り組み」は平成27年度は「持続可能な行財政改革の取組」、平成26年度までは「行財政改革の取組」としていた。
「平和と人権の尊重、男女共同参画の推進」は平成26年度までは「平和と人権の尊重や男女共同参画の推進」としていた。

注2) 「駅周辺のまちづくり」「エネルギー政策の展開」は平成27年度から追加された選択肢。

表 1-9-2 施策への要望—地区別／性別／性・年齢別

(%)

		AA (50%以上)	A (40~50%未満)	B (30~40%未満)	C (20~30%未満)	
全 体					・鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 23.1	
地区別	I 地区 (千 176)					
	II 地区 (千 177)				・鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 27.9 ・交通安全対策 22.1	
	III 地区 (千 178)			・鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 36.2	・交通安全対策 26.7 ・駅周辺のまちづくり 21.0	
	IV 地区 (千 179)				・医療環境の充実 21.7	
性別	男 性				・鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 25.7 ・交通安全対策 21.6	
	女 性				・鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 21.3	
性・年齢別	男	20 歳代			・鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 39.2 ・駅周辺のまちづくり 35.3	・交通安全対策 21.6
			30 歳代			・鉄道・道路・バス交通 など都市インフラの 整備 35.9 ・子育て支援 33.3
		40 歳代				
			50 歳代			
		60 歳代				
			70歳以上			
		女	20 歳代			・子育て支援 37.4
	30 歳代				・子育て支援 45.3	・学校教育 25.5 ・鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 22.6
			40 歳代			
	50 歳代					
			60 歳代			
	70歳以上					

次に、要望の大きさを、比率に応じてAA（50%以上）、A（40～50%未満）、B（30～40%未満）、C（20～30%未満）の4つのランクに分けて、地区別、性別、性・年齢別に分類した。その結果が表1-9-2である。

地区別にみると、各地区ともにAAランク、Aランクに入る施策はない。

Bランク以下をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」がⅢ地区（〒178）でBランク、Ⅱ地区（〒177）でCランクとなっている。

性別にみると、男女ともAAランク、Aランク、Bランクに入る施策はない。

「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」「交通安全対策」が男性でCランク、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が女性でCランクとなっている。

性・年齢別にみると、「子育て支援」は女性30歳代でAランク、男性30歳代、女性20歳代でBランクとなっている。

「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は男性20歳代と30歳代でBランク、男性40歳代と50歳代、女性20歳代から50歳代でCランクとなっている。

「駅周辺のまちづくり」は男性20歳代でBランク、男性30歳代と50歳代、女性20歳代でCランクとなっている。

「交通安全対策」は男性20歳代から50歳代、女性20歳代と50歳代と60歳代でCランクとなっている。

「学校教育」は男性40歳代、女性30歳代と40歳代でCランクとなっている。

「高齢者福祉」は男性60歳代と70歳以上、女性50歳代から70歳以上でCランクとなっている。

「医療環境の充実」は男性60歳代、女性40歳代から70歳以上でCランクとなっている。

（表1-9-2）

《 施策の満足度・要望（住みよいー満足度評価） 》

練馬区の住みごころ（問2・49ページ参照）の評価は、28項目の施策の満足度（問8・74～76ページ参照）および施策への要望（問9・86ページ参照）とどのような関係があるのかをみる。

練馬区が「住みよい」と答えた方（535人）の施策の満足度（問8）をみると、「満足」および「どちらかという満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかという不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-9-2）

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①みどりの保全と創出	(85.2%)	①交通安全対策	(44.5%)
②健康づくりの推進	(84.1%)	②観光の推進	(35.0%)
③循環型社会づくり	(80.7%)	③区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(33.8%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(79.6%)	④駅周辺のまちづくり	(31.2%)
⑤子育て支援	(78.9%)	⑤エネルギー政策の展開	(29.5%)

図 1-9-2 練馬区の住みごこちが「住みよい」と答えた方の施策の満足度

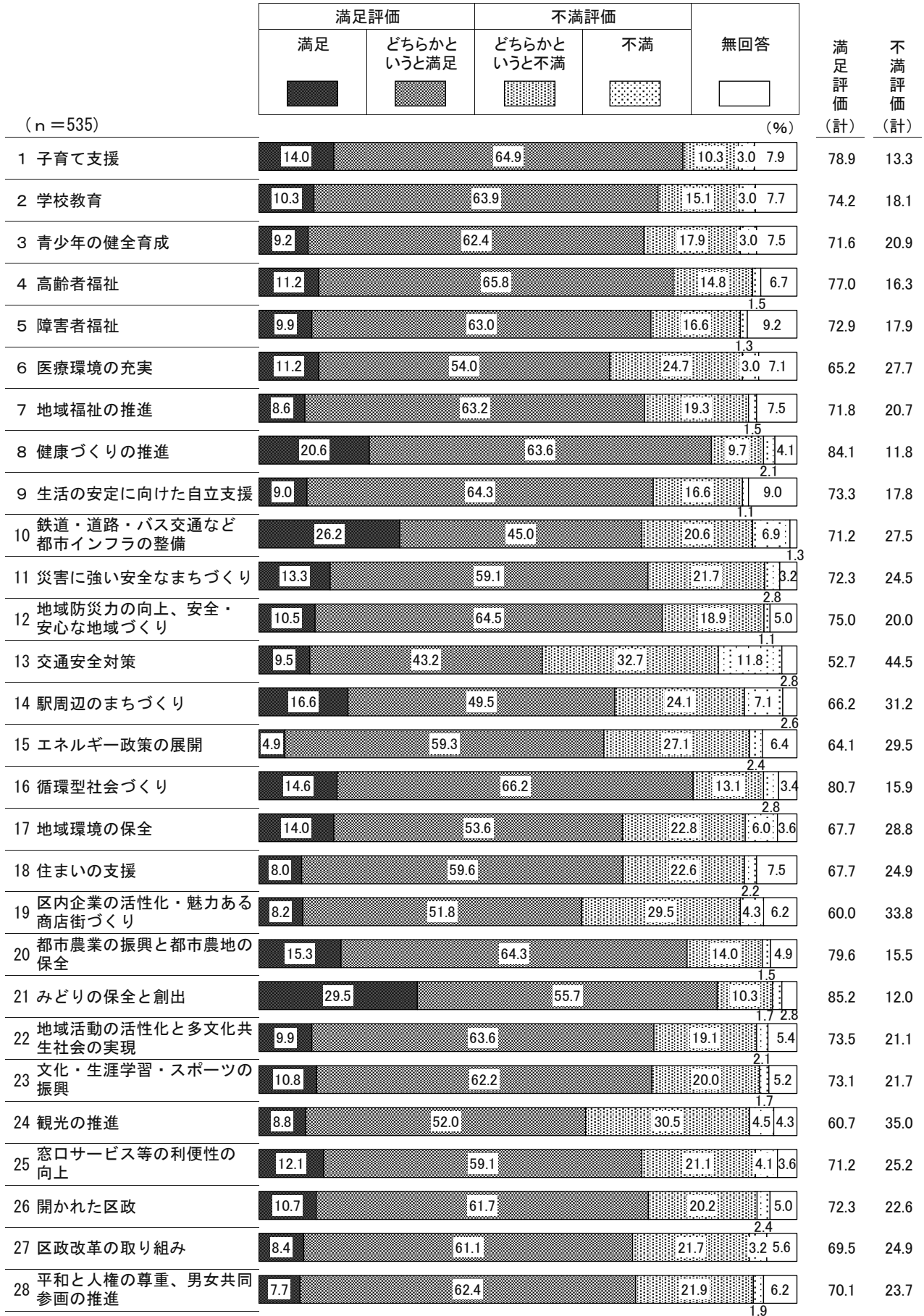
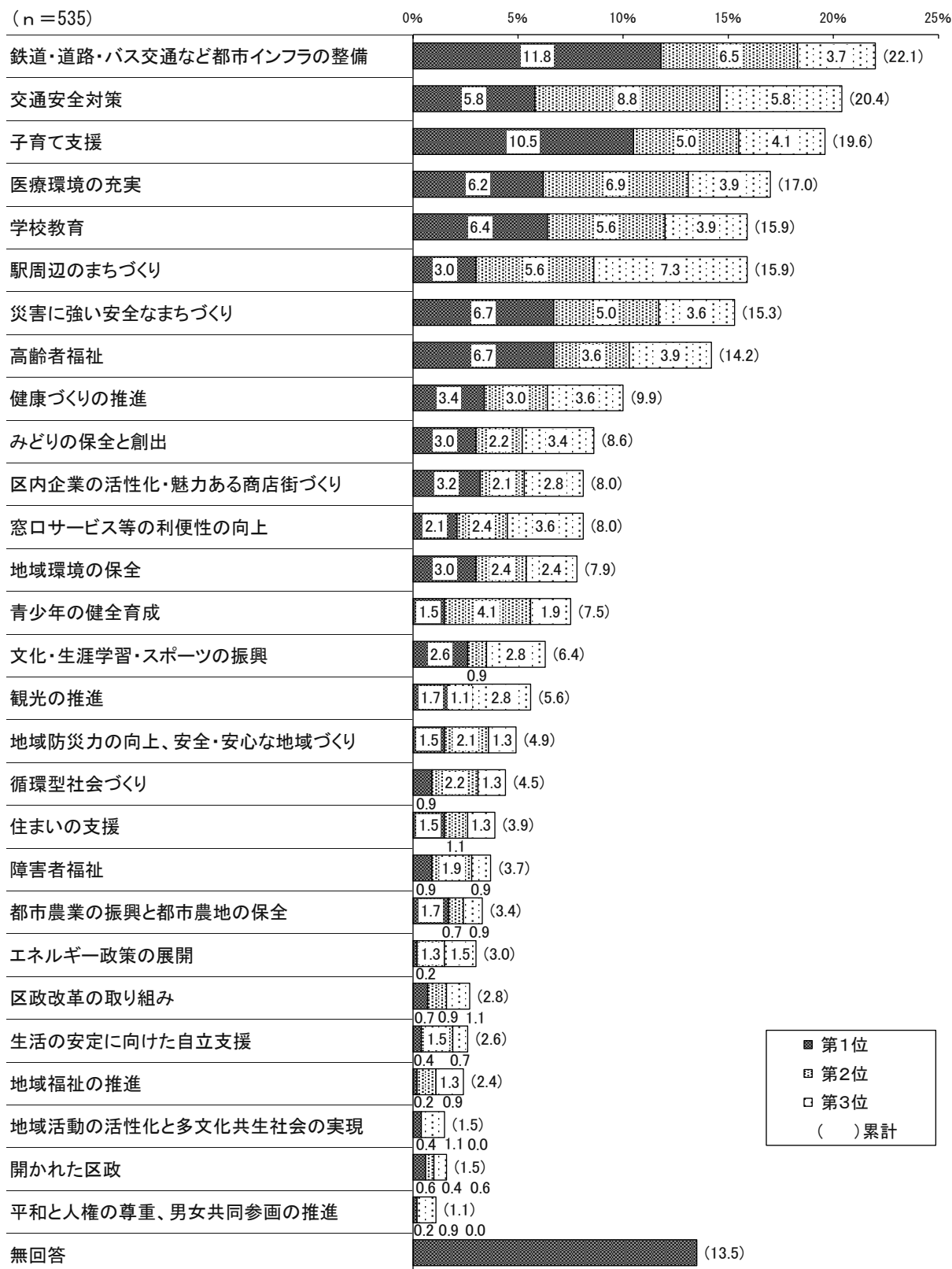


図 1-9-3 練馬区の住みごこちが「住みよい」と答えた方の施策への要望



練馬区が「住みよい」と答えた方（535人）の施策への要望（問9）をみると、第1位から第3位までの累計は、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（22.1%）が2割を超え最も多く、次いで「交通安全対策」（20.4%）、「子育て支援」（19.6%）、「医療環境の充実」（17.0%）などの順となっている。

《 施策の満足度・要望（住みにくいー満足度評価） 》

次に、練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方（46人）の施策の満足度（問8）をみると、『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-9-4）

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①みどりの保全と創出	(60.9%)	①区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(84.8%)
②健康づくりの推進	(58.7%)	②交通安全対策	(82.6%)
③循環型社会づくり	(56.5%)	③駅周辺のまちづくり	(76.1%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(52.2%)	④鉄道・道路・バス交通など 都市インフラの整備	(69.6%)
⑤平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(47.8%)	⑤区政改革の取り組み	(67.4%)

図1-9-4 練馬区の住みごこちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の施策の満足度

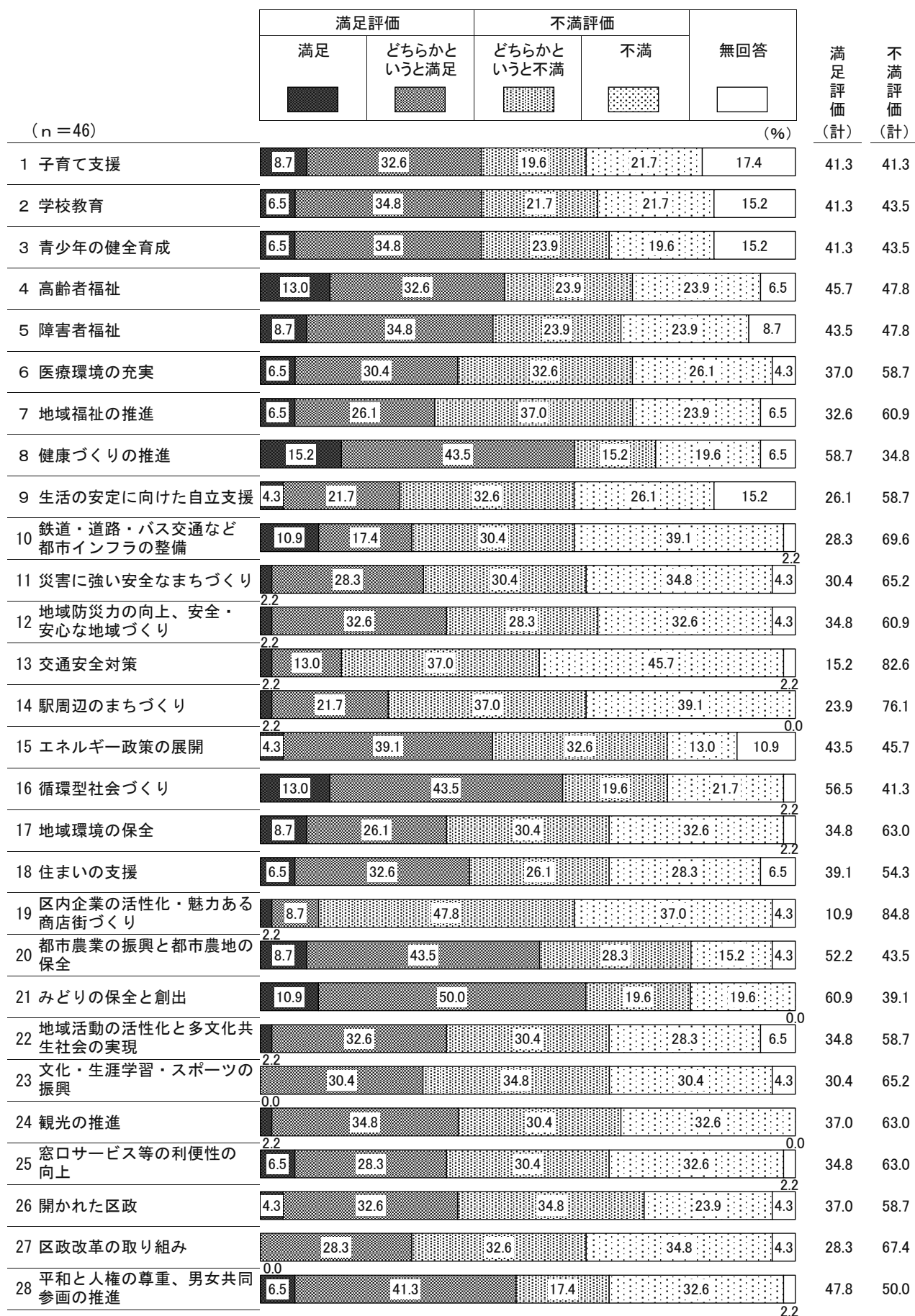
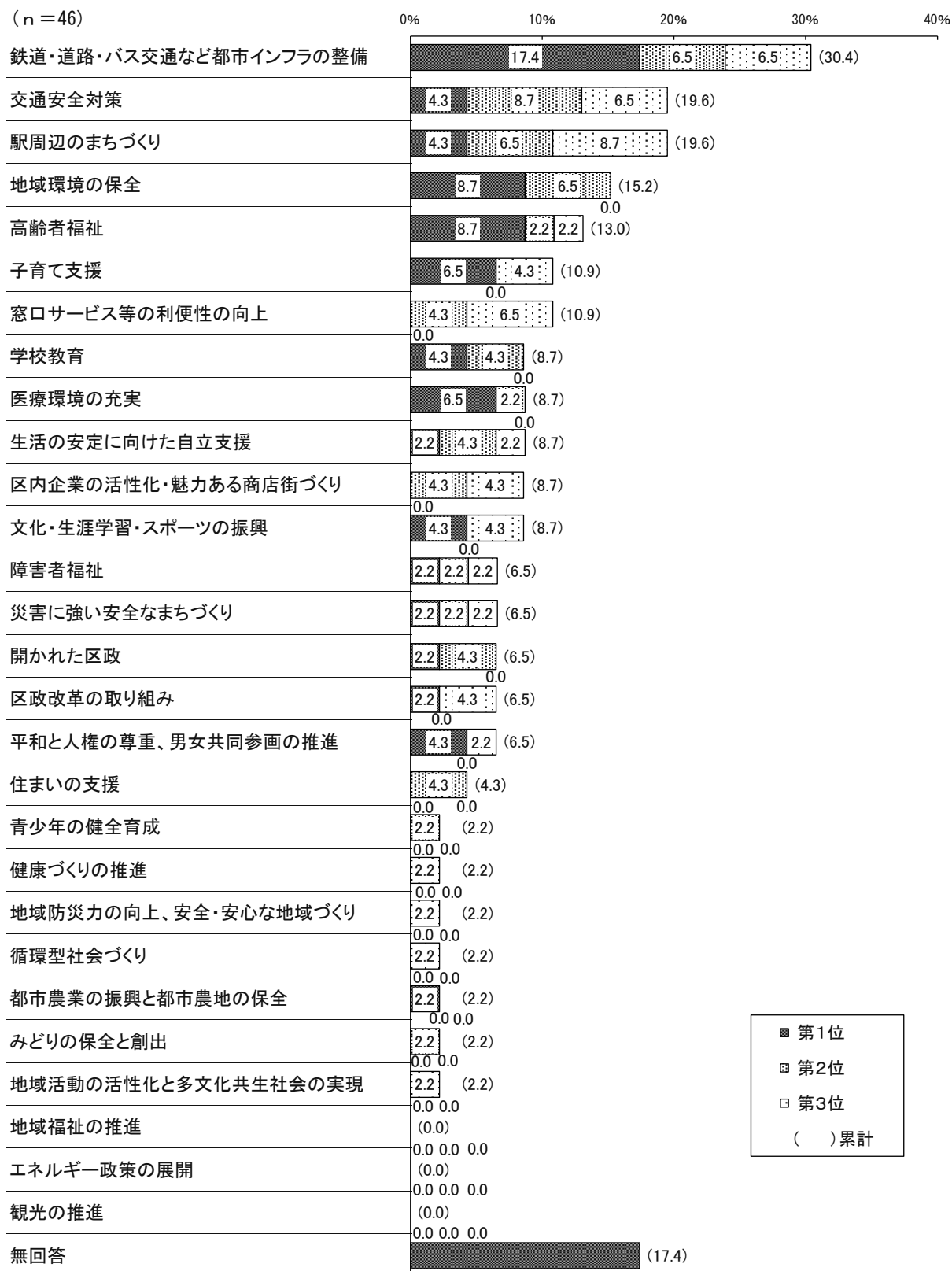


図1-9-5 練馬区の住みごちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた方の施策への要望



練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方(46人)の施策への要望(問9)をみると、第1位から第3位までの累計は、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(30.4%)が約3割と最も多く、次いで「交通安全対策」、「駅周辺のまちづくり」(ともに19.6%)、「地域環境の保全」(15.2%)などの順となっている。

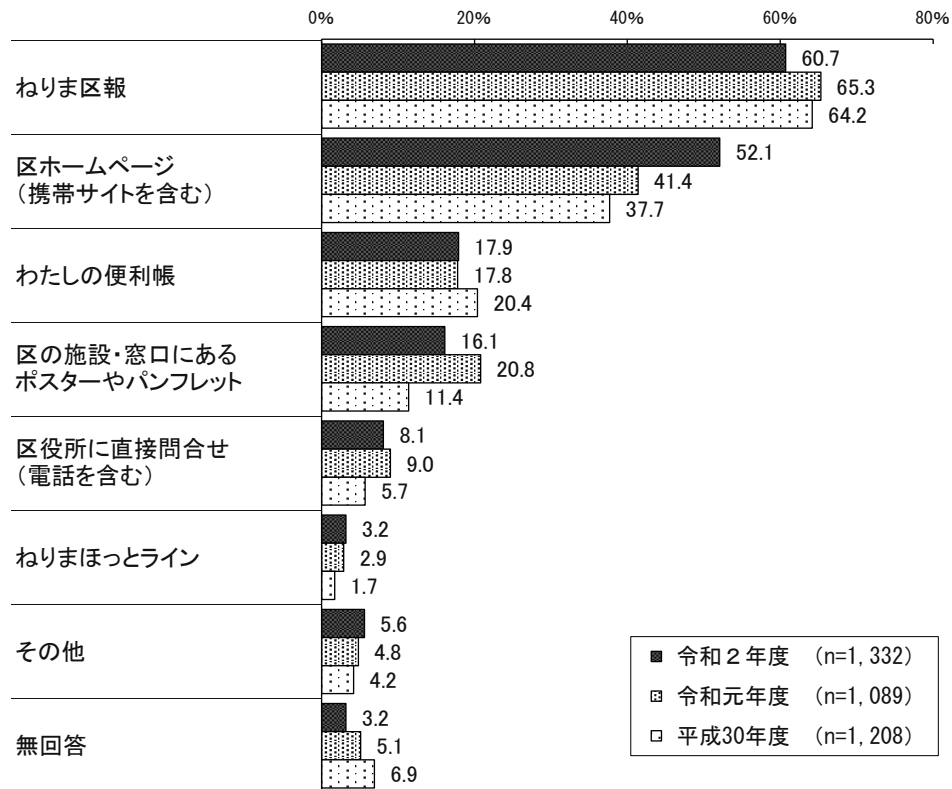
(図1-9-5)

(10) 区政情報の入手先

◇「ねりま区報」が約6割

問13 あなたは、区政の情報を主に何から入手していますか。
次の中から選んでください。(〇は2つまで)

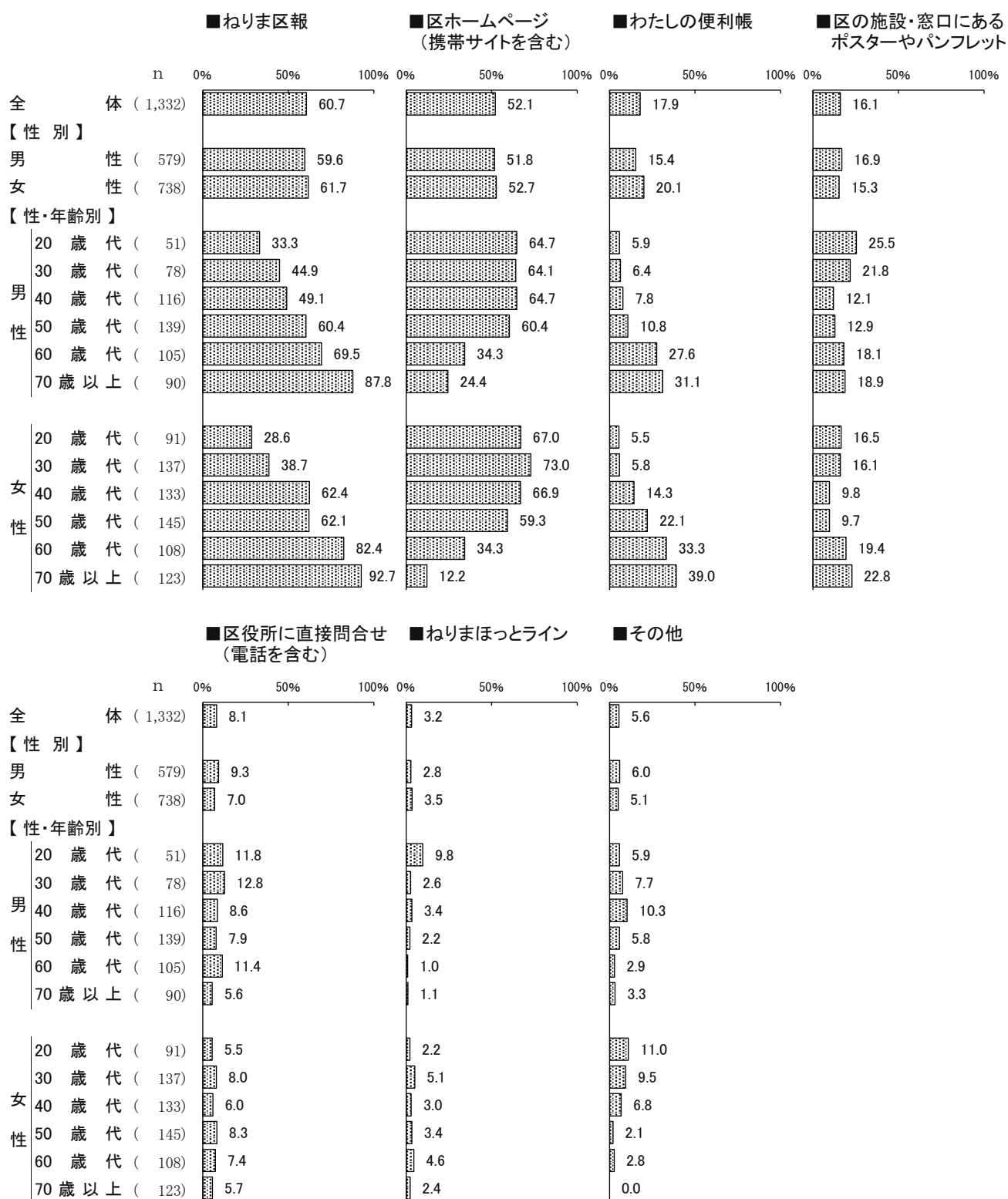
図1-10-1 区政情報の入手先



区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(60.7%)が約6割と最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(52.1%)、「わたしの便利帳」(17.9%)、「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」(16.1%)、「区役所に直接問合せ(電話を含む)」(8.1%)などの順となっている。

過去の調査と比較すると、前回調査(令和元年度)より「区ホームページ(携帯サイトを含む)」は10.7ポイント増加し、「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」は4.7ポイント、「ねりま区報」は4.6ポイント減少している。(図1-10-1)

図 1-10-2 区政情報の入手先—性別／性・年齢別



性別にみると、「わたしの便利帳」は女性の方が4.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ねりま区報」は女性70歳以上で9割を超え、男性70歳以上で9割近くとなっており、男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多くなっている。「区ホームページ(携帯サイトを含む)」は女性30歳代で7割を超え、男性20歳代から50歳代、女性20歳代、40歳代で6割台となっている。「わたしの便利帳」は女性70歳以上で約4割となっており、男女ともに年代が上がるほど割合が多くなっている。(図1-10-2)

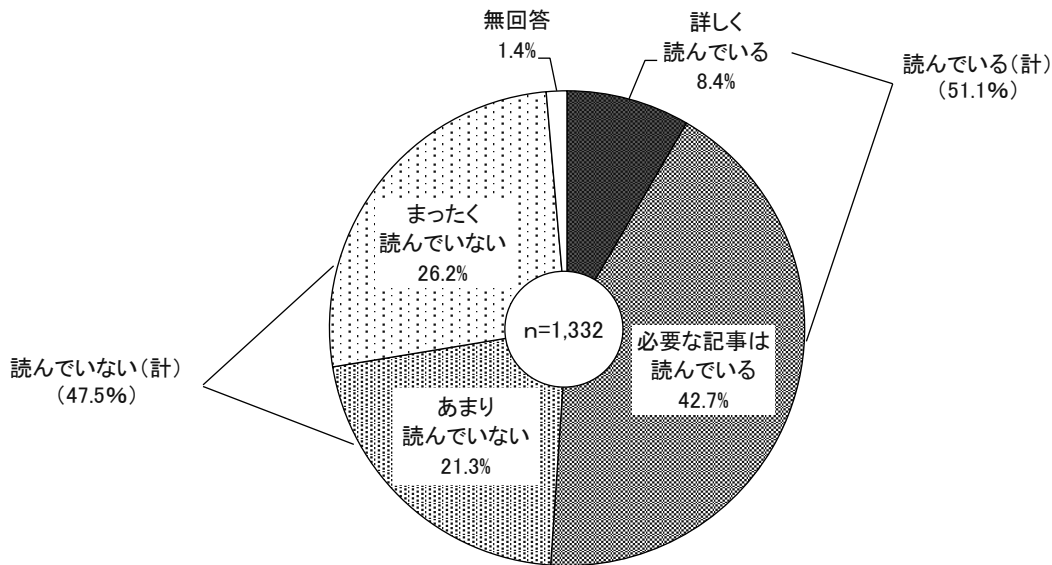
(11) 『ねりま区報』の閲読度

◇『読んでいる』が5割を超える

問14 あなたは、『ねりま区報』をどの程度読んでいますか。

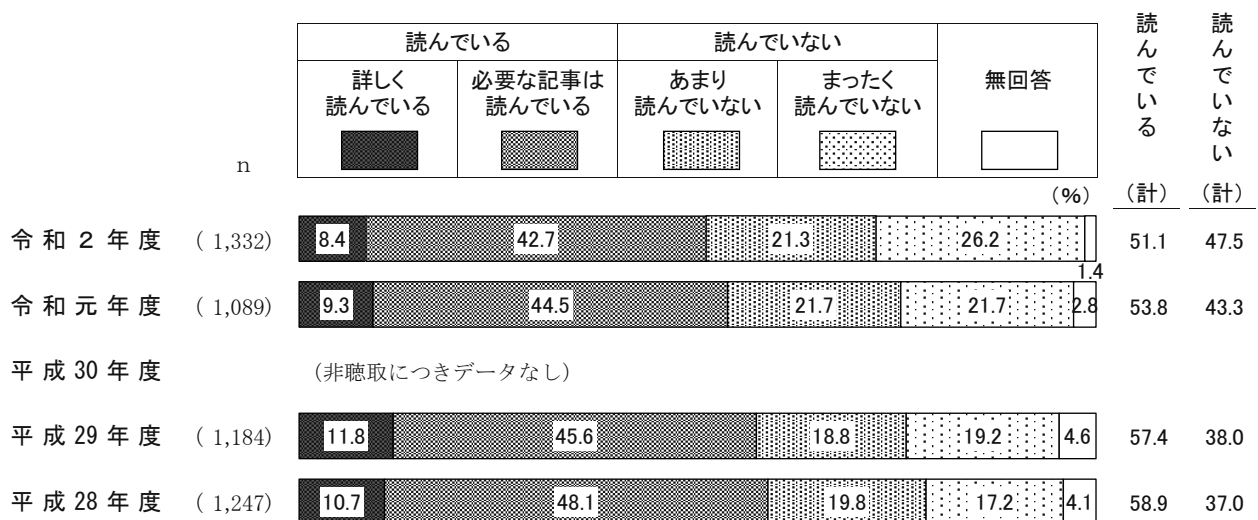
※『ねりま区報』は、毎月1日・11日・21日の月3回発行しています。日刊6紙(朝日・産経・東京・日経・毎日・読売)に折り込んでいるほか、駅・金融機関・郵便局・公衆浴場・ファミリーマート・セブン-イレブン、西友や区立施設に置いています。日刊6紙を購読していない世帯で、前記配布場所での入手が困難な方には送付もしています。また、区ホームページやスマートフォンからもご覧になることができます。

図1-11-1 『ねりま区報』の閲読度



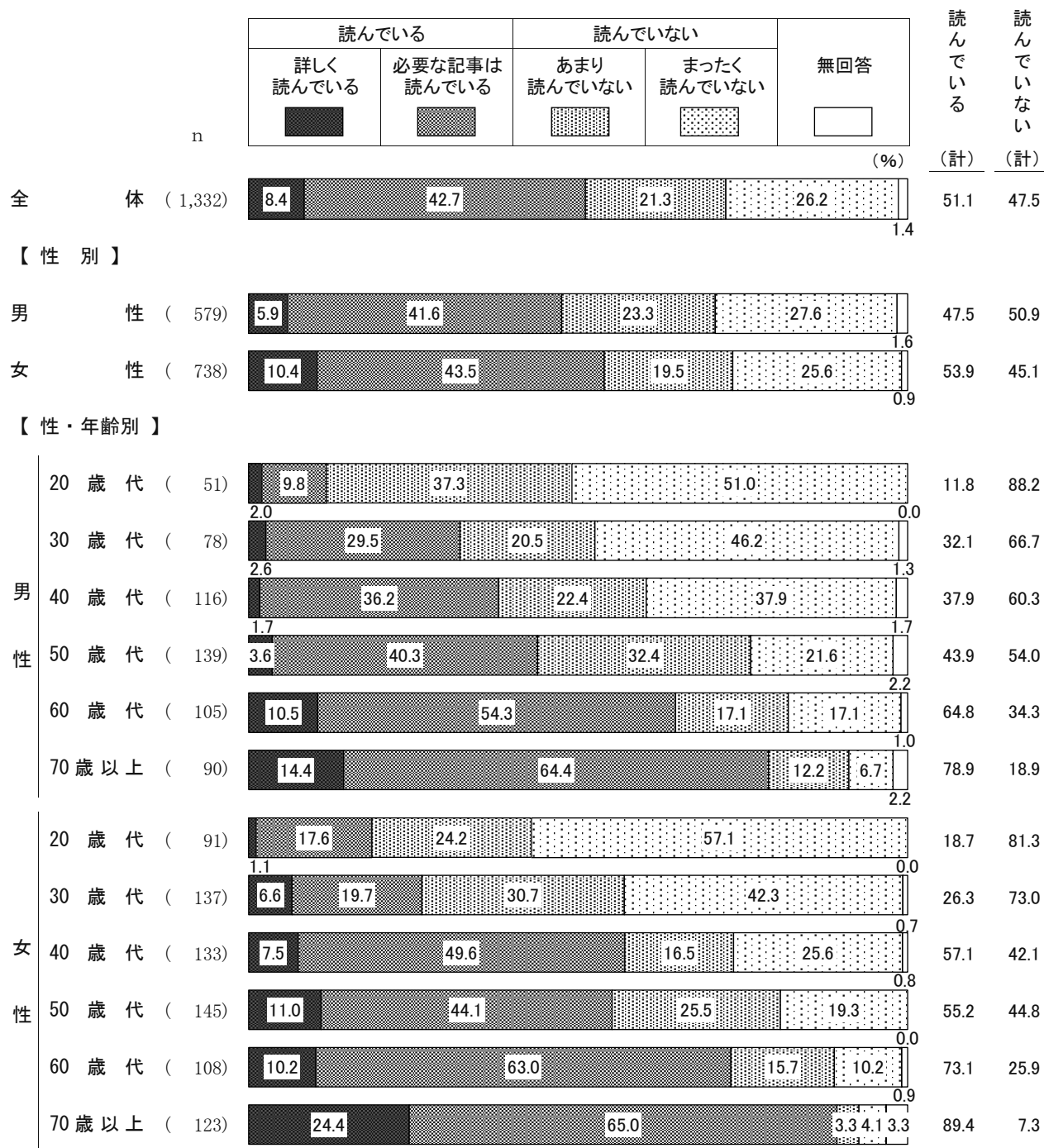
『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(8.4%)と「必要な記事は読んでいる」(42.7%)を合わせた『読んでいる』(51.1%)が5割を超えている。一方、「あまり読んでいない」(21.3%)と「まったく読んでいない」(26.2%)を合わせた『読んでいない』(47.5%)は5割近くとなっている。(図1-11-1)

図1-11-2 『ねりま区報』の閲読度一過年度比較



過去の調査と比較すると、「詳しく読んでいる」は平成28年度以降約1割で推移している。『読んでいる』は前回調査(令和元年度)より2.7ポイント減少している。(図1-11-2)

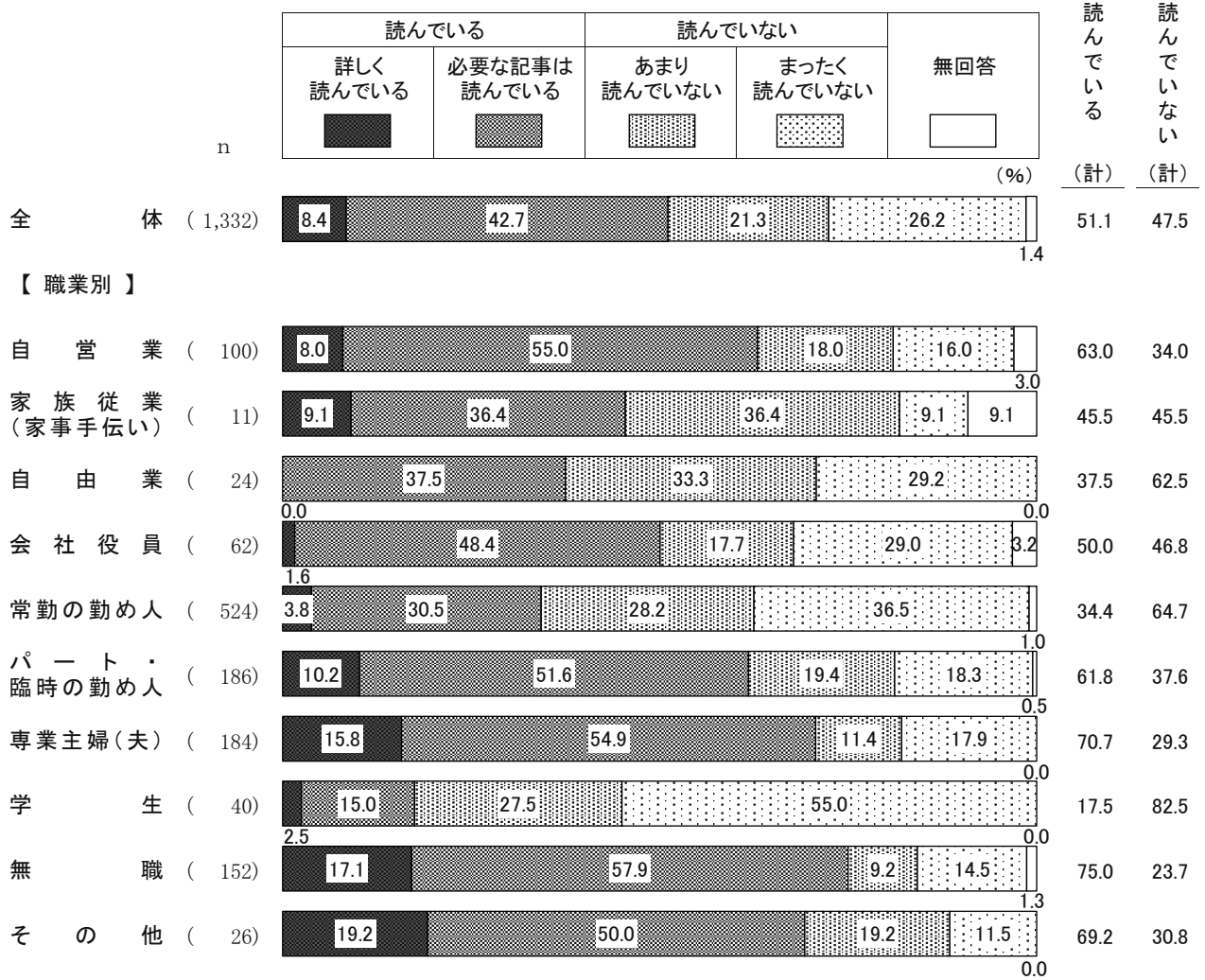
図1-11-3 『ねりま区報』の読読度—性別／性・年齢別



性別にみると、『読んでいる』は女性の方が6.4ポイント高く、5割台前半となっている。

性・年齢別にみると、『読んでいる』は男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多く、女性70歳以上で約9割、男性70歳以上で8割近くとなっている。一方、『読んでいない』は男性20歳代で9割近く、女性20歳代で8割を超えている。(図1-11-3)

図 1-11-4 『ねりま区報』の閲読度－職業別



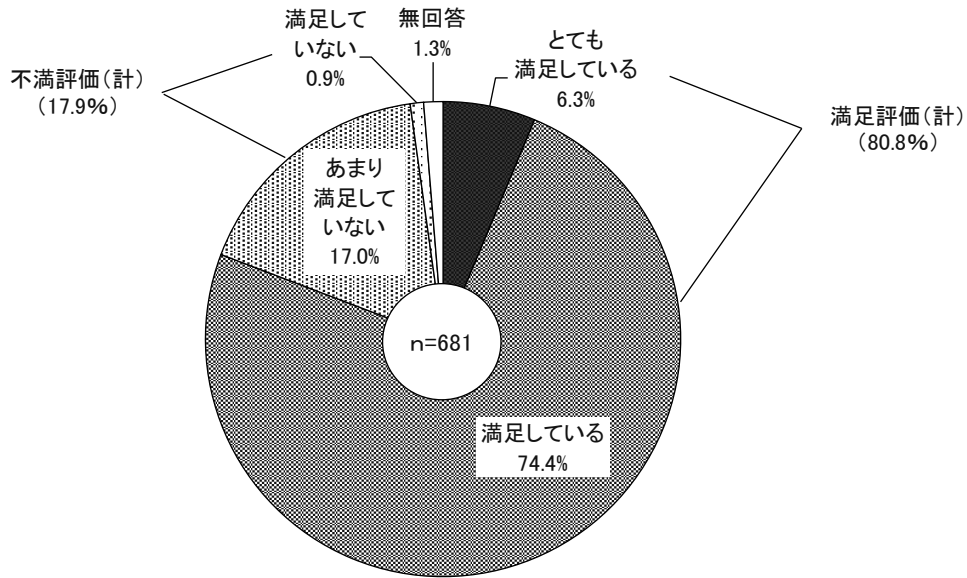
職業別にみると、『読んでいる』は無職で7割台半ば、専業主婦（夫）で約7割と多くなっている。（図 1-11-4）

(11-1) 『ねりま区報』の満足度

◇『満足評価』が約8割

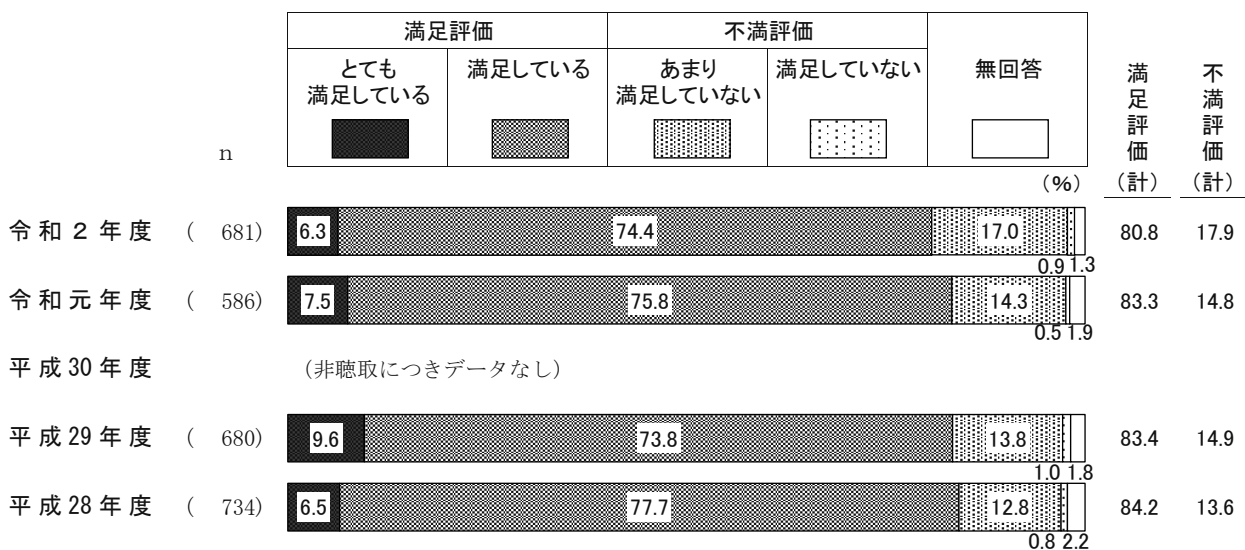
(問14で「1 詳しく読んでいます」または「2 必要な記事は読んでいます」と答えた方へ)
問14-1 あなたは、『ねりま区報』にどの程度満足していますか。

図1-11-5 『ねりま区報』の満足度



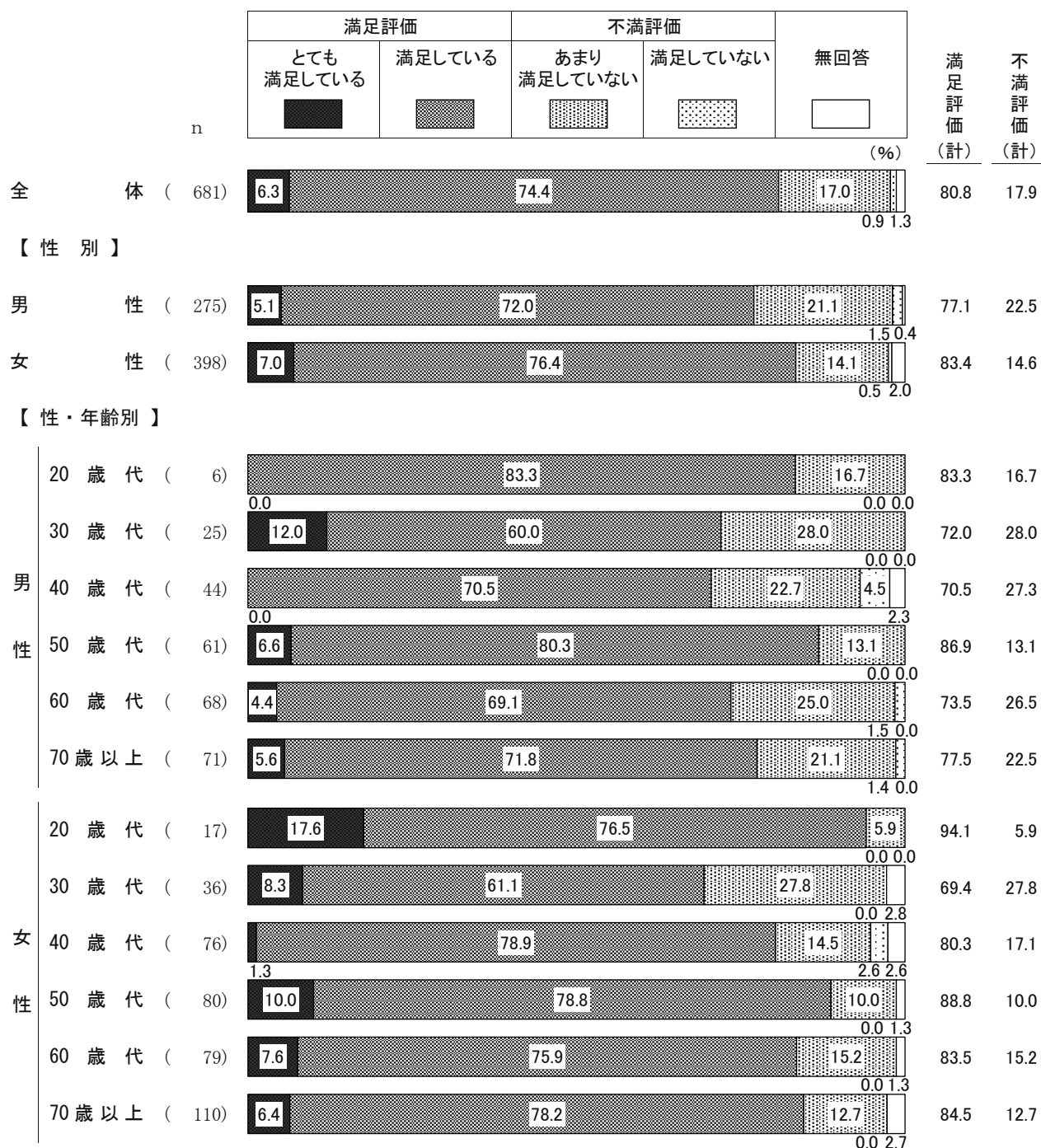
『ねりま区報』を「詳しく読んでいます」または「必要な記事は読んでいます」と答えた方(681人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(6.3%)と「満足している」(74.4%)を合わせた『満足評価』(80.8%)が約8割となっている。一方、「あまり満足していない」(17.0%)と「満足していない」(0.9%)を合わせた『不満評価』(17.9%)は2割近くとなっている。(図1-11-5)

図1-11-6 『ねりま区報』の満足度一過年度比較



過去の調査と比較すると、『満足評価』は前回調査(令和元年度)より2.5ポイント減少している。(図1-11-6)

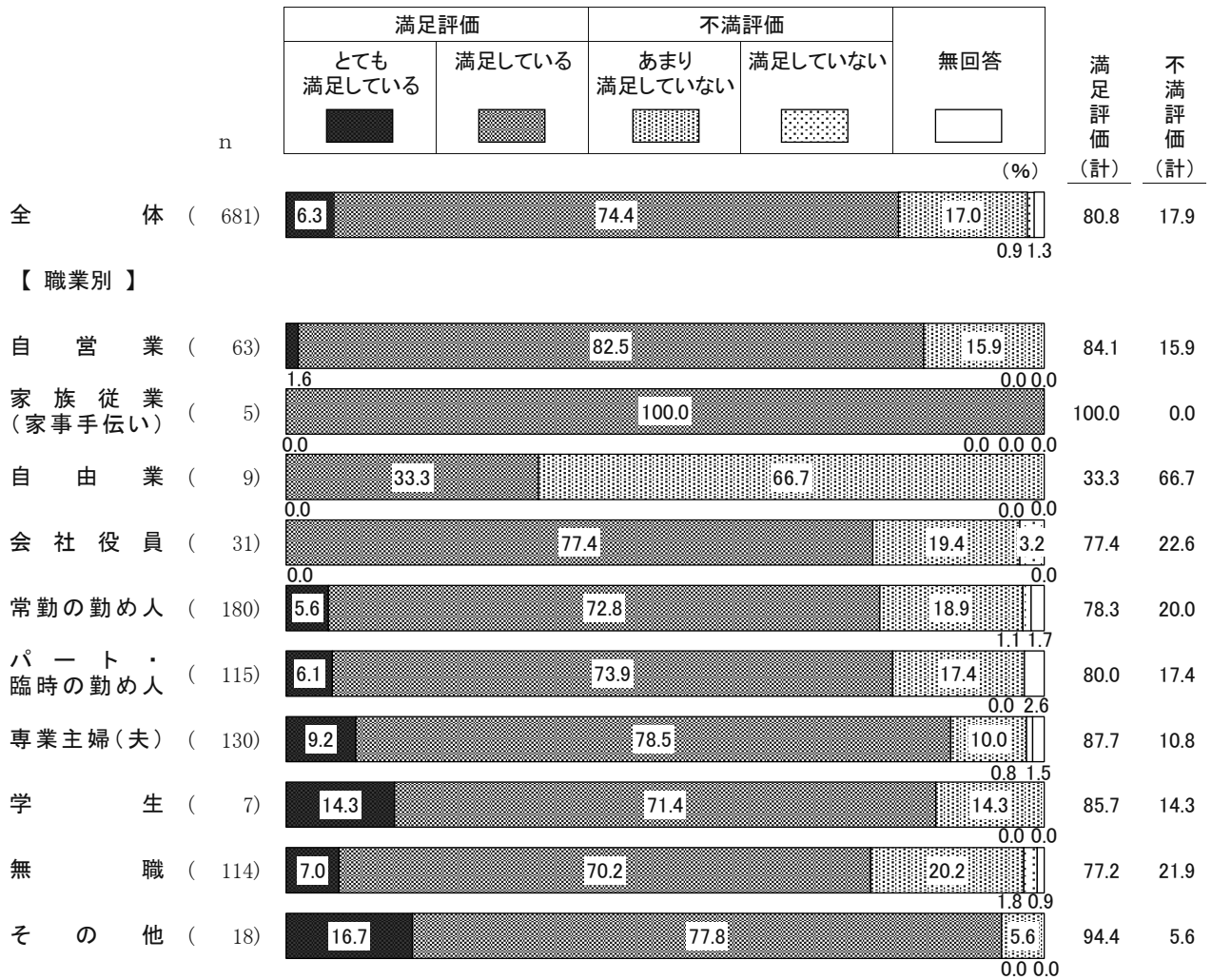
図1-11-7 『ねりま区報』の満足度—性別／性・年齢別



性別にみると、『満足評価』は女性の方が6.3ポイント高く、8割台前半となっている。

性・年齢別にみると、『満足評価』は女性50歳代で9割近く、男性50歳代、女性70歳以上で8割台半ばとなっている。『不満評価』は男性40歳代・60歳代、女性30歳代で2割台後半となっている。(図1-11-7)

図 1-11-8 『ねりま区報』の満足度—職業別



職業別にみると、『満足評価』は専業主婦（夫）で9割近くと多くなっている。

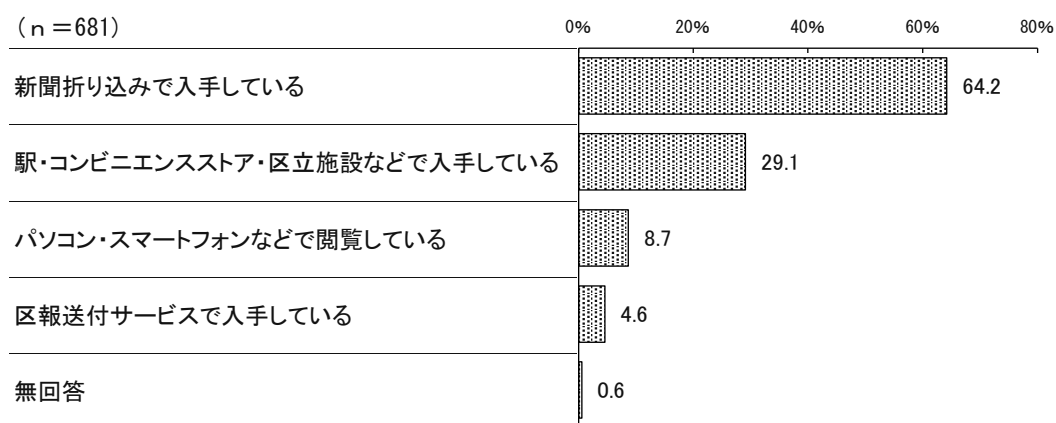
(図 1-11-8)

(11-2) 『ねりま区報』の入手手段

◇「新聞折り込みで入手している」が6割台半ば

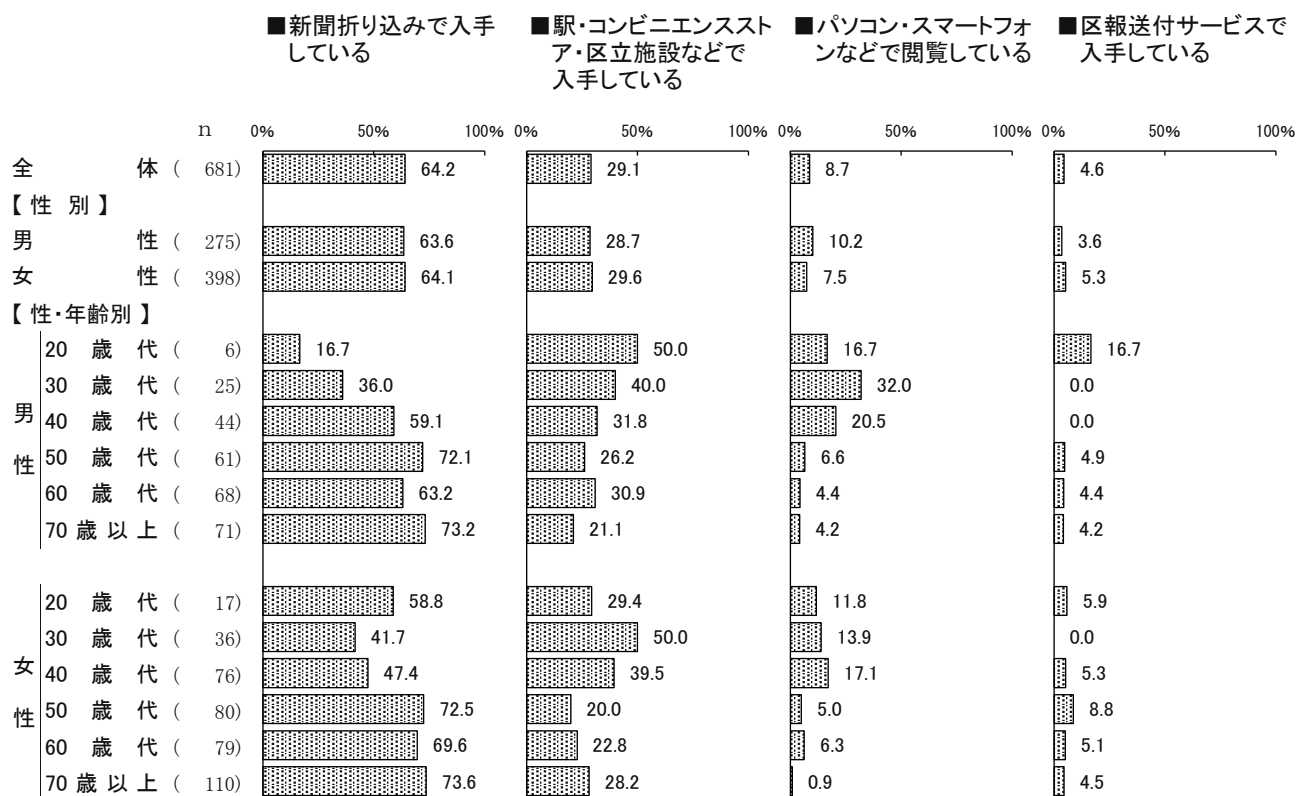
(問14で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ)
問14-2 『ねりま区報』をどのような形で入手してご覧になっていますか。
(〇はいくつでも)

図1-11-9 『ねりま区報』の入手手段



『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(681人)に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」(64.2%)が6割台半ばと最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」(29.1%)が約3割、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」(8.7%)が1割を下回っている。(図1-11-9)

図 1-11-10 『ねりま区報』の入手手段—性別／性・年齢別



性別にみると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。

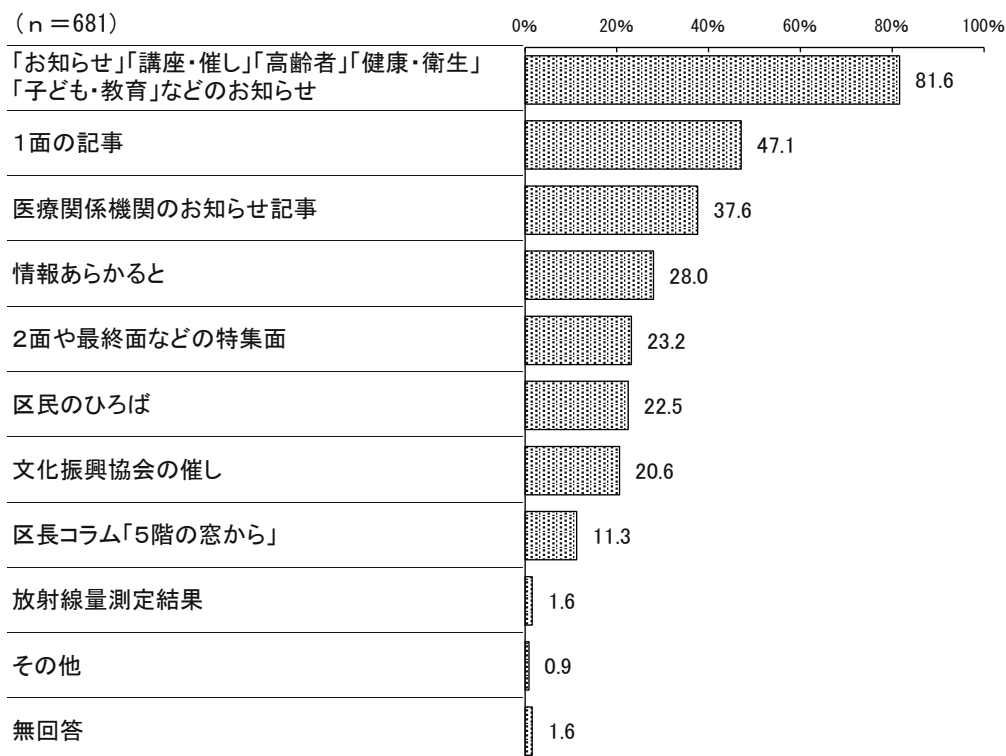
性・年齢別にみると、「新聞折り込みで入手している」は男性50歳代・70歳以上、女性50歳代・70歳以上で7割を超えている。「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」は女性30歳代で5割となっている。（図 1-11-10）

(11-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

◇ 「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」が8割を超える

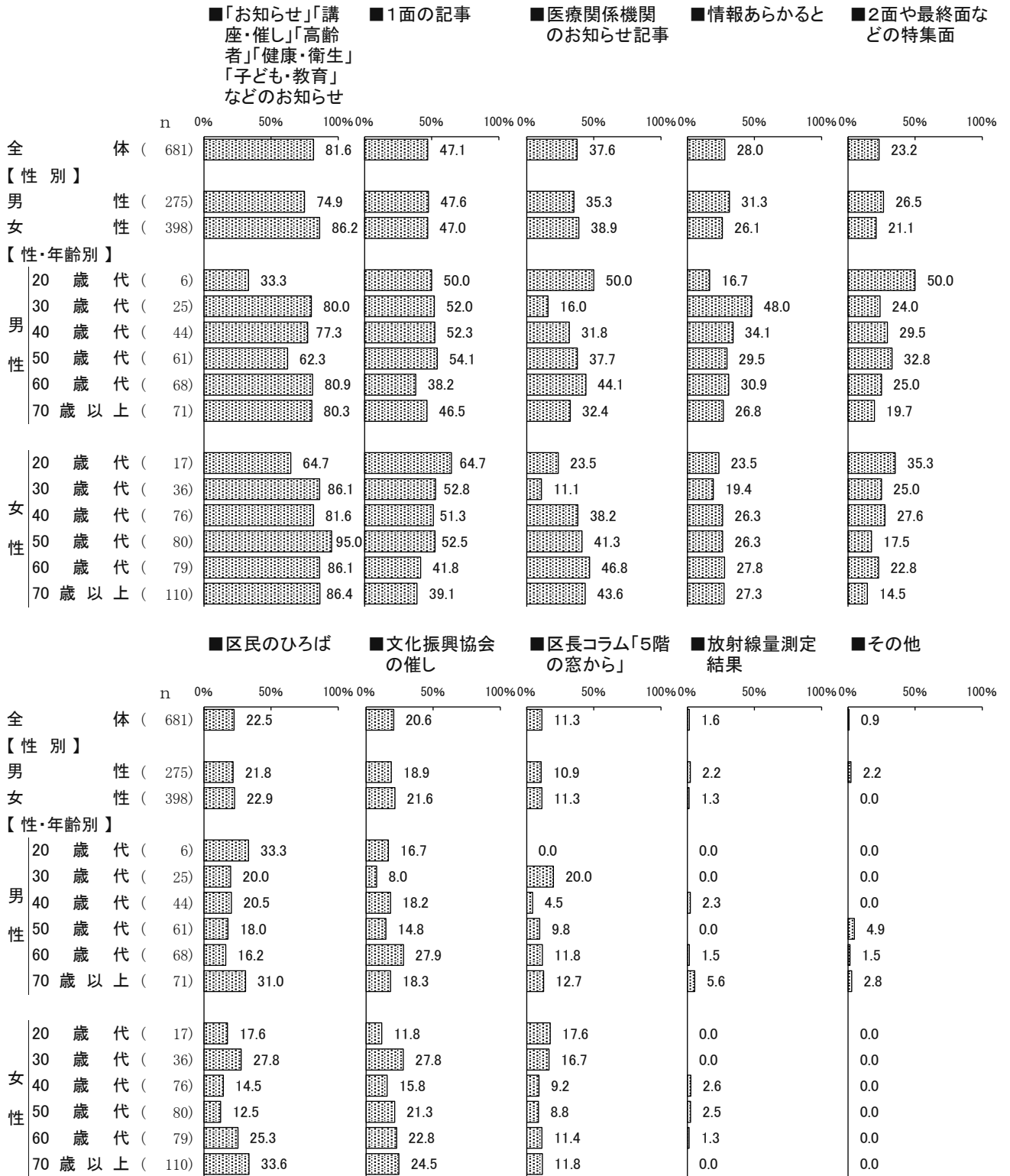
(問14で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ)
問14-3 『ねりま区報』でよくご覧になる記事はどこですか。(〇は3つまで)

図1-11-11 『ねりま区報』でよく閲覧している記事



『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(681人)に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」(81.6%)が8割を超えて最も多く、次いで「1面の記事」(47.1%)、「医療関係機関のお知らせ記事」(37.6%)、「情報あらかると」(28.0%)などの順となっている。(図1-11-11)

図 1-11-12 『ねりま区報』でよく閲覧している記事—性別／性・年齢別



性別にみると、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」は女性の方が11.3ポイント高く、8割台半ばとなっており、「2面や最終面などの特集面」は男性の方が5.4ポイント高く、2割台半ばとなっている。

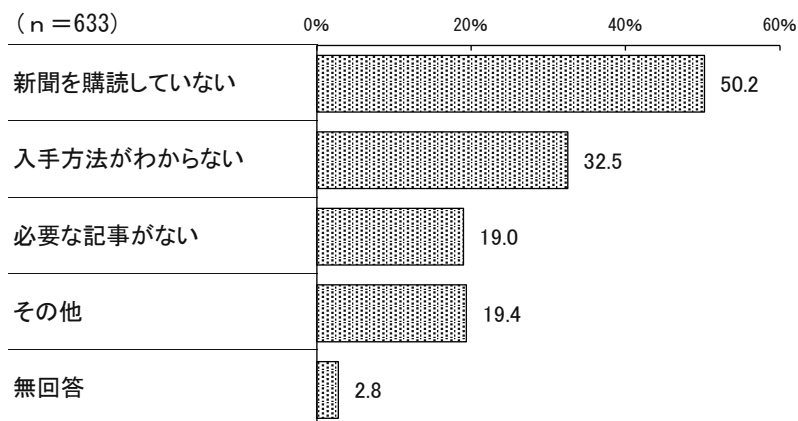
性・年代別にみると、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」は女性50歳代で9割台半ばと多くなっている。(図1-11-12)

(11-4) 『ねりま区報』を読んでいない理由

◇「新聞を購読していない」が約5割

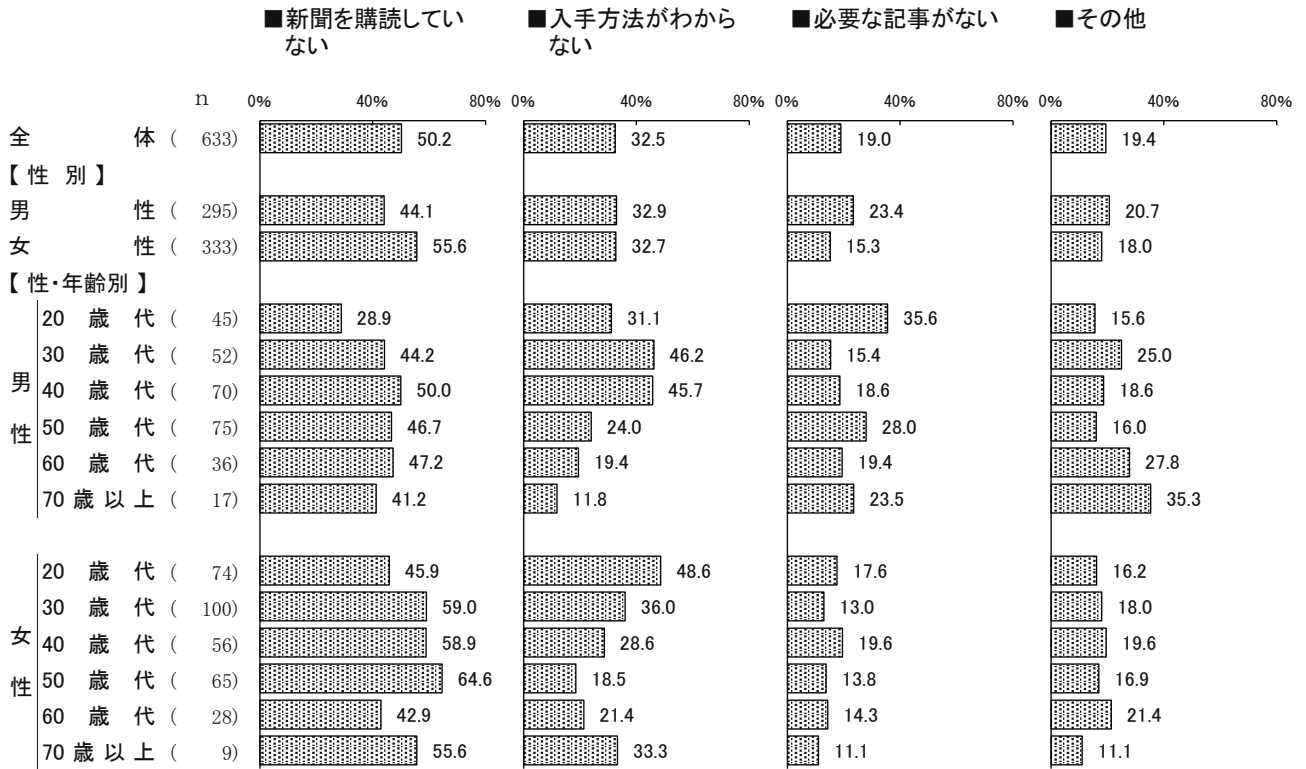
(問14で「3 あまり読んでいない」または「4 まったく読んでいない」と答えた方へ)
問14-4 あなたが、『ねりま区報』を読んでいない理由はなぜですか。
(〇はいくつでも)

図1-11-13 『ねりま区報』を読んでいない理由



『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(633人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(50.2%)が約5割と最も多く、次いで「入手方法がわからない」(32.5%)、「必要な記事がない」(19.0%)などの順となっている。(図1-11-13)

図 1-11-14 『ねりま区報』を読んでいない理由—性別／性・年齢別



性別にみると、「新聞を購読していない」は女性の方が11.5ポイント高く、5割台半ばとなっており、「必要な記事がない」は男性の方が8.1ポイント高く、2割台前半となっている。

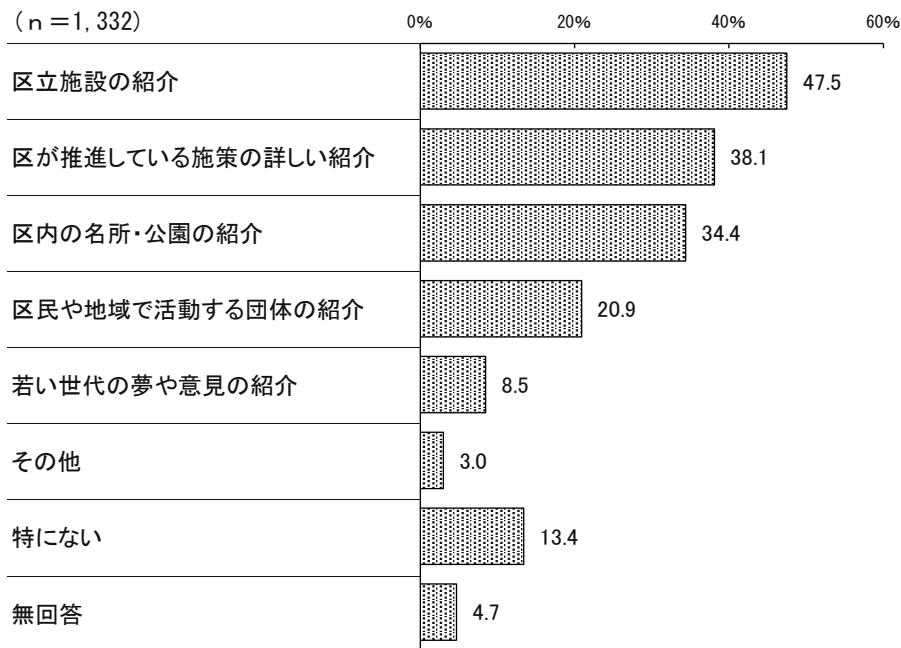
性・年齢別にみると、「新聞を購読していない」は女性50歳代で6割台半ば、女性30歳代・40歳代で約6割、男性40歳代で5割と多くなっている。「入手方法がわからない」は女性20歳代で5割近く、男性30歳代・40歳代で4割台半ばと多くなっている。(図1-11-14)

(12) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）

◇「区立施設の紹介」が5割近く

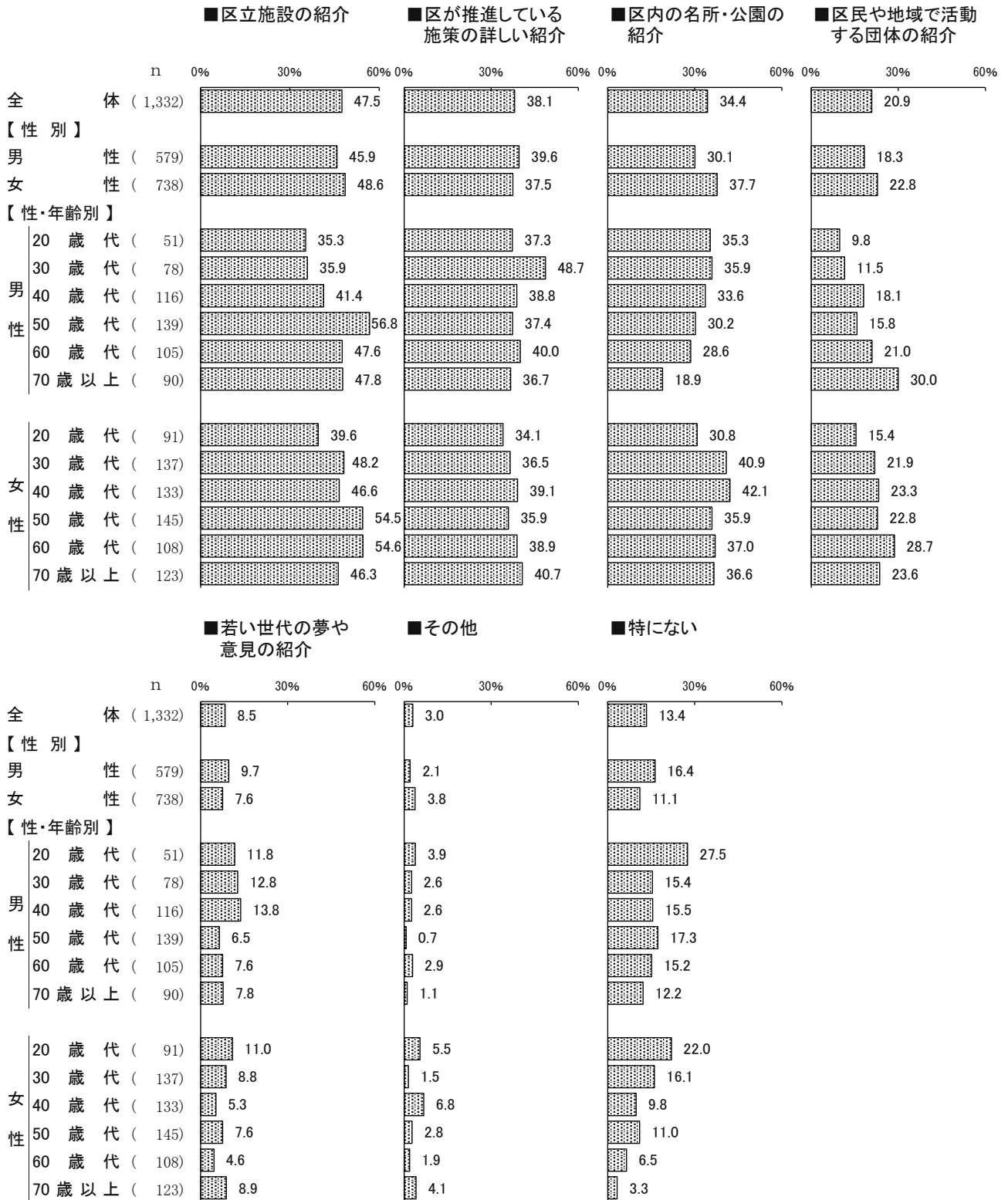
問15 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）はありますか。
（○は2つまで）

図1-12-1 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）



『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）を聞いたところ、「区立施設の紹介」（47.5%）が5割近くと最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」（38.1%）、「区内の名所・公園の紹介」（34.4%）、「区民や地域で活動する団体の紹介」（20.9%）などの順となっている。（図1-12-1）

図1-12-2 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）－性別／性・年齢別

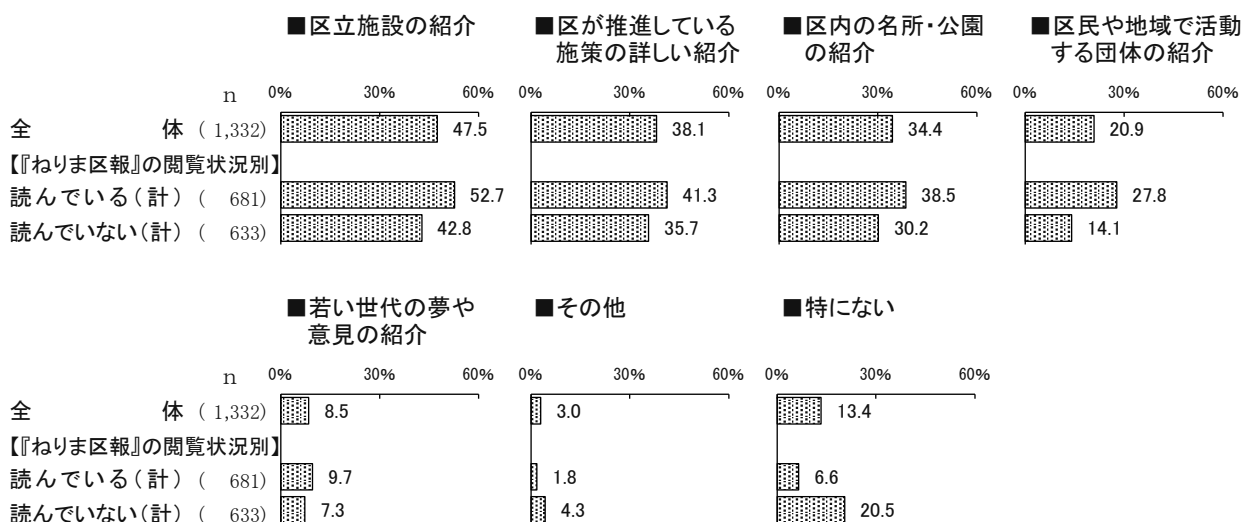


性別にみると、「区内の名所・公園の紹介」は女性の方が7.6ポイント高く、4割近くとなっており、「区民や地域で活動する団体の紹介」は女性の方が4.5ポイント高く、2割台前半となっている。

性・年齢別にみると、「区立施設の紹介」は男性50歳代、女性50歳代・60歳代で5割台半ば、「区が推進している施策の詳しい紹介」は男性30歳代で5割近くと多くなっている。

(図1-12-2)

図 1-12-3 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）－『ねりま区報』の閲覧度別



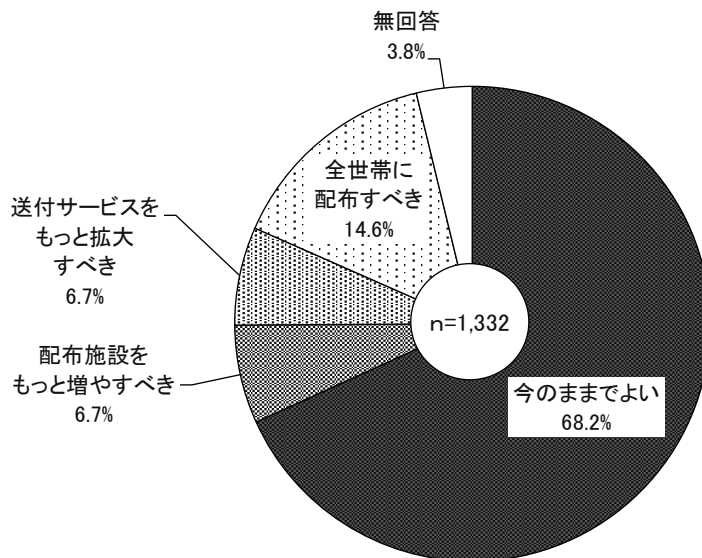
『ねりま区報』の閲覧状況別にみると、読んでいる（計）は読んでいない（計）と比べて、「区民や地域で活動する団体の紹介」で13.7ポイント、「区立施設の紹介」で9.9ポイント、「区内の名所・公園の紹介」で8.3ポイント高くなっている。（図 1-12-3）

(13) 『ねりま区報』の配布方法の意向

◇「今のままでよい」が7割近く

問16 『ねりま区報』は新聞折り込みに加え、区立施設、区内の全駅、コンビニエンスストアなどで配布しています。また、新聞を未購読で、前記の施設に取りに行くのが難しい方に送付サービスを行っています。区報の配布方法についてどう思いますか。

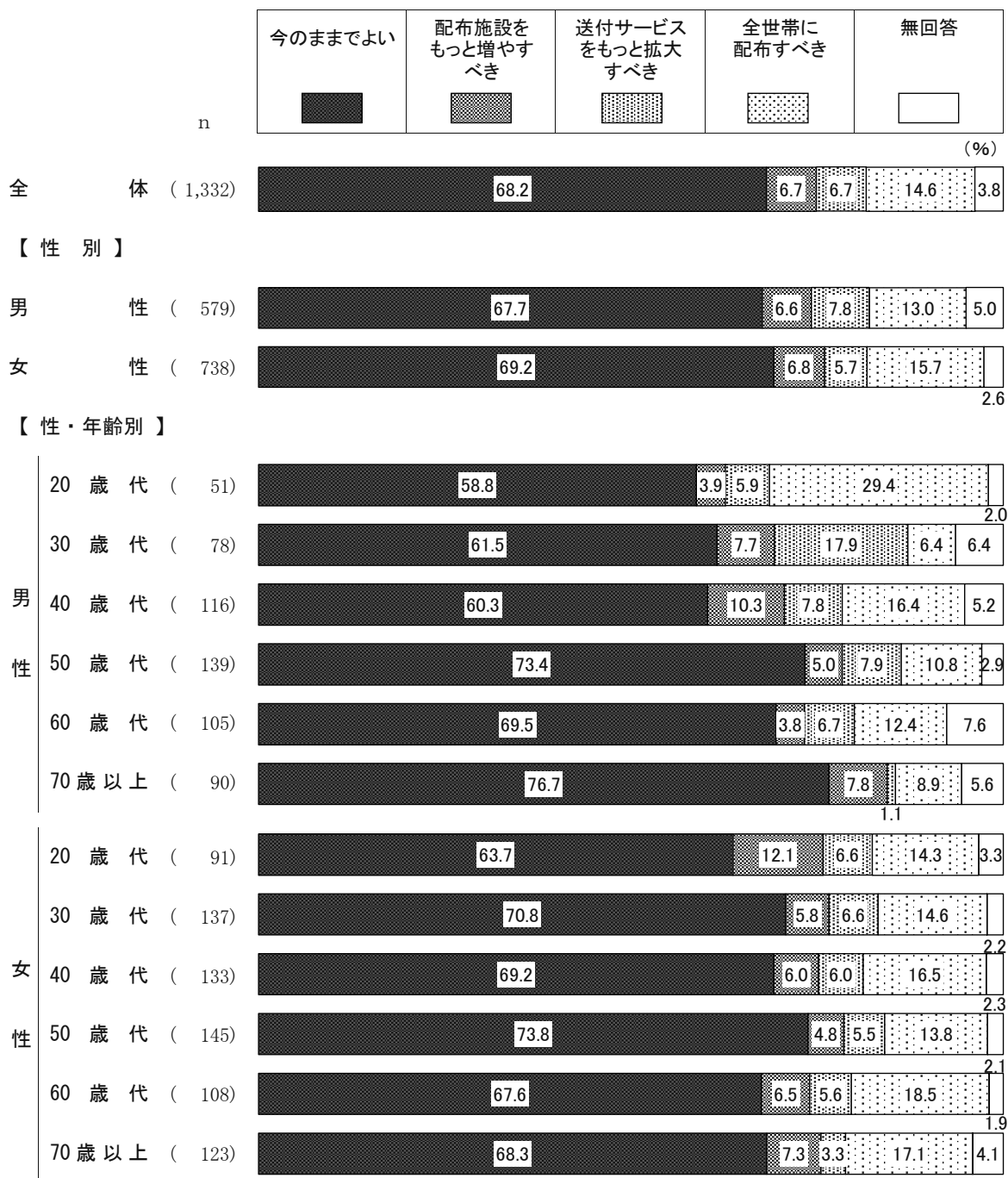
図1-13-1 『ねりま区報』の配布方法の意向



『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」（68.2%）が7割近くとなっている。「全世帯に配布すべき」（14.6%）は1割台半ば、「配布施設をもっと増やすべき」、「送付サービスをもっと拡大すべき」（ともに6.7%）は1割を下回っている。

（図1-13-1）

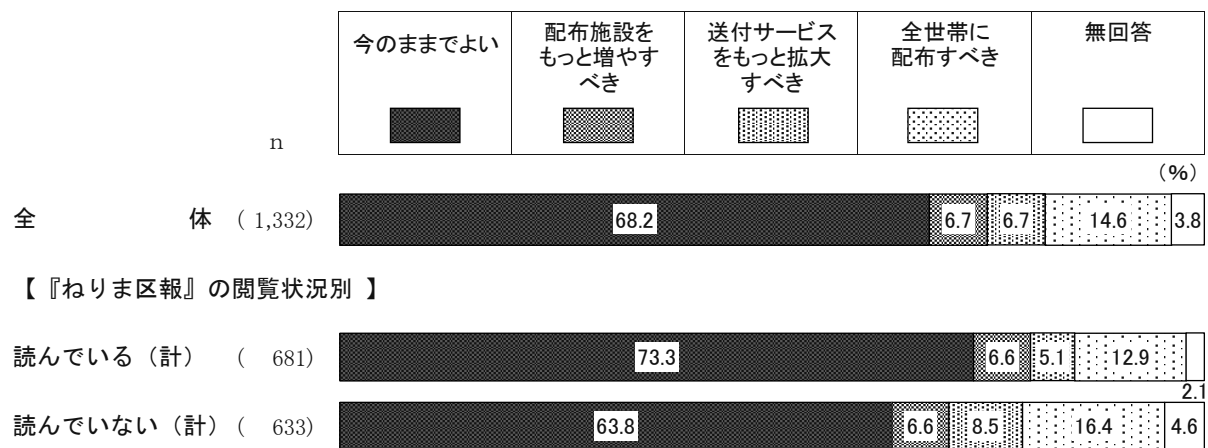
図 1-13-2 『ねりま区報』の配布方法の意向—性別／性・年齢別



性別にみると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「今のままでよい」は男性70歳以上で7割台半ばと多くなっている。一方、「全世帯に配布すべき」は男性20歳代で約3割となっている。(図1-13-2)

図1-13-3 『ねりま区報』の配布方法の意向－『ねりま区報』の閲覧度別



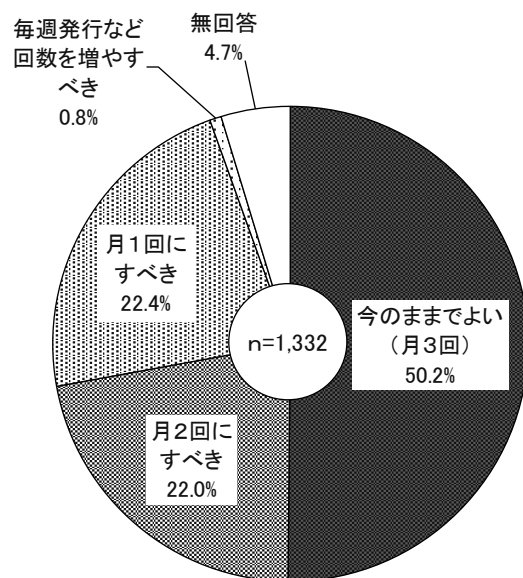
『ねりま区報』の閲覧状況別にみると、「今のままでよい」は読んでいる（計）で7割台前半と多くなっている。「全世帯に配布すべき」は読んでいない（計）で1割台半ばとなっている。
 (図1-13-3)

(14) 『ねりま区報』の発行回数の意向

◇「今のままでよい（月3回）」が約5割

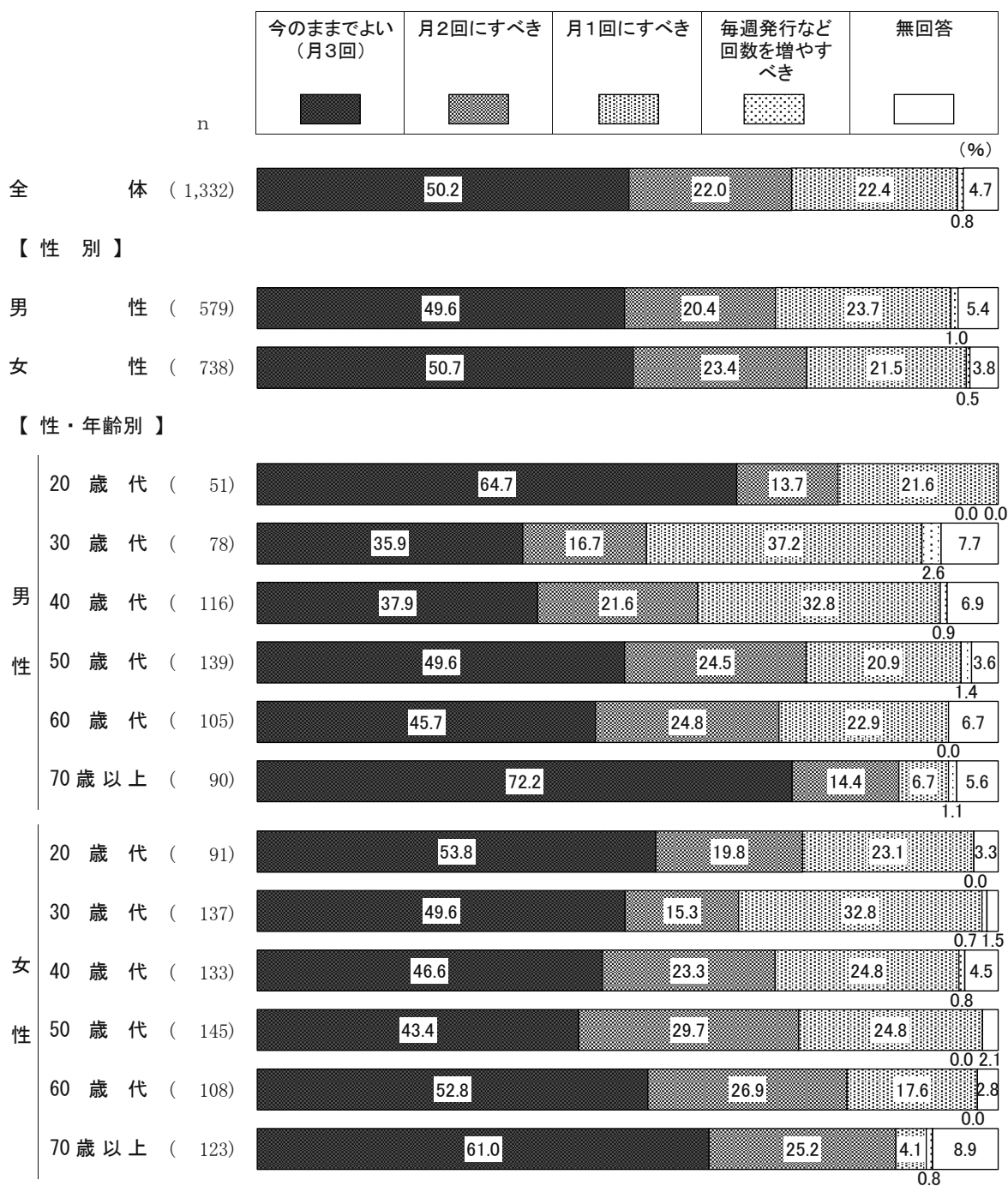
問17 『ねりま区報』は月3回発行しています。東京23区では月3回、月2回が主流ですが、都外では月1回の発行が多くなっています。区報の発行回数についてどう思いますか。

図1-14-1 『ねりま区報』の発行回数の意向



『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい（月3回）」（50.2%）が約5割となっている。一方、「月2回にすべき」（22.0%）、「月1回にすべき」（22.4%）はともに2割台前半となっている。（図1-14-1）

図 1-14-2 『ねりま区報』の発行回数の意向—性別／性・年齢別

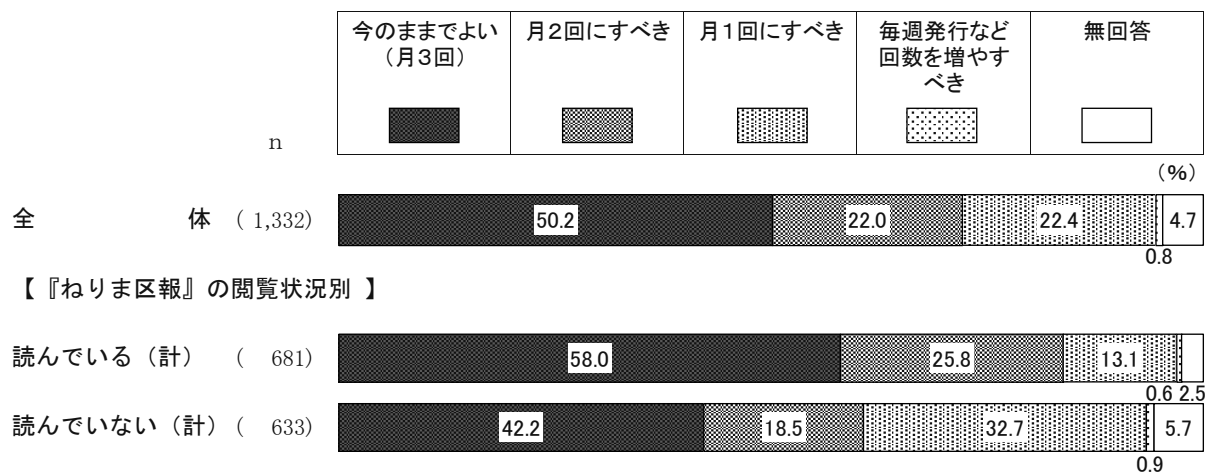


性別にみると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、「今のままでよい（月3回）」は男性70歳以上で7割を超え、男性20歳代で6割台半ば、女性70歳以上で6割を超えて多くなっている。「月2回にすべき」は女性50歳代で約3割、「月1回にすべき」は男性30歳代・40歳代、女性30歳代で3割を超えている。

(図 1-14-2)

図1-14-3 『ねりま区報』の発行回数の意向－『ねりま区報』の閲覧度別



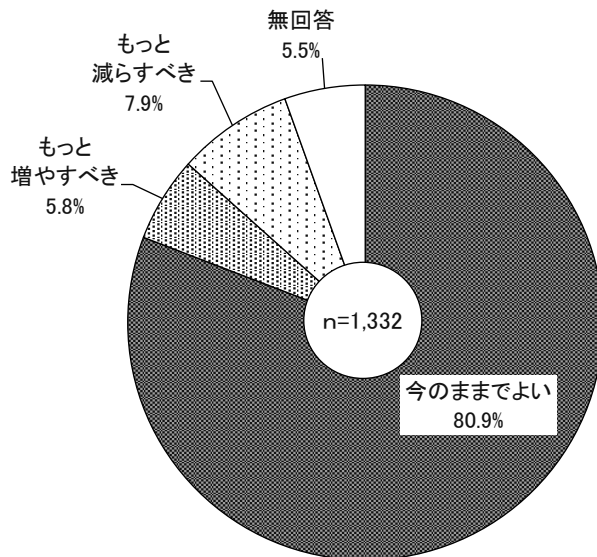
『ねりま区報』の閲覧状況別にみると、「今のままでよい（月3回）」は読んでいる（計）で6割近くと多くなっている。（図1-14-3）

(15) 『ねりま区報』の情報量の意向

◇「今のままでよい」が約8割

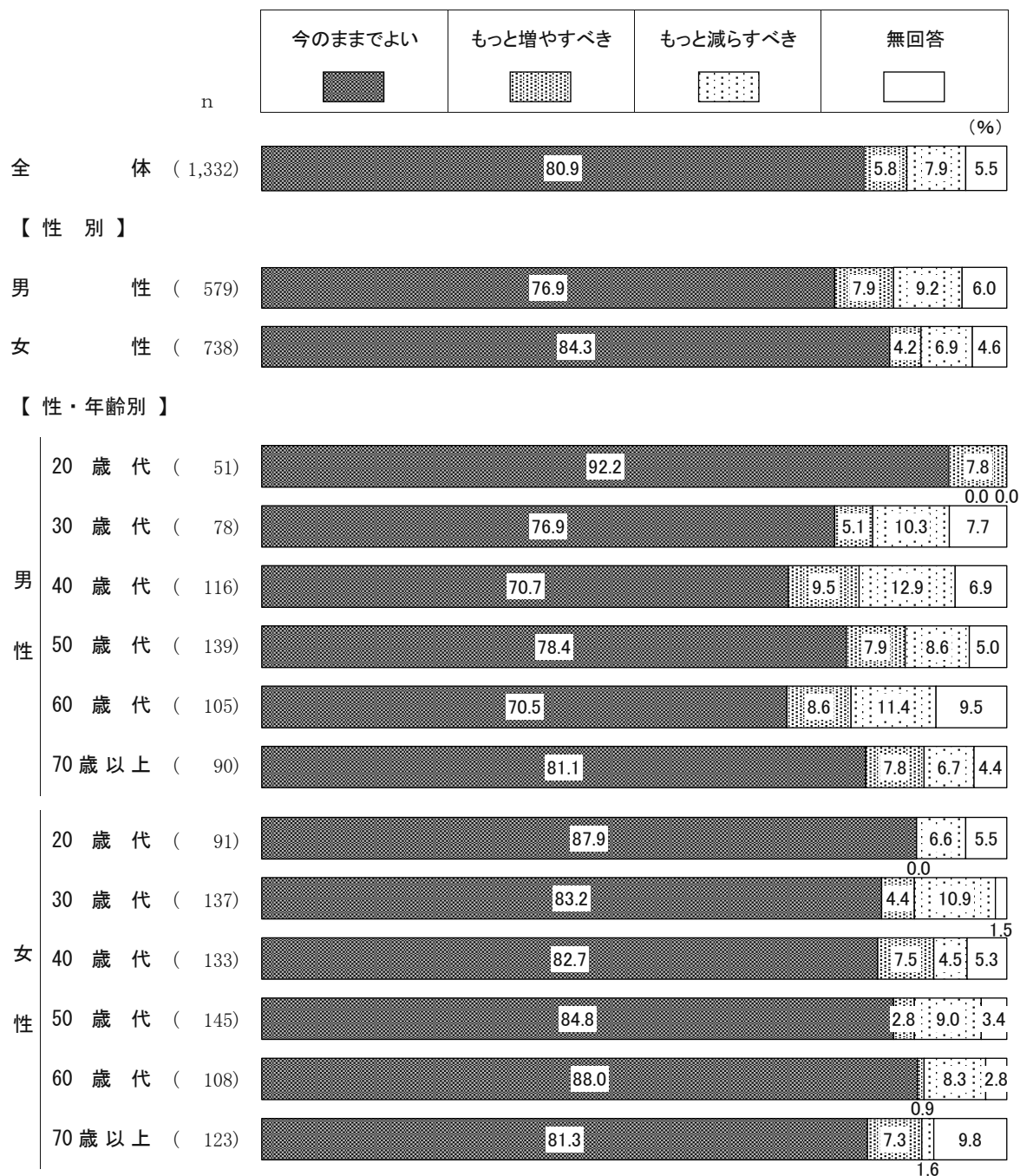
問18 『ねりま区報』では、原則として1日号12ページ、11日号・21日号8ページとなっています。ねりま区報の情報量についてどう思いますか。

図1-15-1 『ねりま区報』の情報量の意向



『ねりま区報』の情報量の意向を聞いたところ、「今のままでよい」（80.9%）が約8割と多くなっている。一方、「もっと増やすべき」（5.8%）、「もっと減らすべき」（7.9%）はともに1割を下回っている。（図1-15-1）

図 1-15-2 『ねりま区報』の情報量の意向—性別／性・年齢別

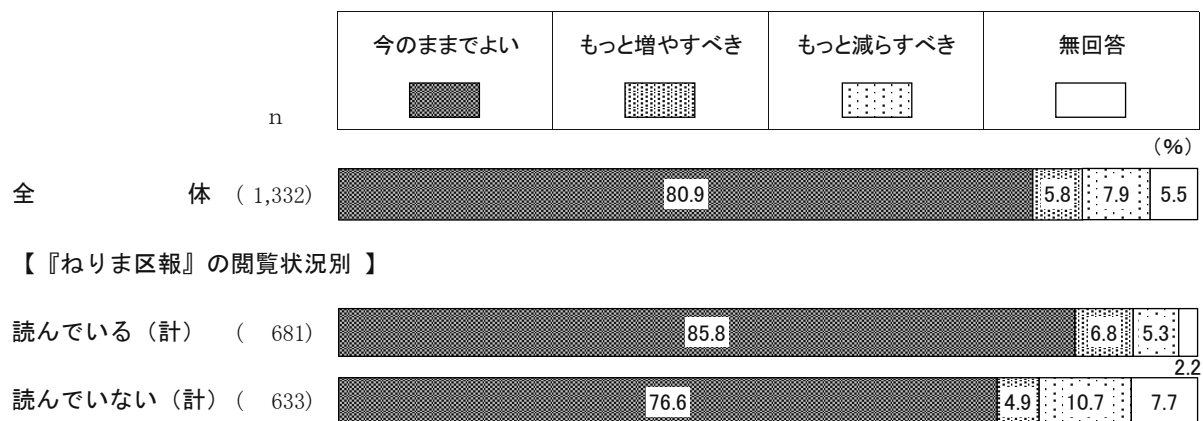


性別にみると、「今のままでよい」は女性の方が7.4ポイント高く、8割台半ばとなっている。

性・年齢別にみると、「今のままでよい」は男性20歳代で9割を超えて多くなっている。一方、「もっと減らすべき」は男性30歳代・40歳代・60歳代、女性30歳代で1割を超えている。

(図 1-15-2)

図1-15-3 『ねりま区報』の情報量の意向－『ねりま区報』の閲覧度別



『ねりま区報』の閲覧状況別にみると、「今のままでよい」は読んでいる（計）で8割台半ばと多くなっている。（図1-15-3）

(16) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度

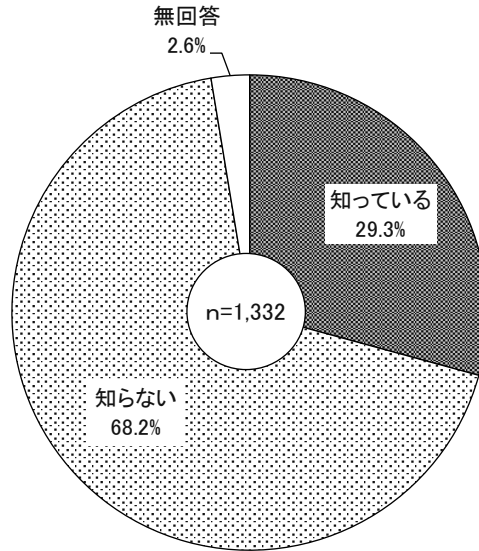
◇「知っている」が約3割

問19 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っていますか。

※練馬区情報番組『ねりまほっとライン』は、ケーブルテレビJ：COM東京（デジタル：11チャンネル）で毎日放映しています。区の事業やできごとなどを紹介し、区民のみなさまに、区政に関心を持っていただくことを目的としています。

※放送時間は、毎日9時、正午、午後8時の3回です（1回15分）。

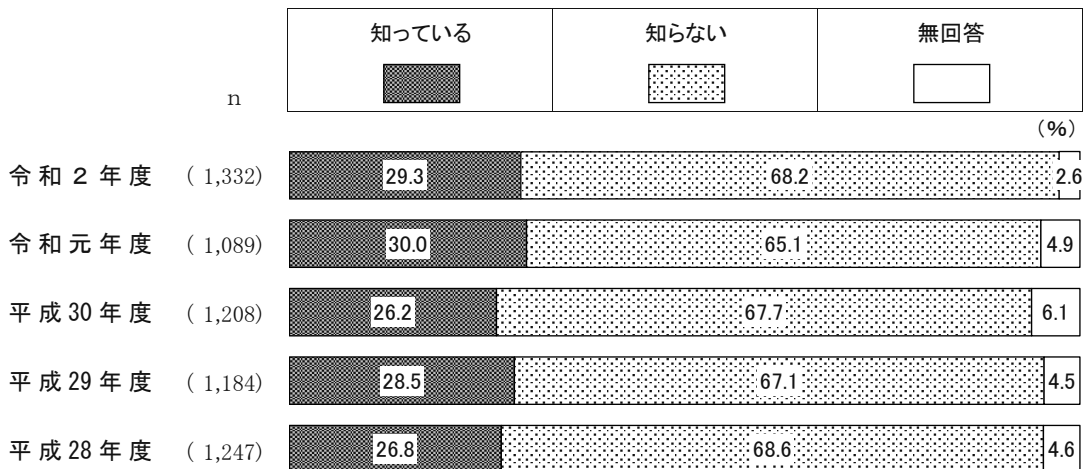
図1-16-1 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度



『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(29.3%)が約3割となっている。一方、「知らない」(68.2%)は7割近くとなっている。

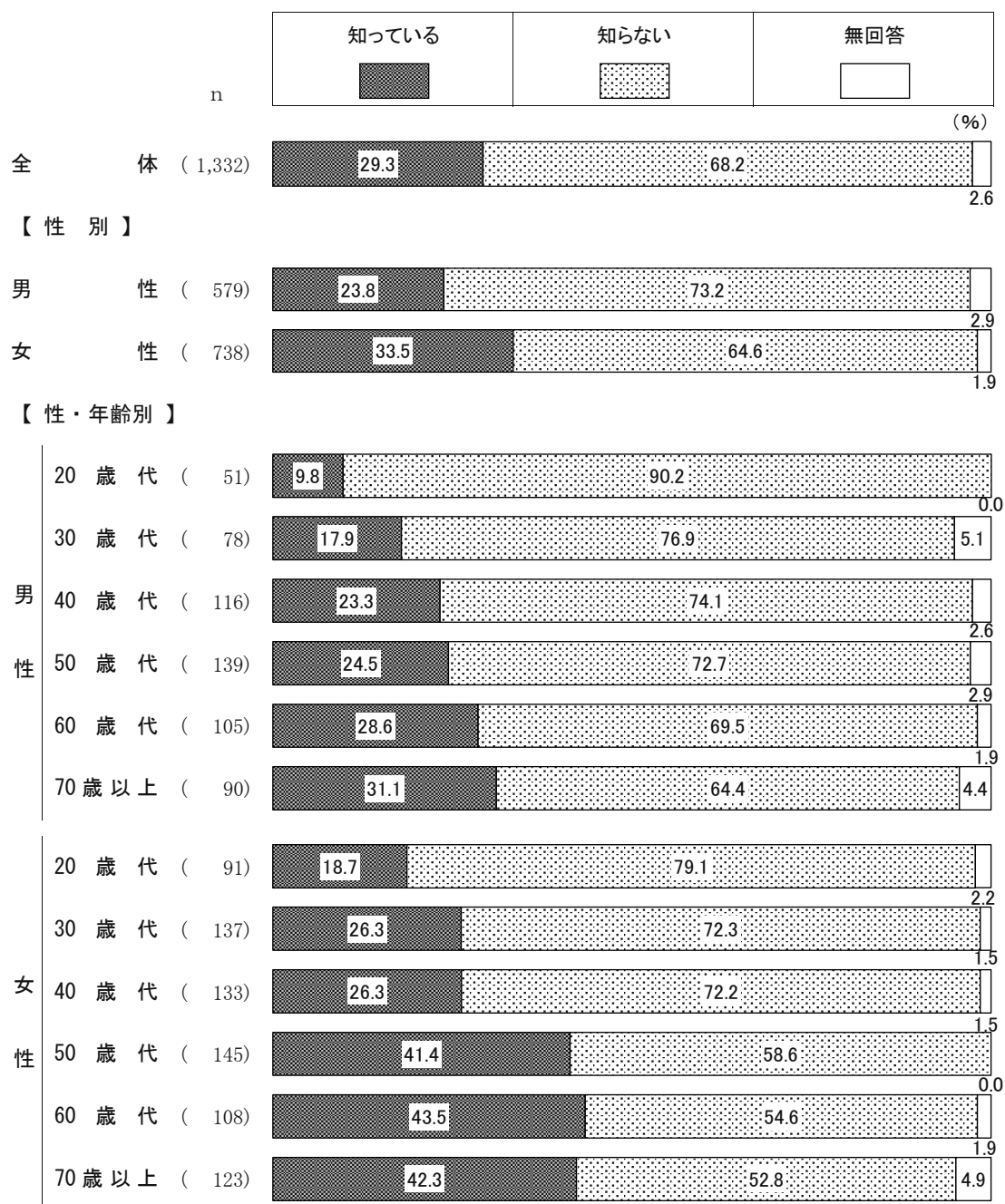
(図1-16-1)

図1-16-2 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度—過年度比較



過去の調査と比較すると、「知っている」は前回調査（令和元年度）と大きな差はみられない。(図1-16-2)

図1-16-3 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度—性別／性・年齢別



性別にみると、「知っている」は女性の方が9.7ポイント高く、3割台前半となっている。

性・年齢別にみると、「知っている」は女性50歳代・60歳代・70歳以上で4割を超えて多くなっている。一方、「知らない」は男性20歳代で約9割、女性20歳代で約8割と多くなっている。(図1-16-3)

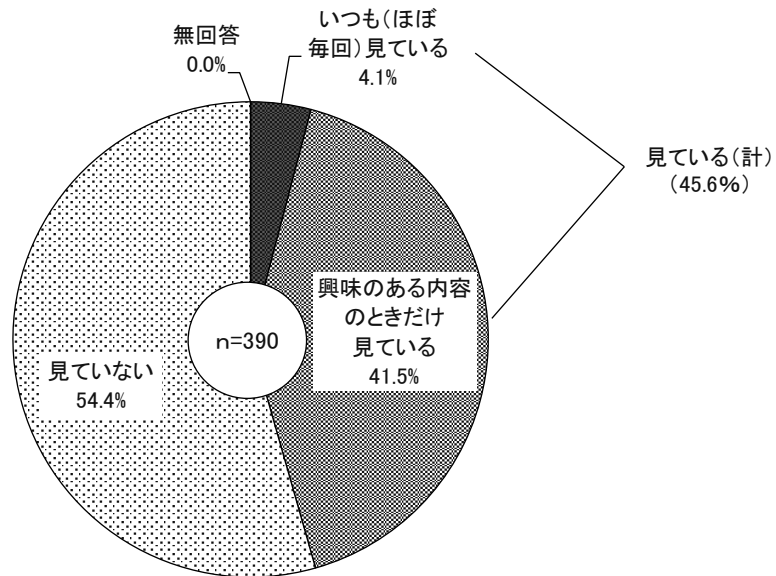
(16-1) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度

◇『見ている』が4割台半ば

(問19で「1 知っている」と答えた方へ)

問19-1 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を見ていますか。

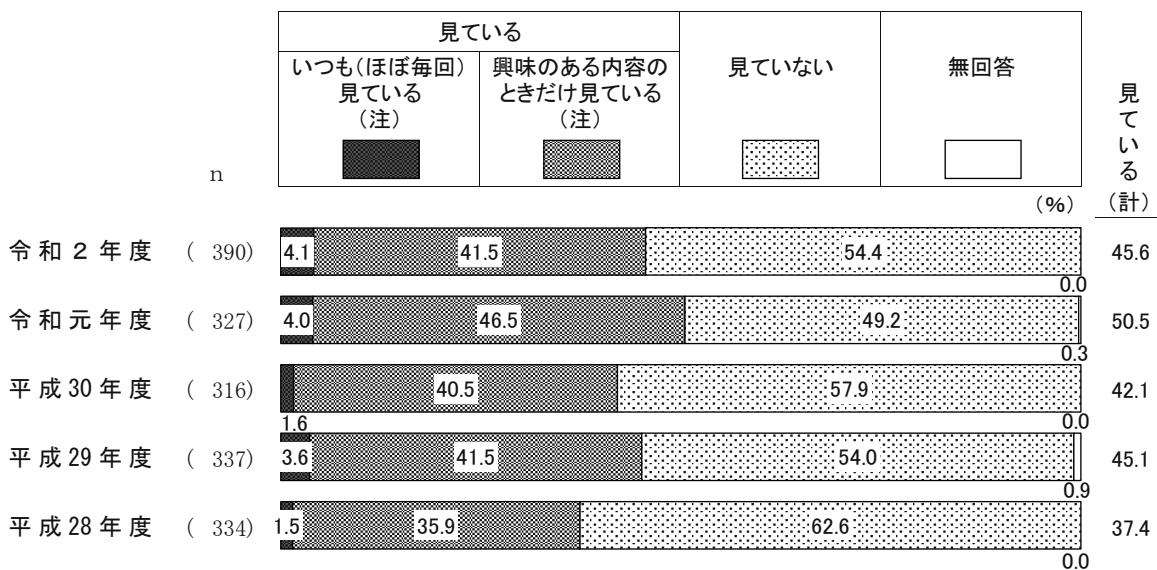
図1-16-4 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度



『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方(390人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(4.1%)と「興味のある内容のときだけ見ている」(41.5%)を合わせた『見ている』(45.6%)が4割台半ばとなっている。

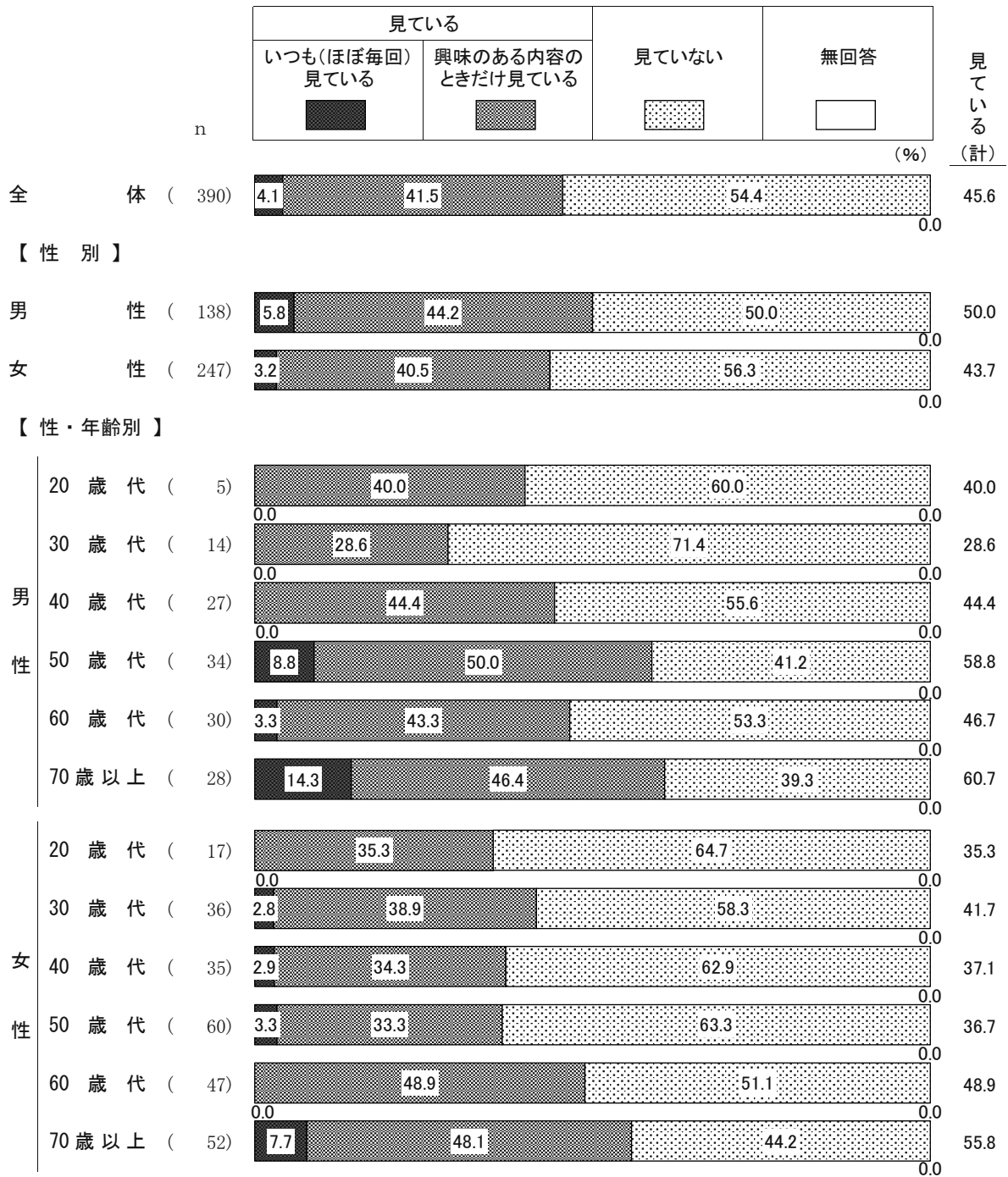
(図1-16-4)

図1-16-5 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度一過年度比較



過去の調査と比較すると、『見ている』は前回調査(令和元年度)より4.9ポイント減少している。(図1-16-5)

図1-16-6 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度—性別／性・年齢別



性別にみると、『見ている』は男性の方が6.3ポイント高く、5割となっている。

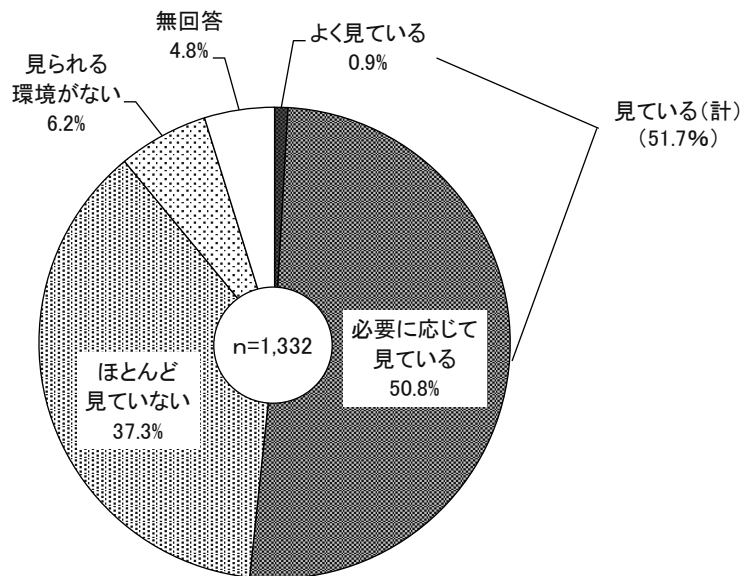
性・年齢別にみると、『見ている』は男性50歳代で6割近く、女性70歳以上で5割台半ばと多くなっている。(図1-16-6)

(17) 『区ホームページ』の閲覧状況

◇『見ている』が5割を超える

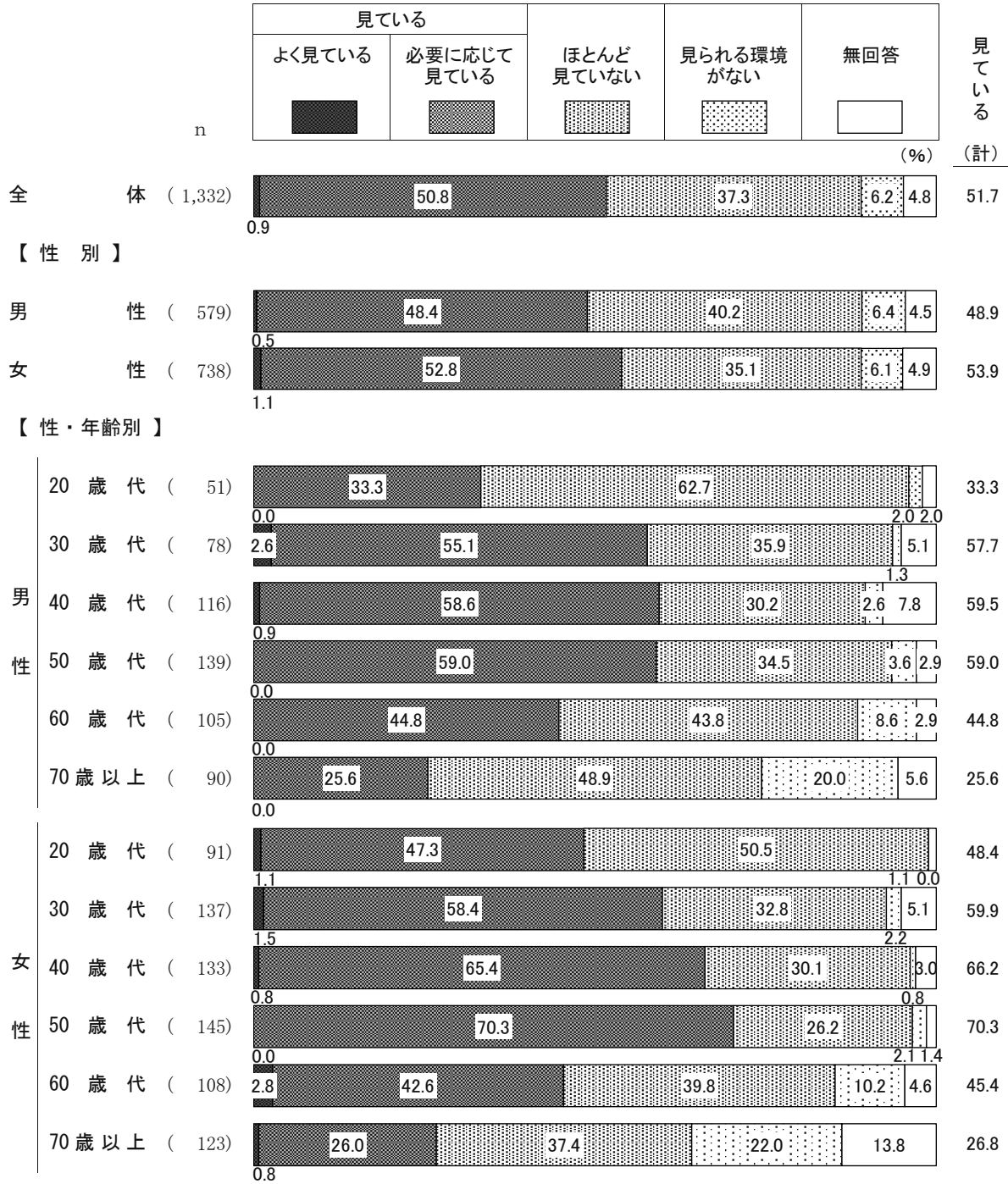
問20 あなたは、『区ホームページ』をどの程度閲覧していますか。(○は1つ)

図1-17-1 『区ホームページ』の閲覧状況



『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」(0.9%)と「必要に応じて見ている」(50.8%)を合わせた、『見ている』(51.7%)が5割を超えている。一方、「ほとんど見ていない」(37.3%)は4割近く、「見られる環境がない」(6.2%)は1割を下回っている。(図1-17-1)

図 1-17-2 『区ホームページ』の閲覧状況



性別にみると、『見ている』は女性の方が5.0ポイント高く、5割台前半となっている。

性・年齢別にみると、『見ている』は女性50歳代で約7割、女性40歳代で6割台半ばと多く
 となっている。(図1-17-2)

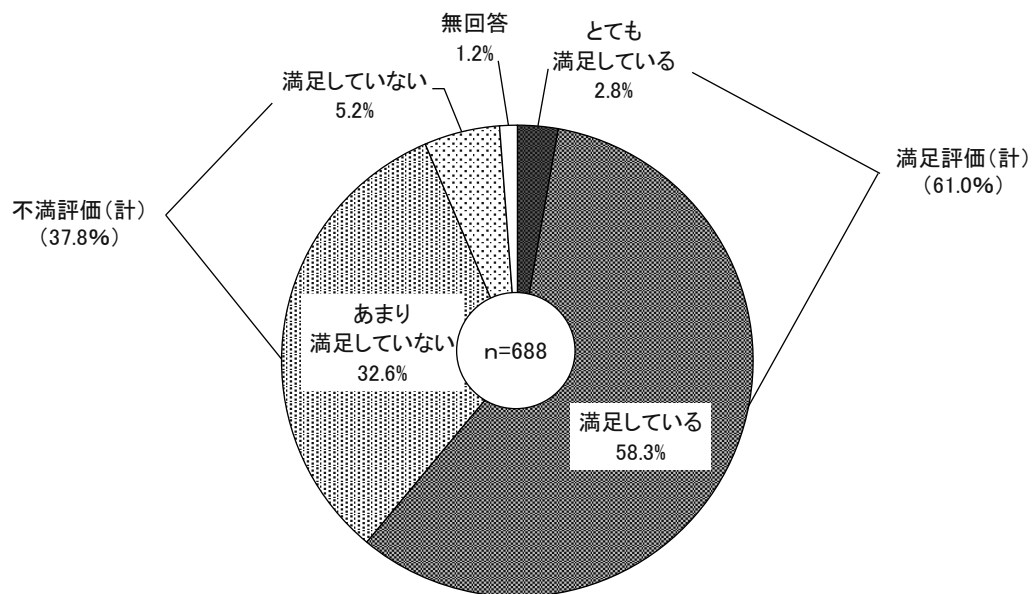
(17-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度

◇『満足評価』が6割を超える

(問20で「1 よく見ている」「2 必要に応じて見ている」と答えた方へ)

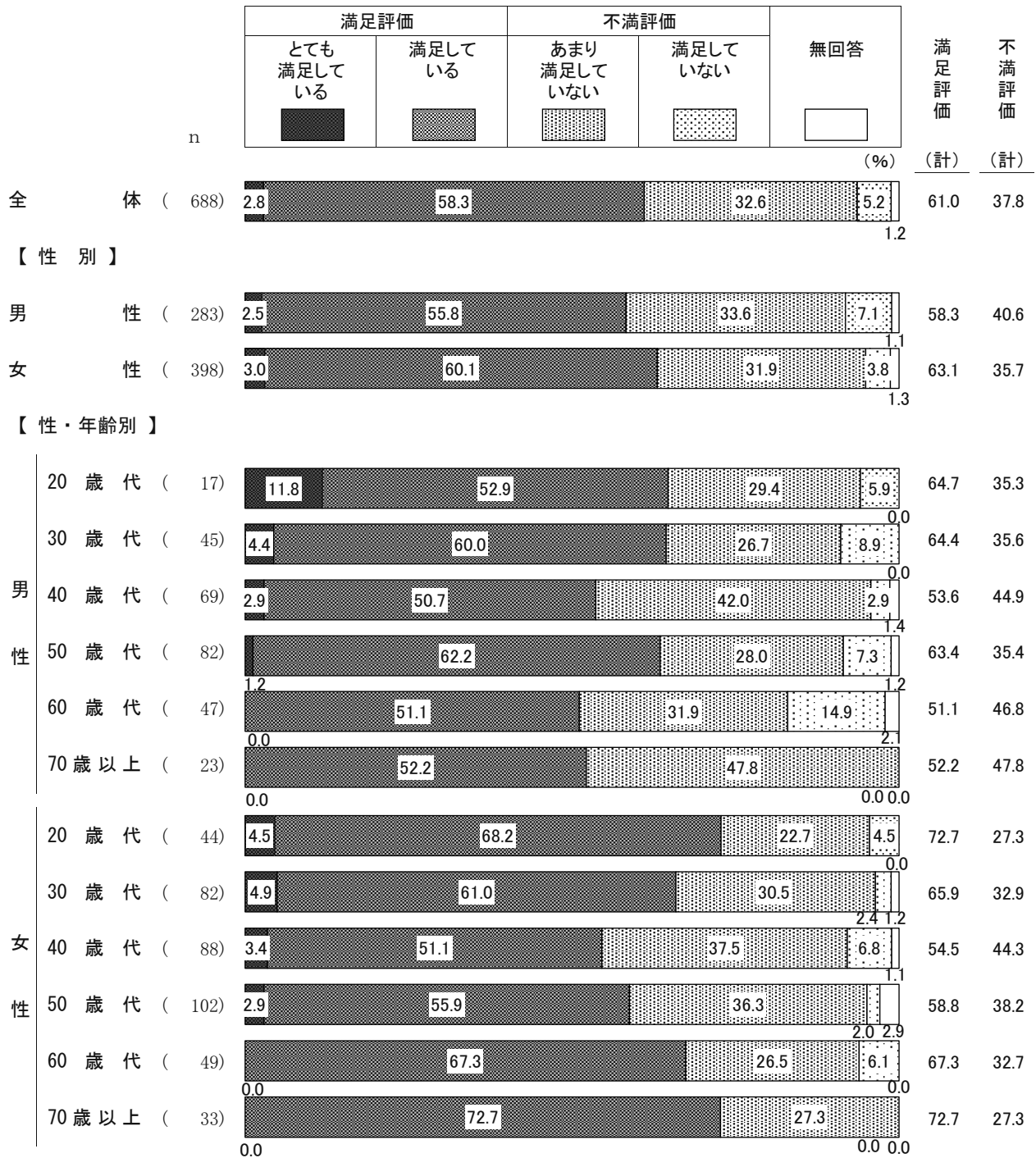
問20-1 『区ホームページ』で閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度はどの程度ですか。(○は1つ)

図1-17-3 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度



『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(688人)に閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(2.8%)と「満足している」(58.3%)を合わせた、『満足評価』(61.0%)が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」(32.6%)と「満足していない」(5.2%)を合わせた、『不満評価』(37.8%)は4割近くとなっている。(図1-17-3)

図1-17-4 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度



性別にみると、『満足評価』は女性の方が4.8ポイント高く、6割台前半となっている。

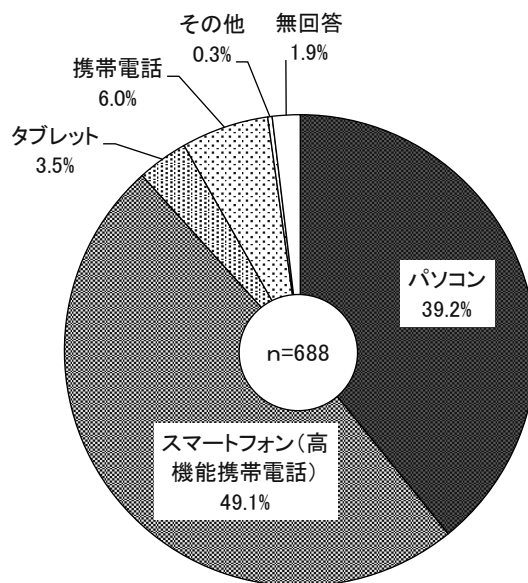
性・年齢別にみると、『満足評価』は女性20歳代・70歳以上で7割を超え、女性60歳代で7割近くとなっている。(図1-17-4)

(17-2) 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器

◇「スマートフォン（高性能携帯電話）」が約5割

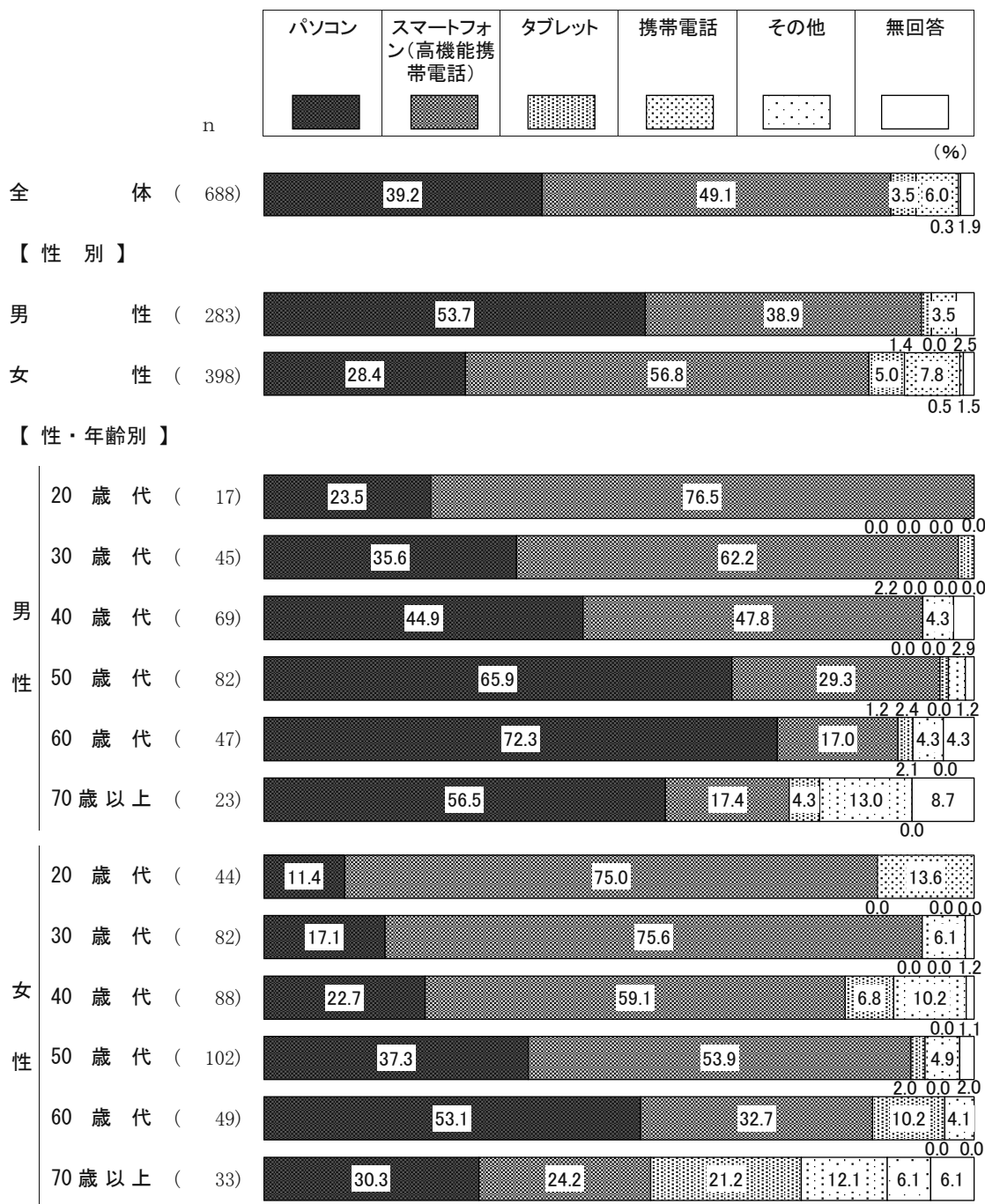
(問20で「1 よく見ている」「2 必要に応じて見ている」と答えた方へ)
問20-2 『区ホームページ』を閲覧する際に、主に利用している機器は何ですか。
(○は1つ)

図1-17-5 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器



『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(688人)に閲覧時に主に利用している機器を聞いたところ、「スマートフォン(高性能携帯電話)」(49.1%)が約5割と最も多く、次いで「パソコン」(39.2%)が約4割、「携帯電話」(6.0%)、「タブレット」(3.5%)の順となっている。(図1-17-5)

図 1-17-6 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器—性別／性・年齢別



性別にみると、「パソコン」は男性の方が25.3ポイント高く、5割台前半となっており、「スマートフォン（高性能携帯電話）」は女性の方が17.9ポイント高く、5割台半ばとなっている。

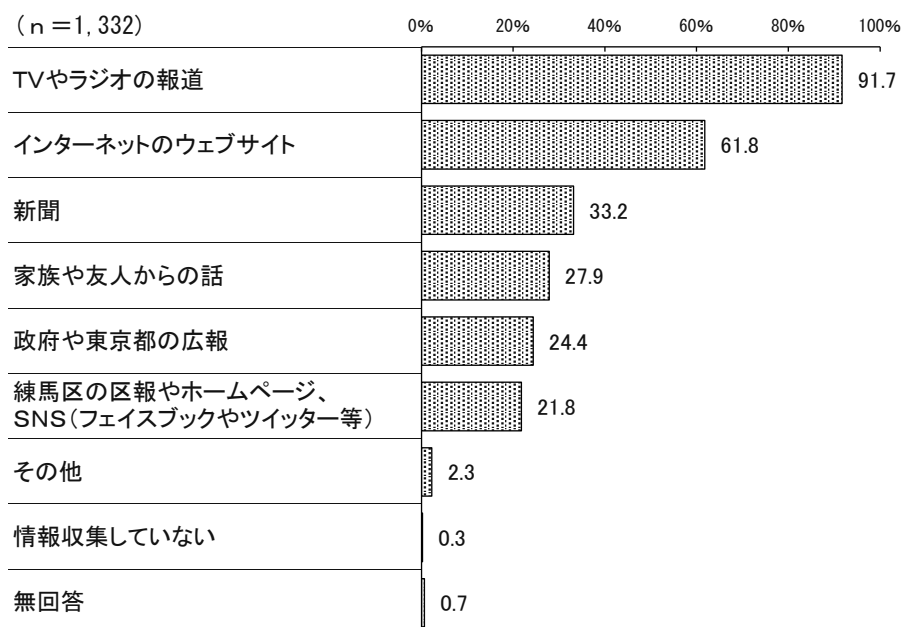
性・年齢別にみると、「パソコン」は男女ともに60歳代までの年代で年代が上がるほど割合が多く、男性60歳代で7割を超えている。一方、「スマートフォン（高性能携帯電話）」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多く、男性20歳代、女性20歳代・30歳代で7割台半ばとなっている。（図1-17-6）

(18) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路

◇「TVやラジオの報道」が9割を超える

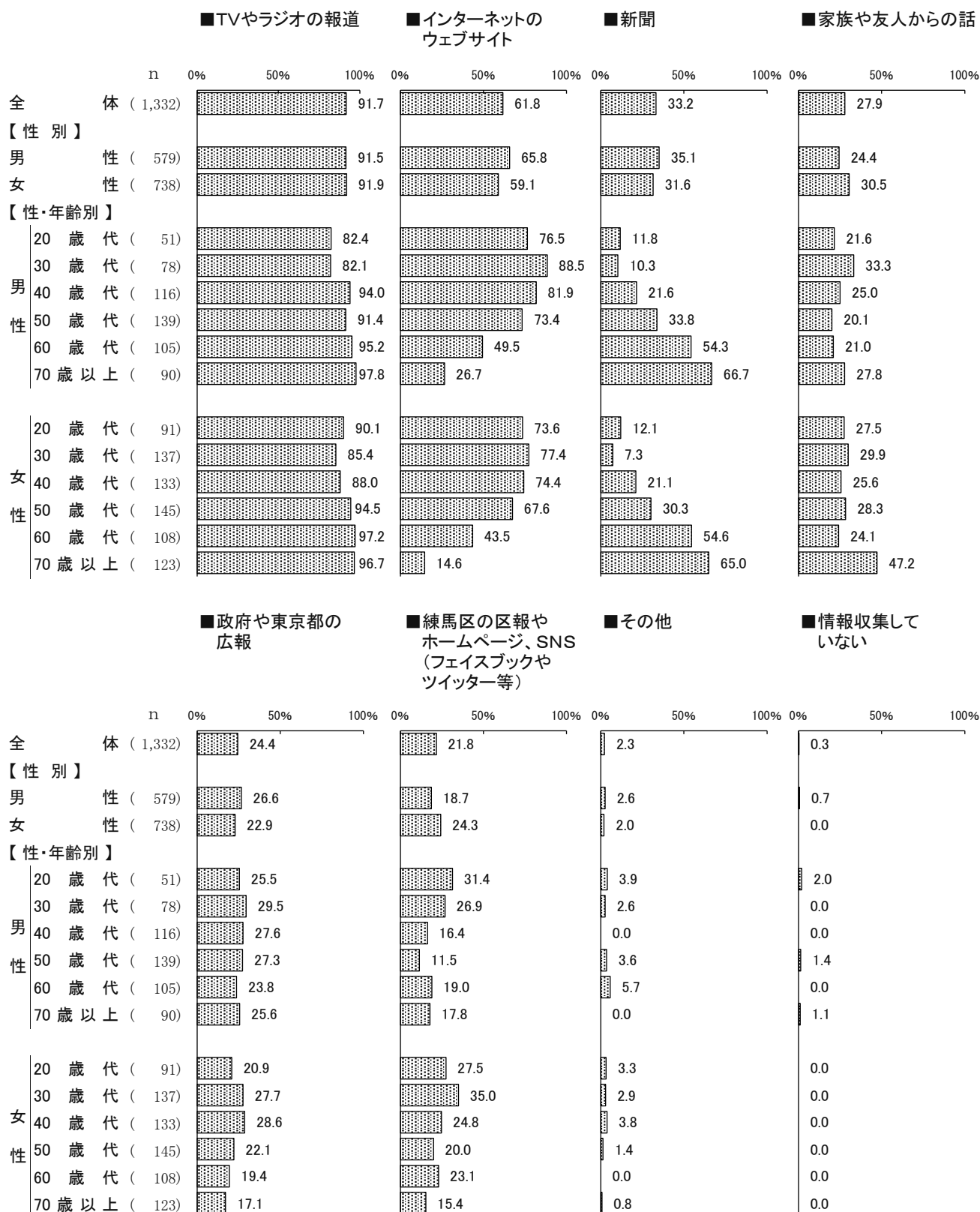
問21 あなたは、新型コロナウイルス感染症に関する情報を何から入手していますか。
次の中から選んでください。（〇は3つまで）

図1-18-1 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路



新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路を聞いたところ、「TVやラジオの報道」（91.7%）が9割を超えて最も多く、次いで「インターネットのウェブサイト」（61.8%）、「新聞」（33.2%）、「家族や友人からの話」（27.9%）、「政府や東京都の広報」（24.4%）などの順となっている。（図1-18-1）

図1-18-2 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路—性別／性・年齢別



性別にみると、「インターネットのウェブサイト」は男性の方が6.7ポイント高く、6割台半ばとなっている。「家族や友人からの話」は女性の方が6.1ポイント高く、約3割となっている。

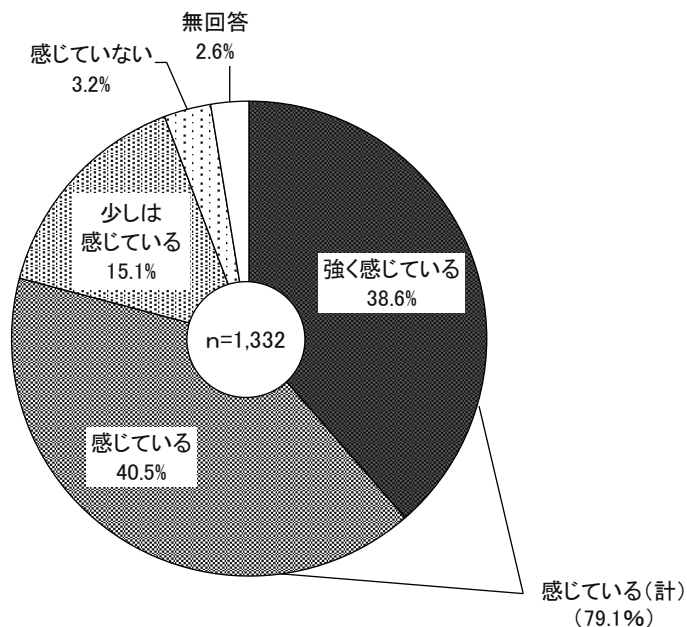
性・年齢別にみると、「インターネットのウェブサイト」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多く、男性30歳代で9割近くとなっている。「新聞」は男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多く、男性70歳以上、女性70歳以上で6割台半ばとなっている。(図1-18-2)

(19) 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度

◇『感じている』が約8割

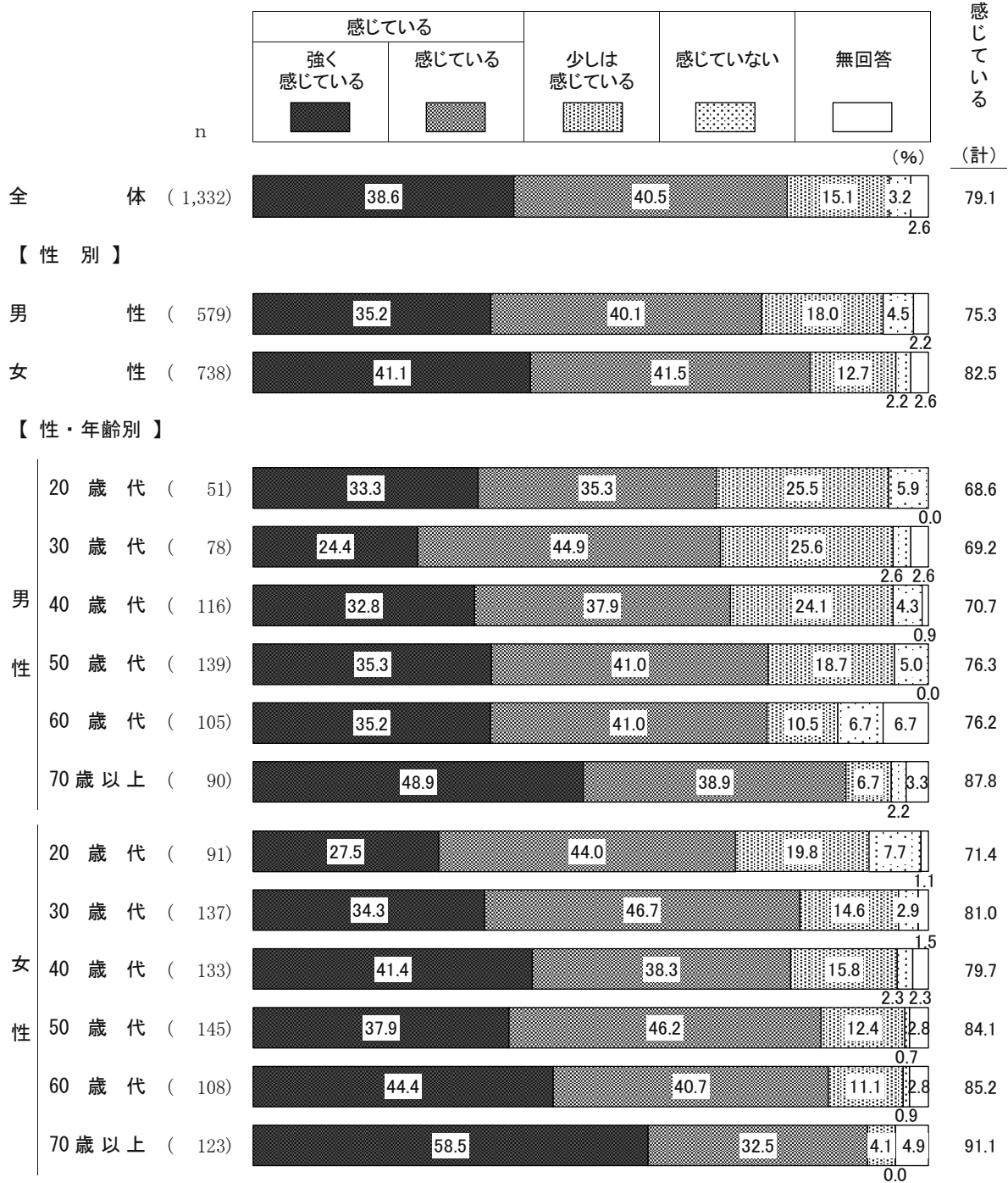
問22 あなたは、新型コロナウイルス感染症に対してどの程度不安を感じていますか。
(○は1つ)

図1-19-1 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度



新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度を聞いたところ、「強く感じている」(38.6%)と「感じている」(40.5%)を合わせた『感じている』(79.1%)は約8割となっている。一方、「感じていない」(3.2%)は1割を下回っている。(図1-19-1)

図 1-19-2 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度—性別／性・年齢別



性別にみると、「強く感じている」は女性の方が5.9ポイント高く、4割を超えている。

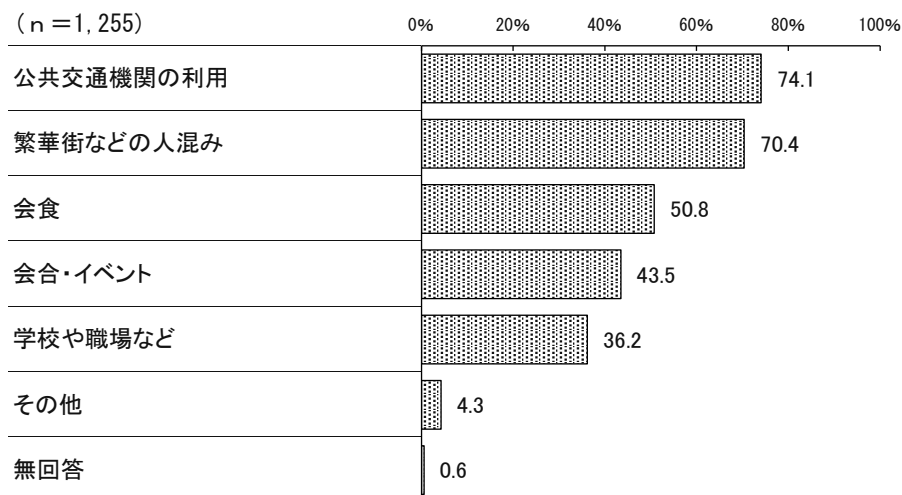
性・年齢別にみると、「強く感じている」は男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多く、女性70歳以上で6割近く、男性70歳以上で5割近くと多くなっている。一方、「少しは感じている」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多く、男性20歳代・30歳代・40歳代で2割台半ばとなっている。(図1-19-2)

(19-1) 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる場面

◇「公共交通機関の利用」が7割台半ば

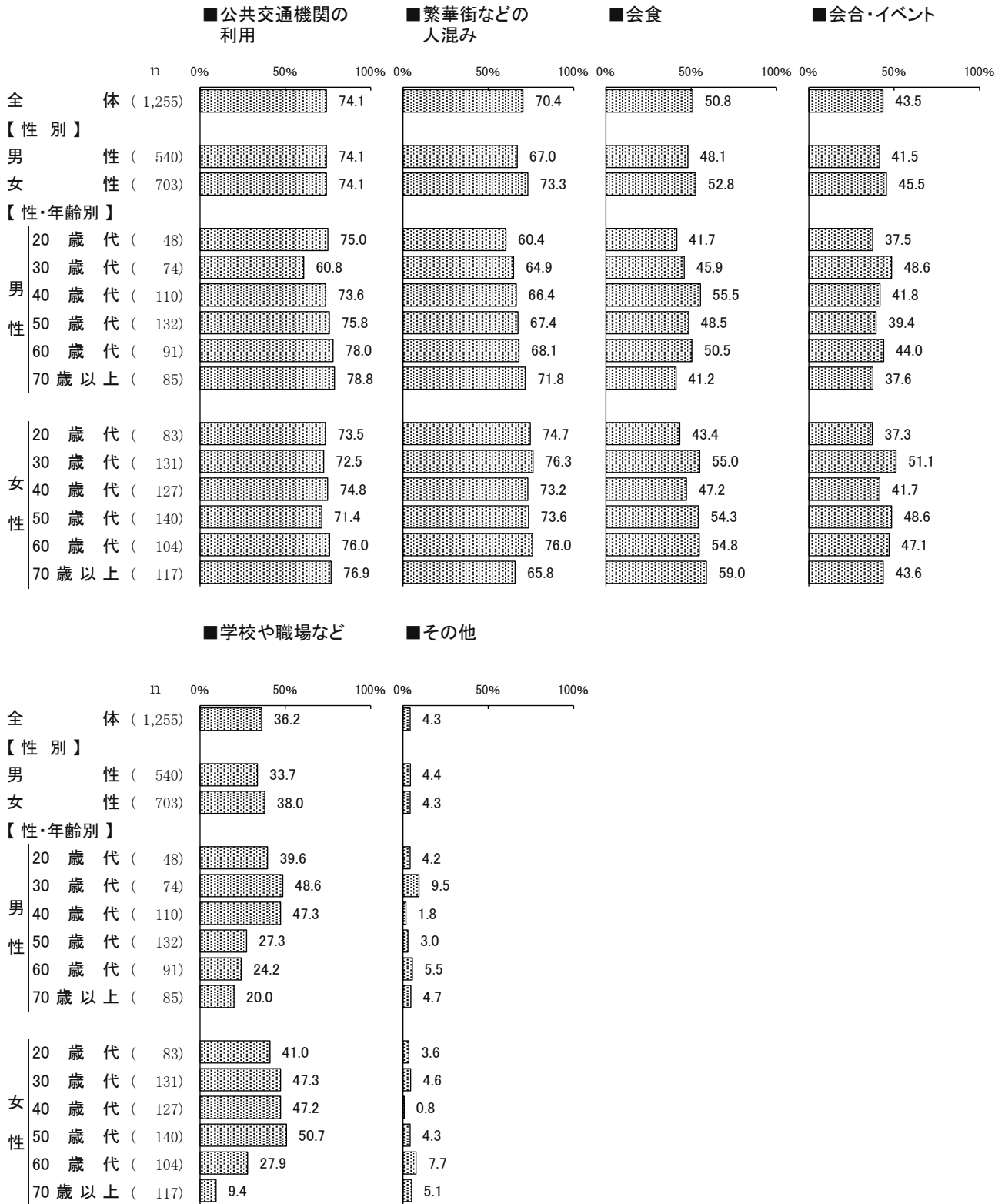
(問22で「1 強く感じている」「2 感じている」「3 少しは感じている」と答えた方へ)
問22-1 不安を感じるのは、どのような場面ですか。(〇はいくつでも)

図1-19-3 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる場面



新型コロナウイルス感染症に対して不安を「強く感じている」「感じている」「少しは感じている」と答えた方(1,255人)に、不安を感じる場面を聞いたところ、「公共交通機関の利用」(74.1%)が7割台半ばと最も多く、次いで「繁華街などの人混み」(70.4%)、「会食」(50.8%)、「会合・イベント」(43.5%)などの順となっている。(図1-19-3)

図1-19-4 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる場面－性別／性・年齢別



性別にみると、「繁華街などの人混み」は女性の方が6.3ポイント高く、7割を超えている。「会食」は女性の方が4.7ポイント高く、5割を超えている。

性・年齢別にみると、「繁華街などの人混み」は男性は年代が上がるほど割合が多く、男性70歳以上で7割を超えている。「会合・イベント」は女性30歳代で5割を超えている。

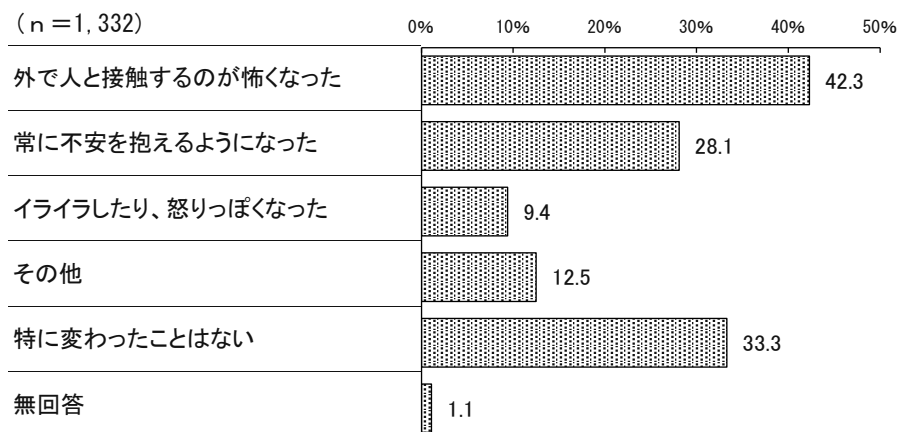
(図1-19-4)

(20) 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての精神的・身体的な変化

◇「外で人と接触するのが怖くなった」が4割を超える

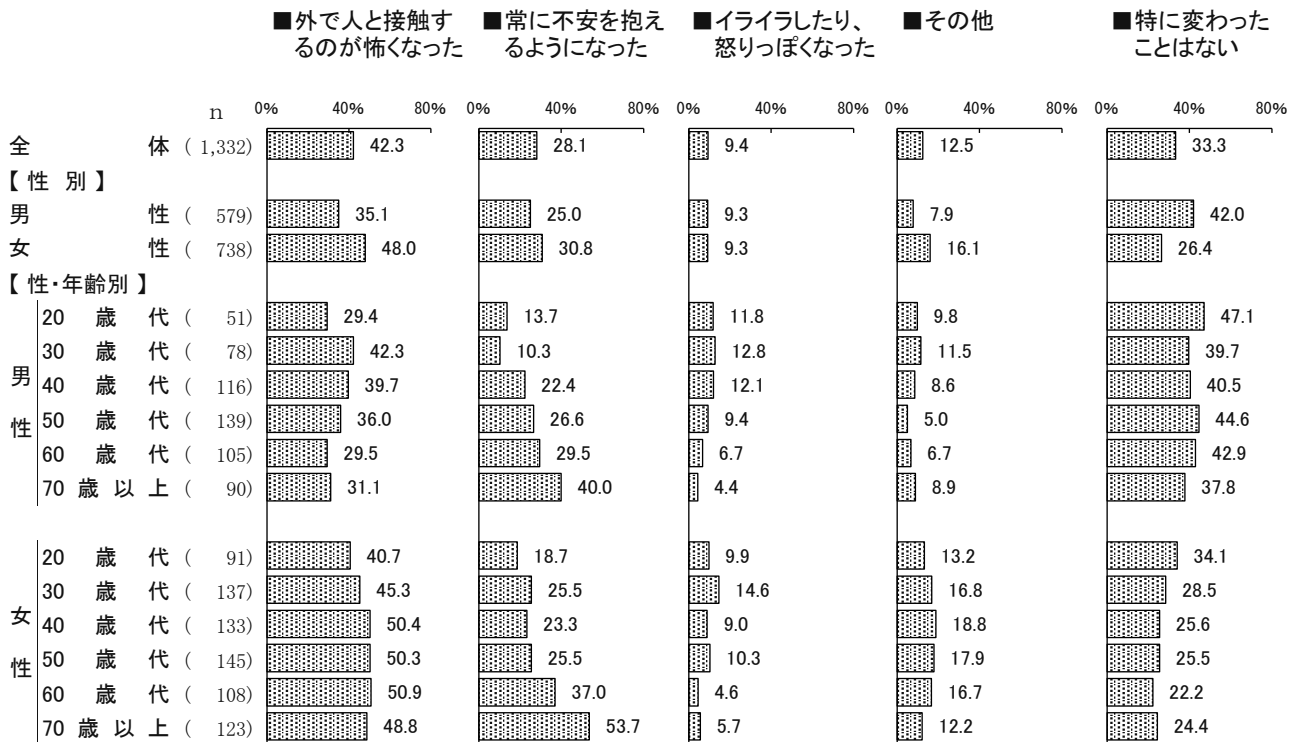
問23 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べて、精神的・身体的に変化はありましたか。(〇はいくつでも)

図1-20-1 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての精神的・身体的な変化



「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての精神的・身体的な変化を聞いたところ、「外で人と接触するのが怖くなった」(42.3%)が4割を超えて最も多く、次いで「常に不安を抱えるようになった」(28.1%)が3割近く、「イライラしたり、怒りっぽくなった」(9.4%)が約1割となっている。一方、「特に変わったことはない」(33.3%)は3割前半となっている。(図1-20-1)

図1-20-2 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての精神的・身体的な変化—性別／性・年齢別



性別にみると、「外で人と接触するのが怖くなった」は女性の方が12.9ポイント高く、5割近くとなっている。「常に不安を抱えるようになった」は女性の方が5.8ポイント高く、約3割となっている。一方、「特に変わったことはない」は男性の方が15.6ポイント高く、4割台前半となっている。

性・年齢別にみると、「外で人と接触するのが怖くなった」は女性40歳代・50歳代・60歳代で約5割となっている。「常に不安を抱えるようになった」は男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多く、女性70歳以上で5割を超え、男性70歳以上で4割となっている。一方、「特に変わったことはない」は男性20歳代で5割近く、女性20歳代で3割台半ばとなっている。

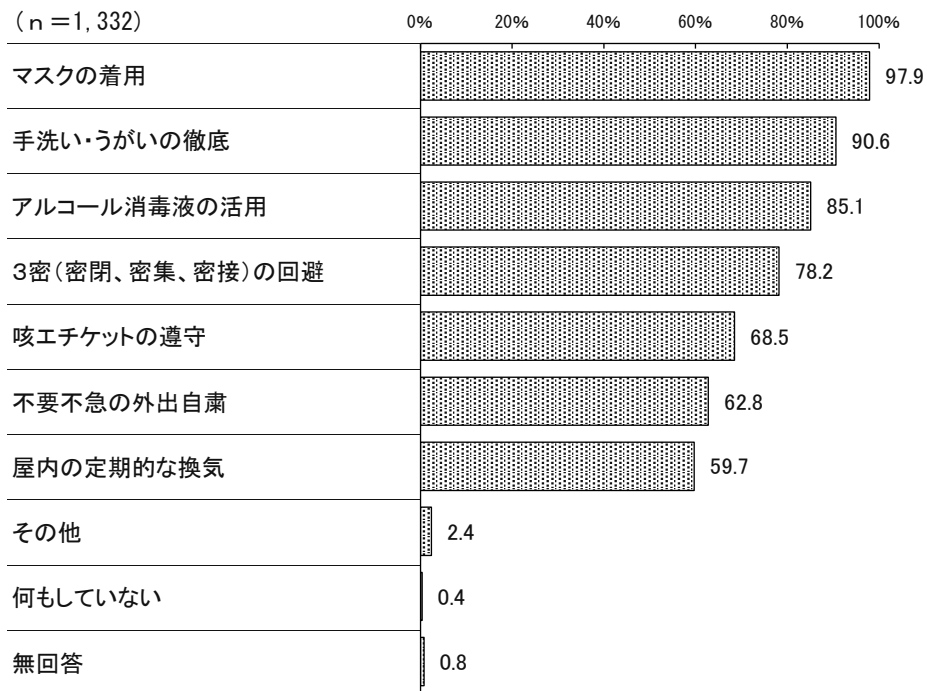
(図1-20-2)

(21) 新型コロナウイルス感染症に対する対策

◇「マスクの着用」が最も多い

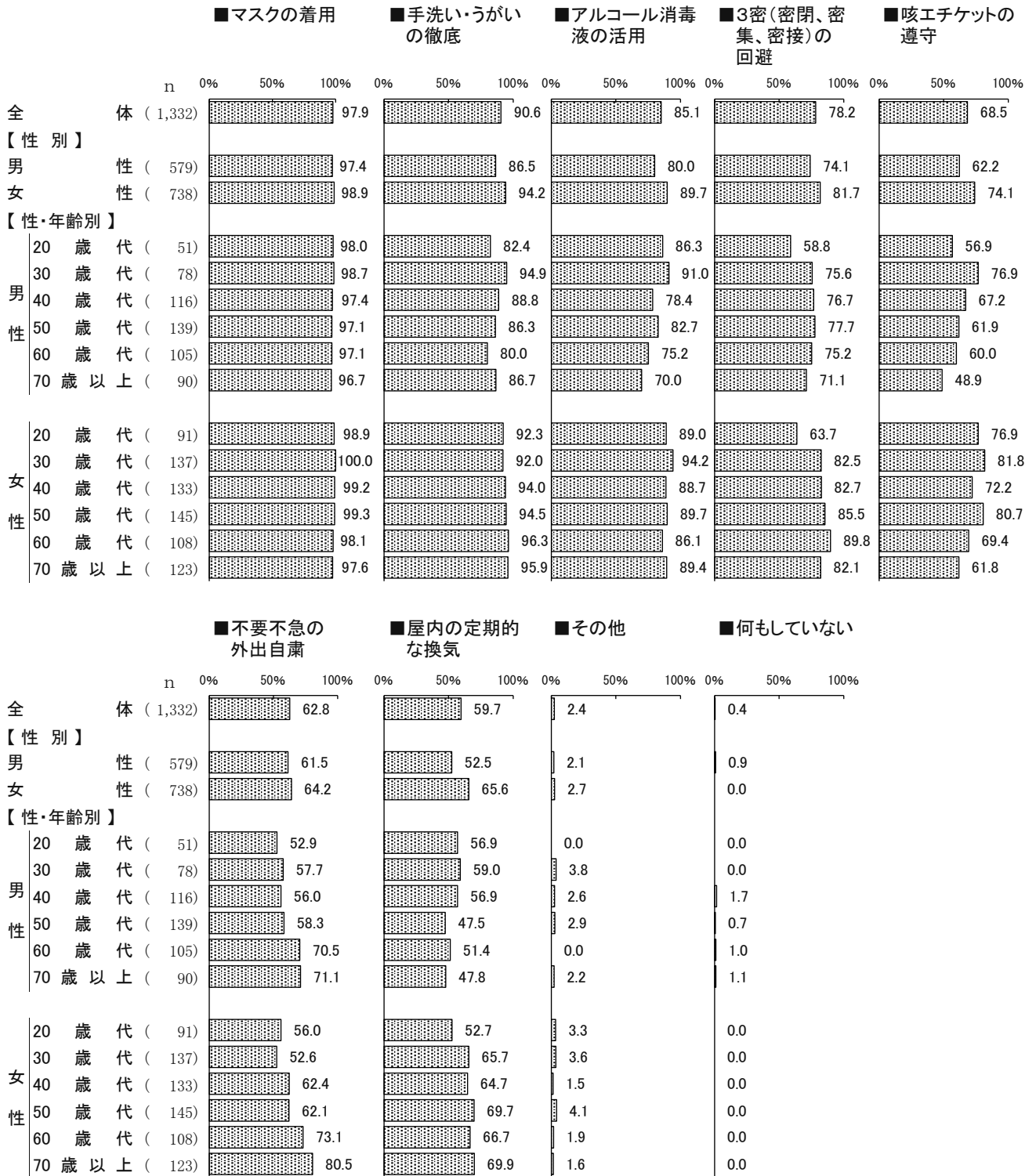
問24 あなたは新型コロナウイルス感染症について、どのような対策をしていますか。
(〇はいくつでも)

図1-21-1 新型コロナウイルス感染症に対する対策



新型コロナウイルス感染症に対する対策を聞いたところ、「マスクの着用」(97.9%)が最も多く、次いで「手洗い・うがいの徹底」(90.6%)、「アルコール消毒液の活用」(85.1%)、「3密(密閉、密集、密接)の回避」(78.2%)、「咳エチケットの遵守」(68.5%)などの順となっている。(図1-21-1)

図1-21-2 新型コロナウイルス感染症に対する対策 —性別／性・年齢別



性別にみると、「屋内の定期的な換気」は女性の方が13.1ポイント高く、6割台半ばとなっている。「咳エチケットの遵守」は女性の方が11.9ポイント高く、7割台半ばとなっている。また、「アルコール消毒液の活用」は女性の方が9.7ポイント高く、約9割となっている。

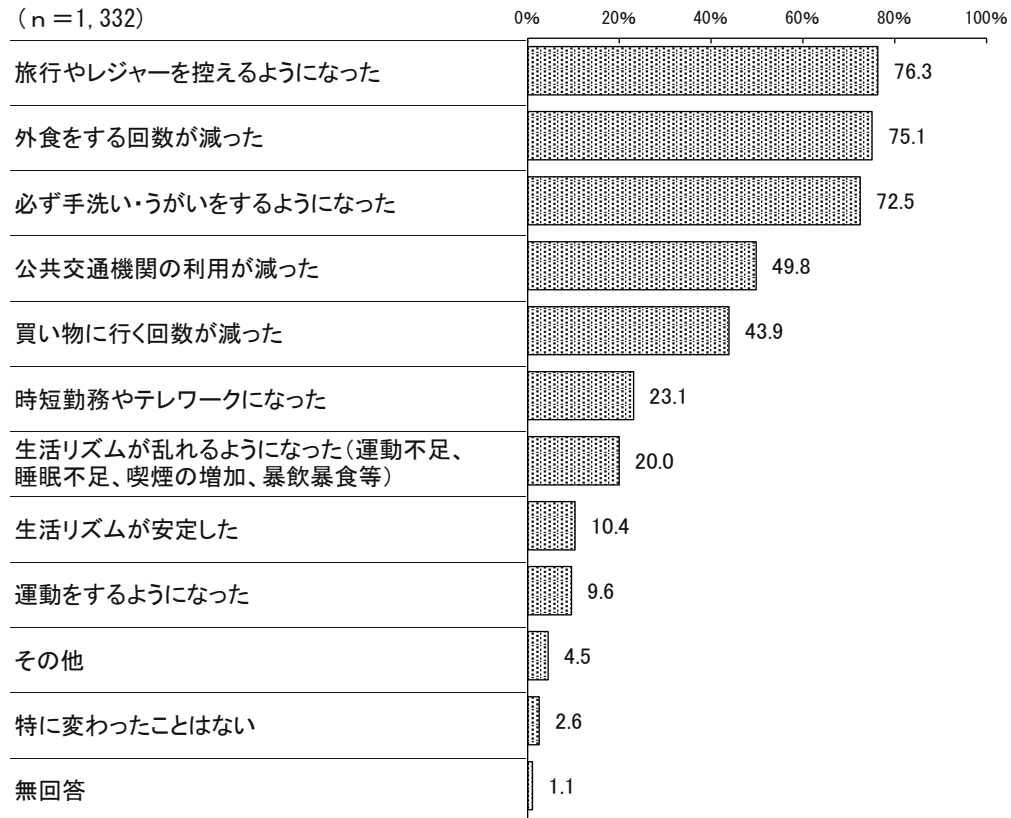
性・年齢別にみると、「不要不急の外出自粛」は男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多く、女性70歳以上で約8割、男性60歳代・70歳以上、女性60歳代で7割台前半となっている。「3密(密閉、密集、密接)の回避」は男性20歳代で6割近く、女性20歳代で6割台前半と少なくなっている。(図1-21-2)

(22) 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての日常生活の変化

◇「旅行やレジャーを控えるようになった」「外食をする回数が減った」が7割台半ば

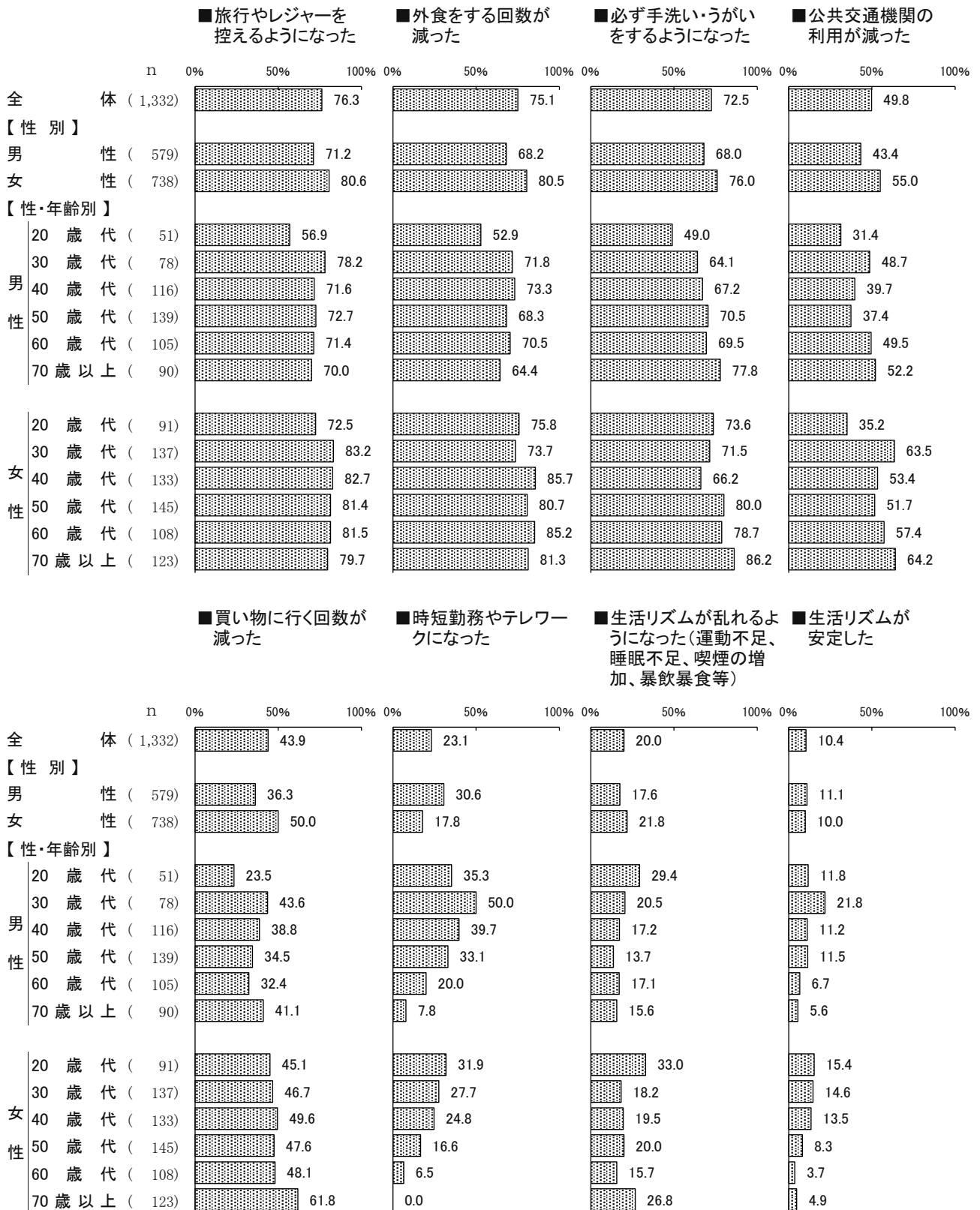
問25 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べて日常生活に変化はありましたか。(○はいくつでも)

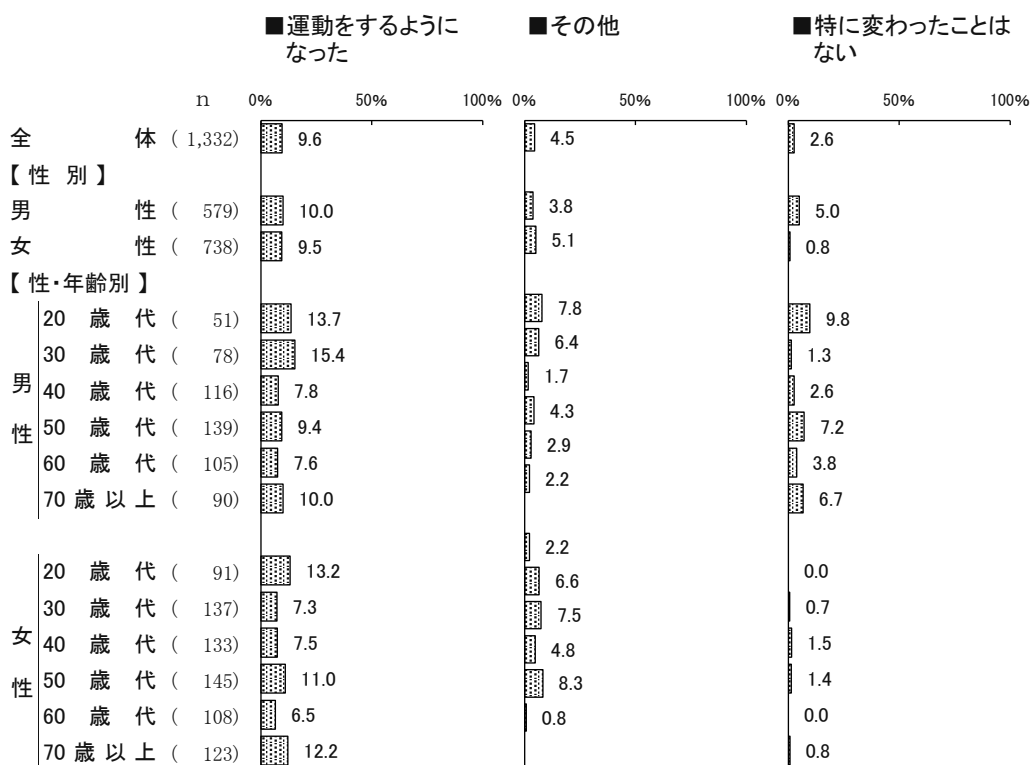
図1-22-1 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての日常生活の変化



「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての日常生活の変化を聞いたところ、「旅行やレジャーを控えるようになった」(76.3%)が7割台半ばと最も多く、次いで「外食をする回数が減った」(75.1%)、「必ず手洗い・うがいをするようになった」(72.5%)、「公共交通機関の利用が減った」(49.8%)、「買い物に行く回数が減った」(43.9%)などの順となっている。(図1-22-1)

図1-22-2 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての日常生活の変化－性別／性・年齢別





性別にみると、「買い物に行く回数が減った」は女性の方が13.7ポイント高く、5割となっている。「時短勤務やテレワークになった」は男性の方が12.8ポイント高く、約3割となっている。「外食をする回数が減った」は女性の方が12.3ポイント高く、約8割となっている。「公共交通機関の利用が減った」は女性の方が11.6ポイント高く、5割台半ばとなっている。

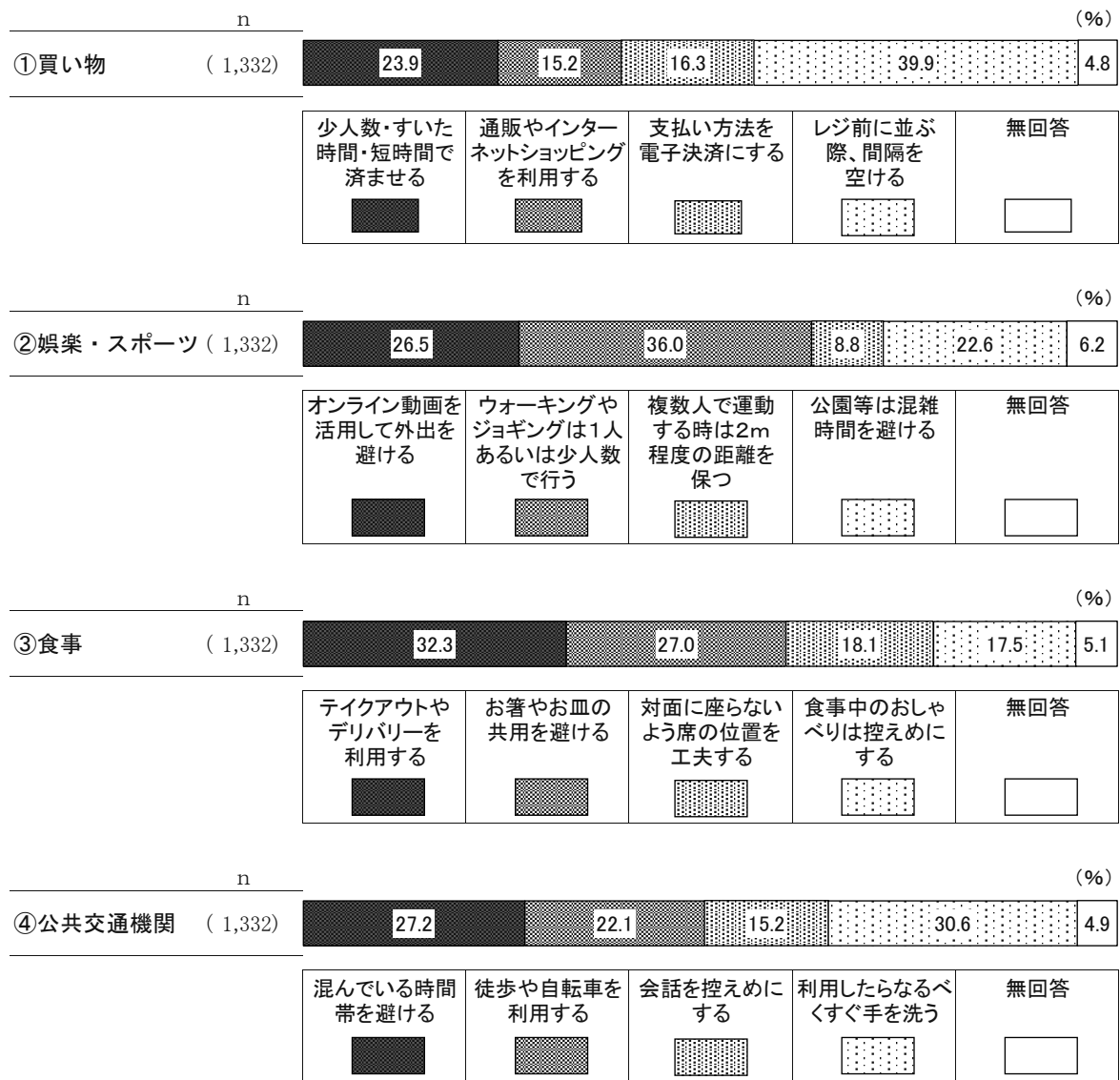
性・年齢別にみると、「外食をする回数が減った」は女性40歳代・60歳代で8割台半ば、「必ず手洗い・うがいをするようになった」は女性70歳以上で8割台半ば、「買い物に行く回数が減った」は女性70歳以上で6割を超えて多くなっている。また、「時短勤務やテレワークになった」は男性30歳代で5割となっている。(図1-22-2)

(23) 自分が一番できている（一番できそうな）日常生活の新しい生活様式

- ◇買い物は「レジ前に並ぶ際、間隔を空ける」が約4割
- ◇娯楽・スポーツは「ウォーキングやジョギングは1人あるいは少人数で行う」が3割台半ば
- ◇食事は「テイクアウトやデリバリーを利用する」が3割台前半
- ◇公共交通機関は「利用したらなるべくすぐ手を洗う」が約3割

問26 国が示している「日常生活の各場面別の新しい生活様式」について、自分が一番できているまたは一番できそうだと思うことを選んでください。
 (○はそれぞれ1つ)

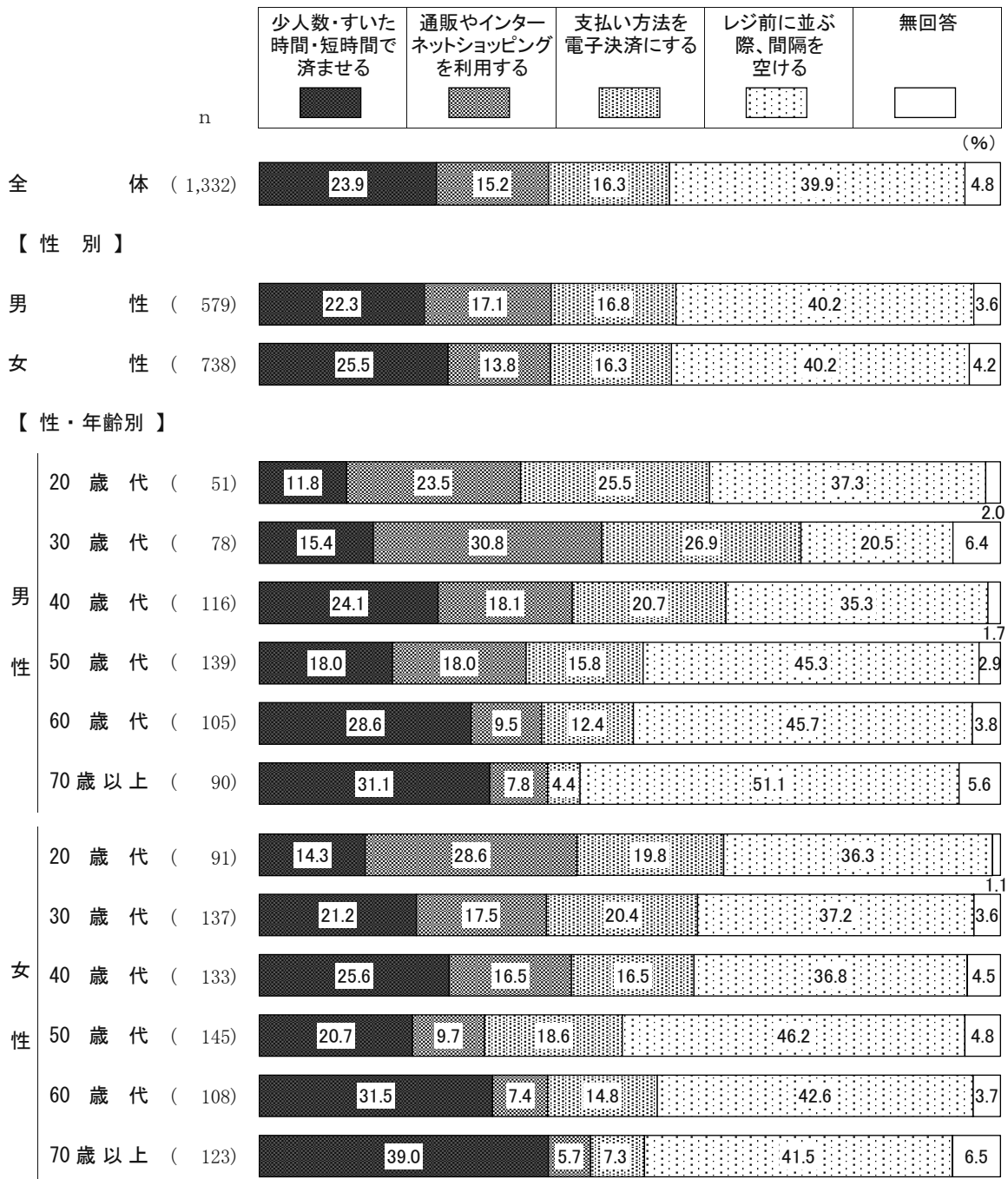
図1-23-1 自分が一番できている（一番できそうな）日常生活の新しい生活様式



国が示している「日常生活の各場面別の新しい生活様式」について自分が一番できているまたはできそうだと思うことを聞いたところ、買い物は「レジ前に並ぶ際、間隔を空ける」(39.9%)が約4割と最も多くなっている。娯楽・スポーツは「ウォーキングやジョギングは1人あるいは少人数で行う」(36.0%)が3割台半ばと最も多くなっている。食事は「テイクアウトやデリバリーを利用する」(32.3%)が3割台前半と最も多くなっている。公共交通機関は「利用したらなるべくすぐ手を洗う」(30.6%)が約3割と最も多くなっている。(図1-23-1)

図 1-23-2 自分が一番できている（一番できそうな）日常生活の新しい生活様式—性別／性・年齢別

①買い物

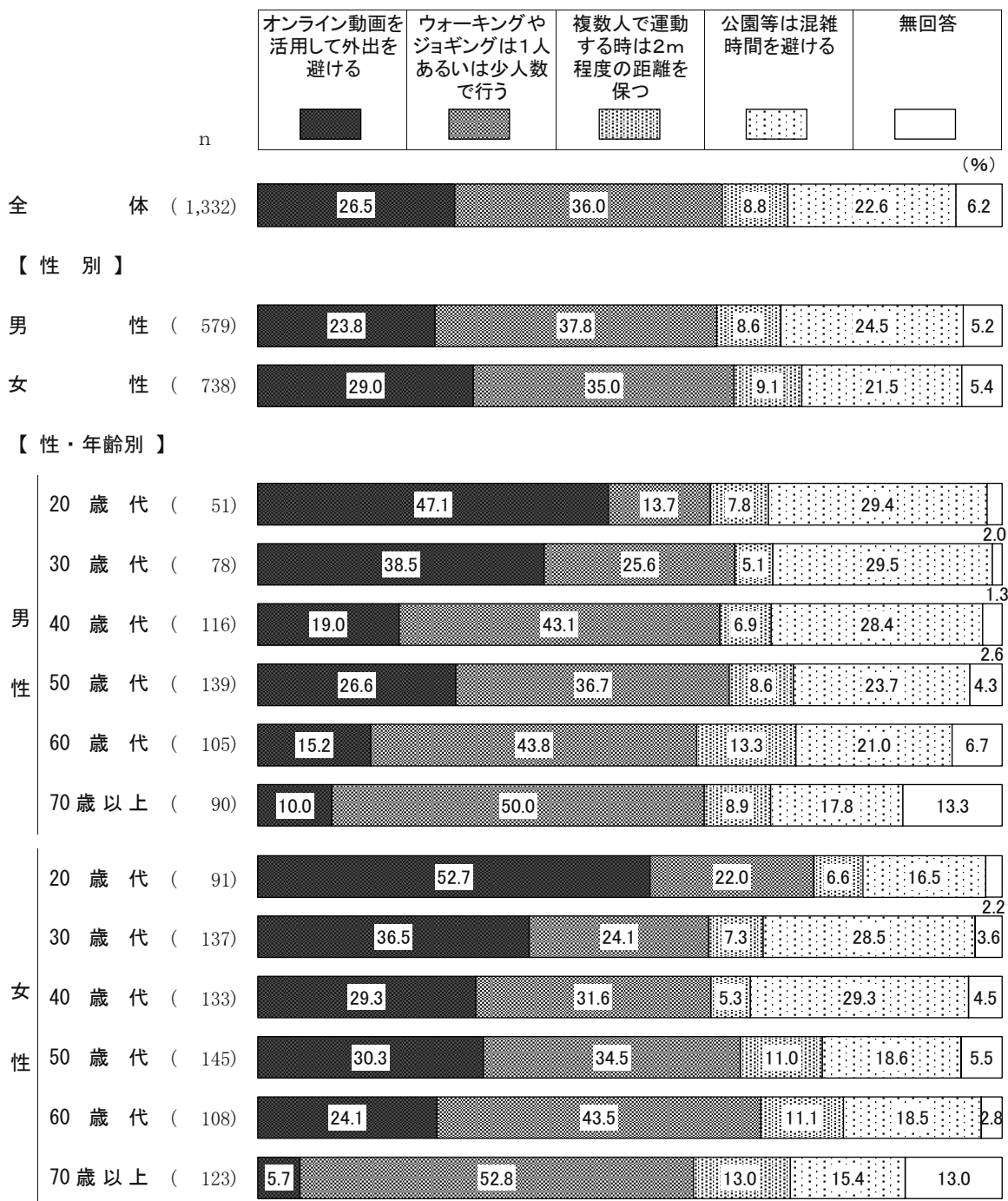


買い物について性別にみると、「通販やインターネットショッピングを利用する」は男性の方が3.3ポイント高く、2割近くとなっている。「少人数・すいた時間・短時間で済ませる」は女性の方が3.2ポイント高く、2割台半ばとなっている。

性・年齢別にみると、「少人数・すいた時間・短時間で済ませる」は男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多く、女性70歳以上で約4割となっている。「通販やインターネットショッピングを利用する」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多く、男性30歳代で約3割となっている。「支払い方法を電子決済にする」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多く、男性20歳代・30歳代で2割台半ばとなっている。（図 1-23-2）

図 1-23-3 自分が一番できている（一番できそうな）日常生活の新しい生活様式—性別／性・年齢別

② 娯楽・スポーツ

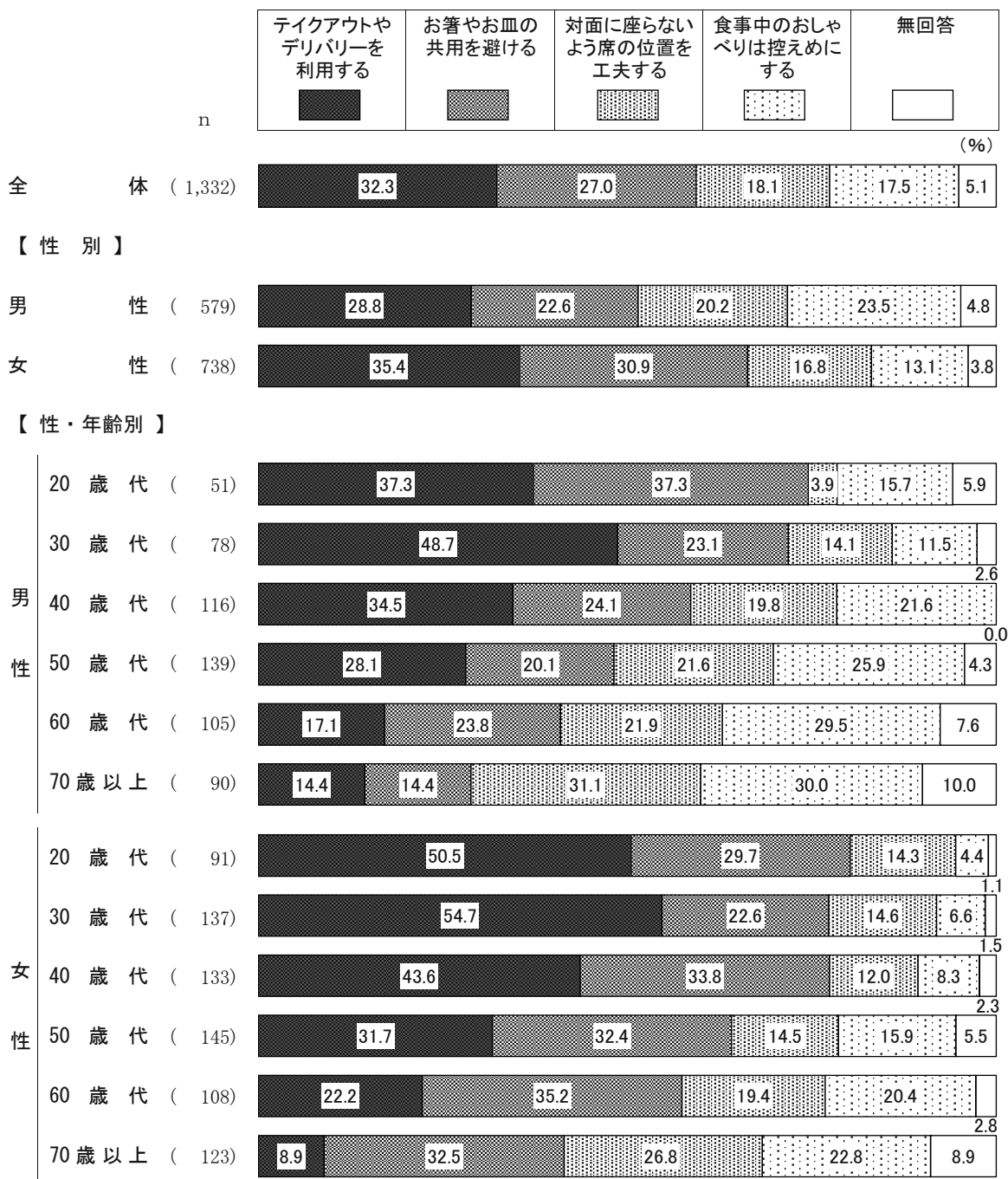


娯楽・スポーツについて性別にみると、「オンライン動画を活用して外出を避ける」は女性の方が5.2ポイント高く、約3割となっている。

性・年齢別にみると、「オンライン動画を活用して外出を避ける」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多く、女性20歳代で5割を超え、男性20歳代で5割近くと多くなっている。「ウォーキングやジョギングは1人あるいは少人数で行う」は概ね年代が上がるほど割合が多く、女性70歳以上、男性70歳以上で5割を超えて多くなっている。(図 1-23-3)

図1-23-4 自分が一番できている（一番できそうな）日常生活の新しい生活様式—性別／性・年齢別

③食事

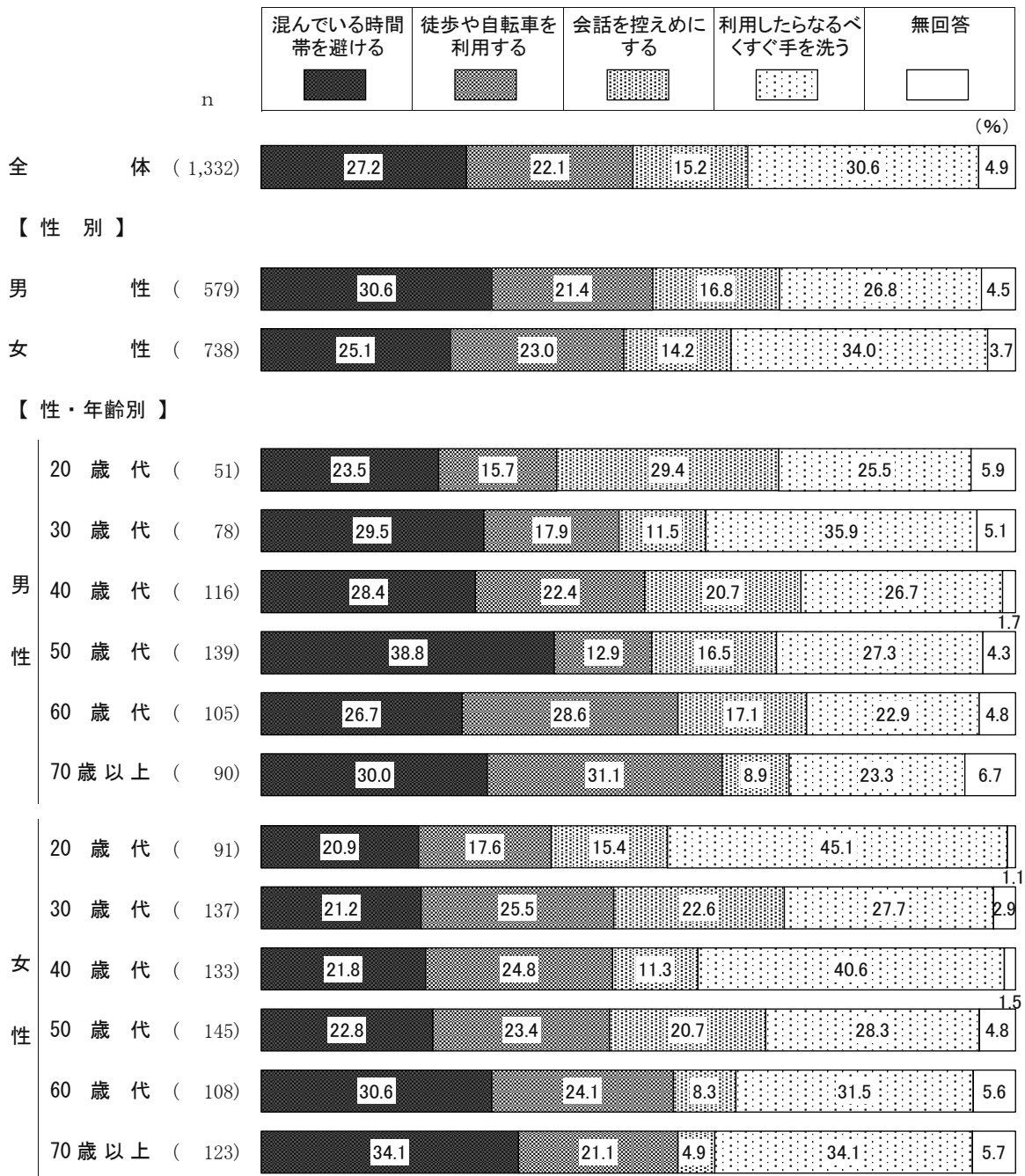


食事について性別にみると、「食事中のおしゃべりは控えめにする」は男性の方が10.4ポイント高く、2割を超えている。「お箸やお皿の共用を避ける」は女性の方が8.3ポイント高く、約3割となっている。「テイクアウトやデリバリーを利用する」は女性の方が6.6ポイント高く、3割台半ばとなっている。

性・年齢別にみると、「テイクアウトやデリバリーを利用する」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多く、女性20歳代・30歳代で5割を超え、男性30歳代で5割近くと多くなっている。「食事中のおしゃべりは控えめにする」は男女ともに概ね年代が上がるほど割合が多く、男性60歳代・70歳以上で約3割となっている。（図1-23-4）

図 1-23-5 自分が一番できている（一番できそうな）日常生活の新しい生活様式—性別／性・年齢別

④公共交通機関



公共交通機関について性別にみると、「利用したらなるべくすぐ手を洗う」は女性の方が7.2ポイント高く、3割台半ばとなっている。「混んでいる時間帯を避ける」は男性の方が5.5ポイント高く、約3割となっている。

性・年齢別にみると、「混んでいる時間帯を避ける」は男性50歳代で4割近くと多くなっている。「徒歩や自転車を利用する」は男性70歳以上で3割を超えている。「会話を控えるにする」は男性20歳代で約3割、「利用したらなるべくすぐ手を洗う」は女性20歳代で4割台半ばと多くなっている。(図1-23-5)

